



J

デジタルサウンドプロジェクター

YSP-5600

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに保管してください。
- 保証書に「購入日、製品名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

ご使用前に本書の「安全上のご注意」(109 ~ 112 ページ) を必ずお読みください。

保証書別添付

musicCast

もくじ

本機の特長

本機でできること	4
付属品の確認	6
リモコンの準備	6
各部の名称とはたらき	7

準備する

再生までの基本的な流れ	10
① 設置する	11
② テレビを接続する	21
③ 再生機器を接続する	22
④ その他の接続	24
サブウーファーを接続する	24
ネットワーク（有線）	24
⑤ 電源コードを接続する	25
⑥ はじめて使うときの設定	26
メニュー画面をテレビに表示する	26
サラウンド効果を自動設定する（インテリビーム）	28
テレビのリモコンで本機を操作する（HDMI コントロール機能）	33

4

再生する

再生の基本手順	35
お好みのサウンドを楽しむ	36
3D サラウンドで再生する	36
サラウンドで再生する	37
立体的なサラウンド音声を楽しむ（シネマ DSP 3D / シネマ DSP）	37
2 チャンネルで再生する（ステレオ再生）	39
特定の位置に音声を届ける（ターゲット再生）	39
MP3 などの圧縮音声を豊かに再生する（ミュージックエンハンサー）	40
人の声を明瞭に再生する（クリアボイス）	40
セリフが聞こえる位置を調整する（ダイアログリフト）	40
各チャンネルの音量を調整する	41
便利な機能を使う	42
二カ国語放送の音声を切り替える	42
エコ機能で節電する	42
前面ディスプレイに情報を表示する	42
システムメモリーに本機の設定を保存する	43
Bluetooth を使ってワイヤレス再生する	44
Bluetooth 機器の音楽を聞く（受信）	45
Bluetooth スピーカーやヘッドホンで楽しむ（送信）	47

35

36

37

37

39

39

40

40

40

41

42

42

42

43

44

45

47

ネットワークを活用する

48

ネットワーク機能について	48
ネットワークに接続する	49
有線ネットワークの接続	50
無線ネットワークの接続	50
モバイル端末を本機に直接接続する（ワイヤレスダイレクト）	57
パソコン（サーバー）の音楽ファイルを聞く	59
メディアの共有設定を行う	59
音楽ファイルを再生する	59
インターネットラジオを聞く	60
インターネットラジオ局を選ぶ	60
お気に入りのインターネットラジオ局を登録する	60
radiko.jp を聞く	62
放送局名から選局する	62
お気に入りの放送局を登録する	62
AirPlay で音楽を聞く	63
iTunes/iPod で曲を再生する	63
モバイル端末の音楽を聞く	65
モバイル端末で曲を再生する	65

設定する

66

設定メニュー	66
操作手順	66
設定メニューリスト	67
ビーム	69
サウンド	74
HDMI	76
表示	77
情報表示	78
ネットワーク	79
Bluetooth	82
操作手順	83
オプションメニューリスト	84
入力ごとの設定（オプションメニュー）	83

拡張メニュー

85

操作手順

85

拡張メニューリスト

86

本機のファームウェアを更新する

87

設定メニューの「ネットワークアップデート」から更新する

87

USB メモリーを本機に接続して更新する

88

付録

90

故障かな？と思ったら

90

全般

90

Bluetooth

94

リモコン

95

ネットワーク

96

前面ディスプレイのメッセージ

98

サラウンド感が得られないときは

99

YRB-100 の設置と調整

99

サラウンドの基礎知識

101

デジタルサウンドプロジェクターとは？

101

オブジェクトベースオーディオとは？

102

ヤマハの音声技術

102

用語 / 技術解説

103

音声 / 映像に関する用語

103

ネットワークに関する用語

104

主な仕様

105

安全上のご注意

109

索引

114

本機の特長

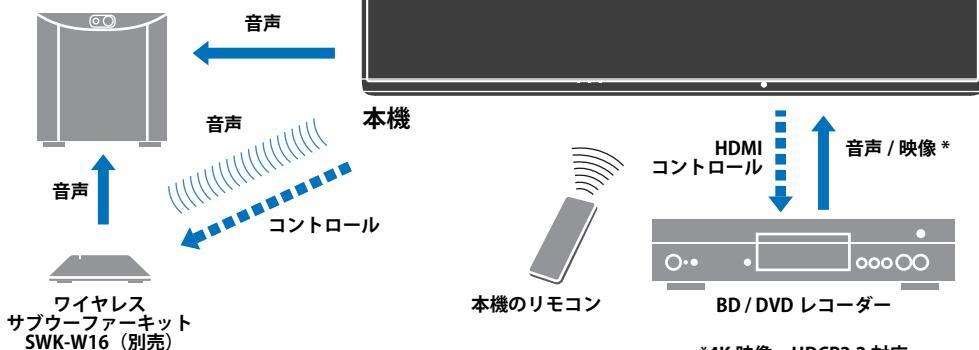
本機でできること

- 音声のビームを壁面や天井に反射させる、独自のリアルサウンド方式でお好みの音響空間を満喫
 - ・部屋に合わせてサラウンド効果を
かんたん自動調整（インテリビーム） 28 ページ
 - ・ハイトチャンネルによる頭上からの音を加え
た包囲感と臨場感のある音場（3D サラウンド） 36 ページ
 - ・映画館やコンサートホールさながらの
リアルな音場を立体的に再現
 - ・（シネマ DSP 3D/ シネマ DSP） 37 ページ
 - ・圧縮オーディオもダイナミックに再生
（ミュージックエンハンサー） 40 ページ
 - ・特定の位置に音声を届ける
（ターゲット再生） 39 ページ

テレビ、本機、BD/DVD レコーダーを連動操作 (HDMI ヨンタロール)

33 ページ

サブウーファー（別売または市販）



*4K 映像、HDCP2.2 対応

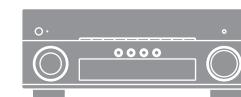
- ## 豊富な対応コンテンツ

- ・パソコン（サーバー）  59ページ
 - ・インターネットラジオ  60ページ
 - ・radiko.jp  62ページ
 - ・AirPlay  63ページ
 - ・モバイル端末  65ページ



パソコン（サーバー）

- ## MusicCast 対応機器



ホームネット ワークで音楽 を共有

- ## Bluetooth® 機器の音声を再生



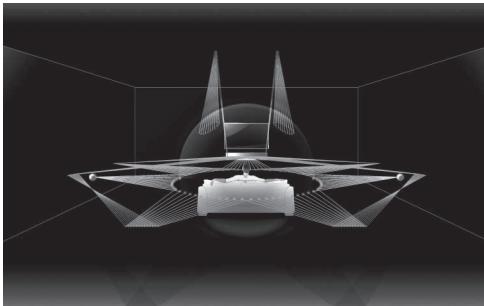
本機に入力した音声を
Bluetooth ヘッドホンや
スピーカーで聞く



本機1台でハイトチャンネルを含むリアル3Dサラウンドを実現

これまでのデジタルサウンドプロジェクターは、フロント（右、左）、センター、サラウンド（右、左）の5つの音声ビームにより、平面的な音場空間をつくり出しました。本機はそれに加えて上方に向かって2つの音声ビーム（ハイト右、左）を追加し、より包み込まれるような立体的な音場空間をつくり出します。また音声ソースとしてハイトチャンネルの音声信号を持つDTS:X、Dolby Atmosの再生に対応。さらにシネマDSP 3Dを採用し、より効果的な音場空間を提供します。

本機のサウンドイメージ



ダイアログリフト機能

映画などを鑑賞するときに、ナレーションやセリフなどの声が画面の中央から出ているように調整し、スクリーンの裏側にスピーカーが設置された映画館のように、会話と人物の動きに一体感が生まれます（40ページ）。

MusicCast CONTROLLERでネットワーク上の音楽を自在に再生

モバイル端末専用の無料アプリ「MusicCast CONTROLLER」で、スマートフォンなどのモバイル端末やサーバーの音楽、またはインターネットラジオなどを本機で楽しむことができます。また、ホームネットワークに接続された他のMusicCast機器に配信し、同時に再生できます。

詳しくは、付属の「MusicCastセットアップガイド」をご覧ください。

アプリについては、Apple Store または Google Play で「MusicCast CONTROLLER」を検索してください。

Bluetooth対応

Bluetoothに対応したモバイル端末などの音声を本機で再生できます。

また、音声送信機能により、Bluetooth対応のワイヤレスヘッドホンで音声を聞くこともできます。

HOME THEATER CONTROLLER(WLAN)で簡単操作

モバイル端末専用の無料アプリ「HOME THEATER CONTROLLER(WLAN)」を使うと、ビジュアルな画面で音声ビームを簡単に設定したり、モバイル端末で入力ソースの選択や音量の調節などができます。

アプリについては、Apple Store または Google Play で「HOME THEATER CONTROLLER(WLAN)」を検索してください。

ワイヤレスサブウーファーキット（別売）でサブウーファーを無線接続

本機はサブウーファーを有線で接続できますが、別売のワイヤレスサブウーファーキット（SWK-W16）を使うと、無線接続も可能です（24ページ）。



- ・本書ではiOSおよびAndroidが搭載された携帯端末を総称して「モバイル端末」と表記しています。必要な場合は、説明文中で携帯端末の種類を特定しています。

本書の記載について

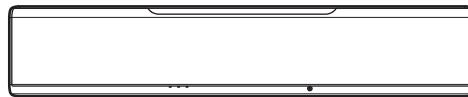
- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。

付属品の確認

ご使用になる前に、付属品がすべてそろっていることを確認してください。

YSP-5600

本体

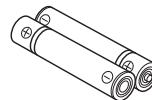


付属品

リモコン



単4乾電池 (2本)



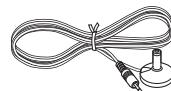
光ファイバーケーブル (1.5m)



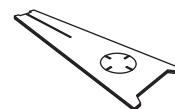
電源コード (2m)



インテリビームマイク (6m)



簡易マイクスタンド



転倒防止スタンド (2個)



ネジ (転倒防止スタンド用: 2個)



・取扱説明書 (本書)

・簡易接続・操作ガイド

・MusicCast セットアップガイド



・接続方法により、光ファイバーケーブルを使用しない場合があります。

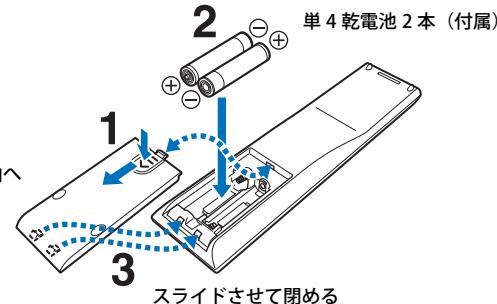
- では、知っておくと便利な補足情報を記載しています。

- では、使用上の注意点や機能上の制約を記載しています。

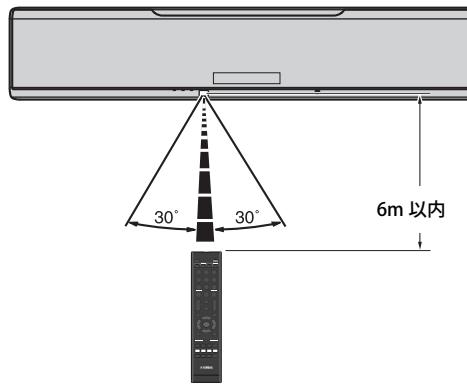
リモコンの準備

電池を入れる前やリモコンを使う前に、「安全上のご注意」の「電池」(110ページ)および「リモコン」(112ページ)をよくお読みください。

電池を入れる

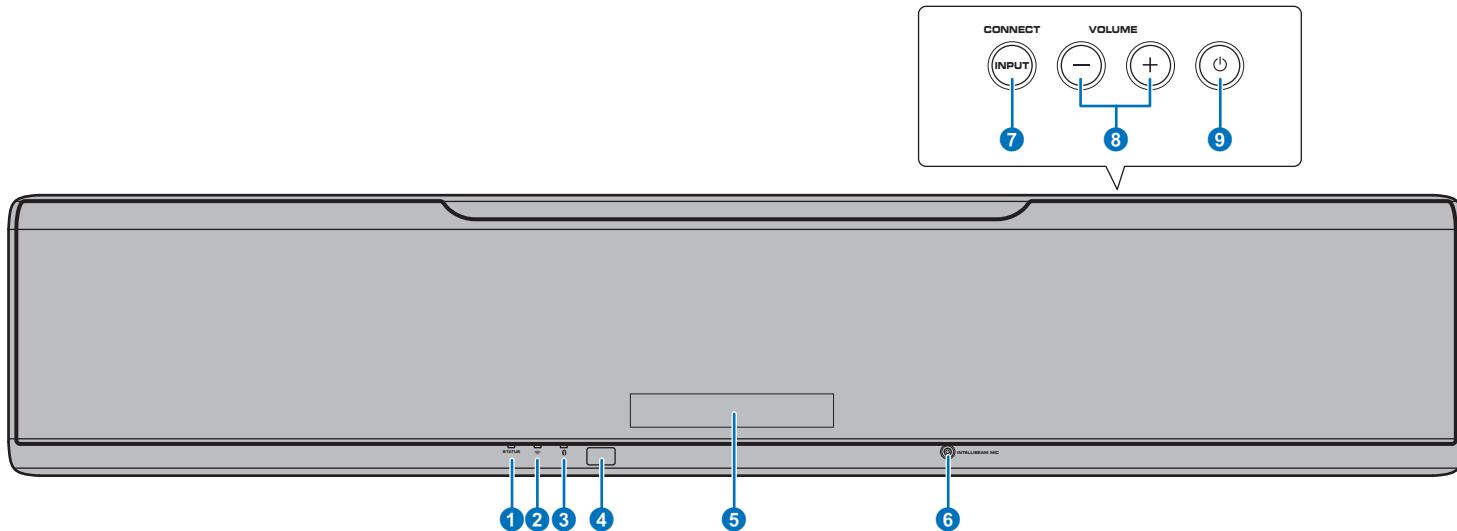


操作範囲



各部の名称とはたらき

前面・上面



① STATUS (ステータス) インジケーター

システムの状態を表示します。

緑点灯：電源オン

赤点灯：電源オフ (HDMI コントロールまたはネットワーク
スタンバイが有効なとき)

消灯：電源オフ

② ワイヤレスネットワークインジケーター

無線ネットワーク接続の状態を表示します (50 ページ)。

③ ブルートゥースインジケーター

Bluetooth 接続の状態を表示します (44、47 ページ)。

④ リモコン受光部

本機のリモコンの赤外線信号を受信します (9 ページ)。

⑤ 前面ディスプレイ

再生する音声ソースの入力名やサラウンドなどの設定を表示します (42 ページ)。また、設定値などの情報をアルファベットや数字で表示します。

⑥ INTELLIBEAM MIC (インテリビームマイク) 端子

付属のインテリビームマイクを接続します (29 ページ)。

⑦ INPUT (インプット) キー・CONNECT (コネクト) キー

- INPUT キー：再生する音声ソースを選択します。
- CONNECT キー：MusicCast CONTROLLER アプリで本機を操作するときに使います。詳しくは、「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

⑧ VOLUME (ボリューム) (+/-) キー

音量を調節します (35 ページ)。

⑨ 電源 (電源) キー

電源のオン / オフを切り替えます。



- 本機はオフの時も、HDMI の通信やネットワーク機能を使えるように、少量の電力を消費しています。

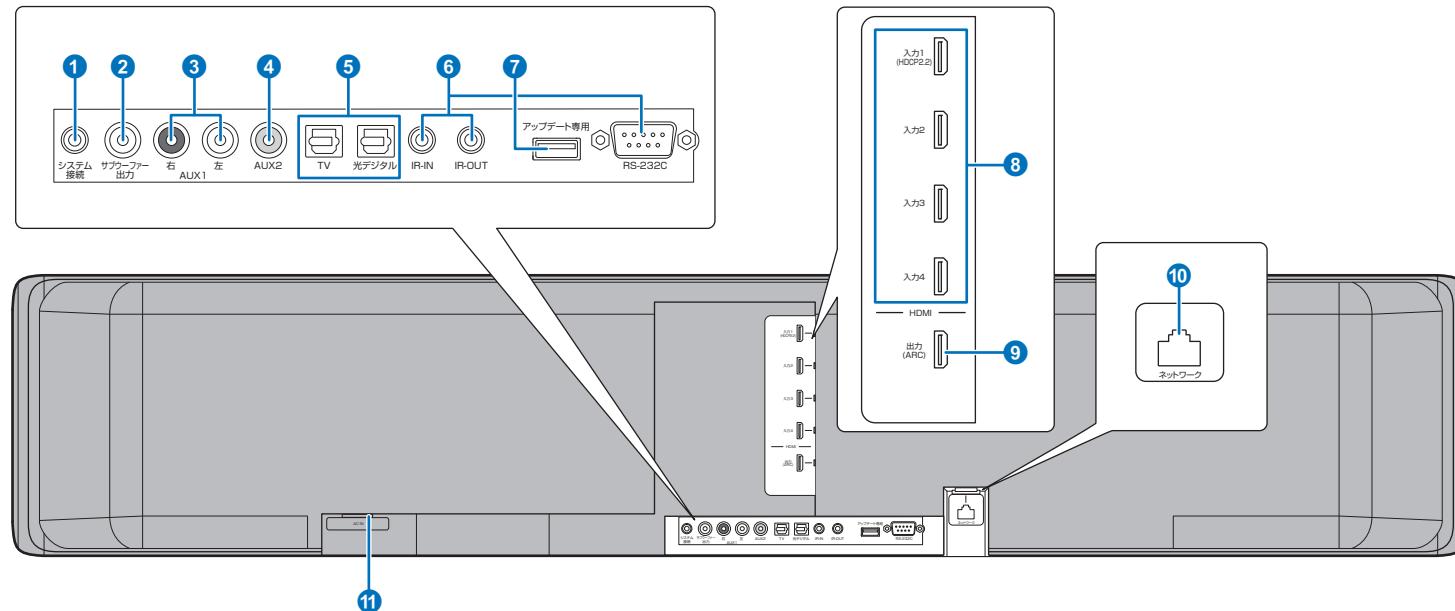


- 前面ディスプレイは、操作したときだけ約 3 秒間点灯します。
- 前面ディスプレイとインジケーターの明るさは、設定メニューの「ディマー」で調節することができます (77 ページ)。

背面



- HDMI 端子とネットワーク端子の位置を分かりやすくするため、本書の背面図ではこれらの端子を本体背面のラベルで表示しています。



① システム接続端子

ヤマハ製のサブウーファーの電源を本機の電源オン / オフと連動してコントロールするときに使います (24 ページ)。

② サブウーファー出力端子

サブウーファーを接続します (24 ページ)。

③ AUX1 (アナログ) 入力端子

再生機器のアナログ音声出力端子に接続します (23 ページ)。

④ AUX2 (同軸デジタル) 入力端子

再生機器の同軸デジタル音声出力端子に接続します (23 ページ)。

⑤ TV、光デジタル端子

再生機器の光デジタル音声出力端子に接続します (21、22 ページ)。

⑥ IR-IN、IR-OUT、RS-232C 端子

サービス用の端子です。通常は使用しません。

⑦ アップデート専用端子

本機のファームウェアをアップデートするときに使います (87 ページ)。

⑧ HDMI 入力 (1 ~ 4) 端子

BD (ブルーレイディスク) / DVD レコーダーや衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機など、HDMI 対応の再生機器を接続します (22 ページ)。

⑨ HDMI 出力 (ARC) 端子

HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像 / 音声を出力します (21 ページ)。

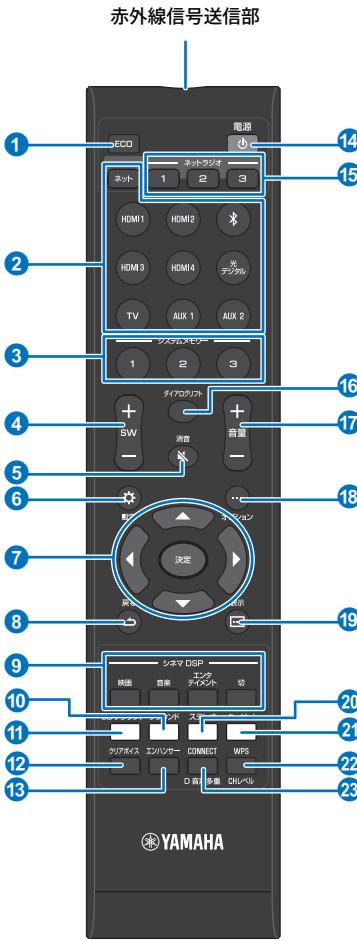
⑩ ネットワーク端子

本機をネットワークに接続します (50 ページ)。

⑪ AC IN 端子

本機の電源コードを接続します (25 ページ)。

リモコン



① ECO キー

エコ機能のオン / オフを切り替えます (42 ページ)。

② 入力選択キー・ネットキー

- ・ 入力選択キー：再生する音声ソースを選びます (35 ページ)。
- ・ ネットキー：ネットワーク経由の音声ソースを選びます (48 ページ)。繰り返し押すと、以下のように切り替わります。
SERVER → NET RADIO → AirPlay → radiko → MusicCast Link → SERVER → …

③ システムメモリーキー

インテリビームの測定結果やチャンネルレベルなどの設定を保存します (43 ページ)。

④ SW (+ / -) キー

サブウーファーの音量を調節します (35 ページ)。

⑤ 消音 (■) キー

一時的に消音します (35 ページ)。

⑥ 設定 (✿) キー

設定メニューに入ります (66 ページ)。

⑦ ▲ / ▼ / ◀ / ▶ キー、決定キー

設定を変更します (66 ページ)。

⑧ 戻る (↶) キー

ひとつ手前のメニュー表示に戻します。

⑨ シネマ DSP キー

サラウンド再生時にシネマ DSP 音場プログラムを選びます (37 ページ)。

⑩ サラウンドキー

サラウンド再生に切り替えます (37 ページ)。

⑪ 3D サラウンドキー

3D サラウンド再生に切り替えます (36 ページ)。

⑫ クリアボイスキー

クリアボイスのオン / オフを切り替えます (40 ページ)。

⑬ エンハンサーキー

ミュージックエンハンサーのオン / オフを切り替えます (40 ページ)。

⑭ 電源 (⊕) キー

電源のオン / オフを切り替えます (35 ページ)。

⑮ ネットラジオ (1 ~ 3) キー

インターネットラジオ局などのストリーミングサービスを登録 / 再生します (60 ページ)。

⑯ ダイアログリフトキー

セリフが聞こえる位置の高さを調整するダイアログリフト機能を設定します (40 ページ)。

⑰ 音量 (+ / -) キー

音量を調節します (35 ページ)。

⑱ オプション (…) キー

入力ごとの設定 (オプションメニュー) に入ります (83 ページ)。

⑲ 表示 (▣) キー

前面ディスプレイに表示する情報を切り替えます (42 ページ)。

⑳ ステレオキー

ステレオ再生に切り替えます (39 ページ)。

㉑ ターゲットキー

ターゲット再生に切り替えます (39 ページ)。

㉒ WPS キー・CH レベルキー

- ・ WPS キー：WPS（プッシュボタン式）に対応した無線 LAN ルーターに接続するときに使います (52 ページ)。
- ・ CH レベルキー：再生中に音量バランスを調節します (41 ページ)。

㉓ CONNECT キー・D 音声多重キー

- ・ CONNECT キー：MusicCast CONTROLLER アプリで本機を操作するときに使います。詳しくは、「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。
- ・ D 音声多重キー：BS / 地上デジタル放送の多重音声の受信時に、音声を切り替えます (42 ページ)。

準備する

再生までの基本的な流れ

1	設置する (11 ページ)	サラウンド効果を得られる位置に本機を設置します。壁に取り付けることもできます。
2	テレビを接続する (21 ページ)	テレビを本機に接続します。
3	再生機器を接続する (22 ページ)	ビデオ機器 (BD/DVD レコーダーなど) を本機に接続します。
4	その他の接続 (24 ページ)	サブウーファーを接続します。 有線接続してネットワークを利用する場合の準備として、ルーターと本機をネットワークケーブルで接続します。
5	電源コードを接続する (25 ページ)	すべての接続が完了したら、電源コードを接続します。
6	はじめて使うときの設定 (26 ページ)	サラウンド効果の設定など、再生の前に本機を設定しておきます。

これで使用前に必要な接続および設定は完了です。映画、音楽など、本機での再生を存分にお楽しみください！



- ネットワークへの接続や、ネットワーク経由の音声の再生については、「ネットワークを活用する」(48 ページ) をご覧ください。

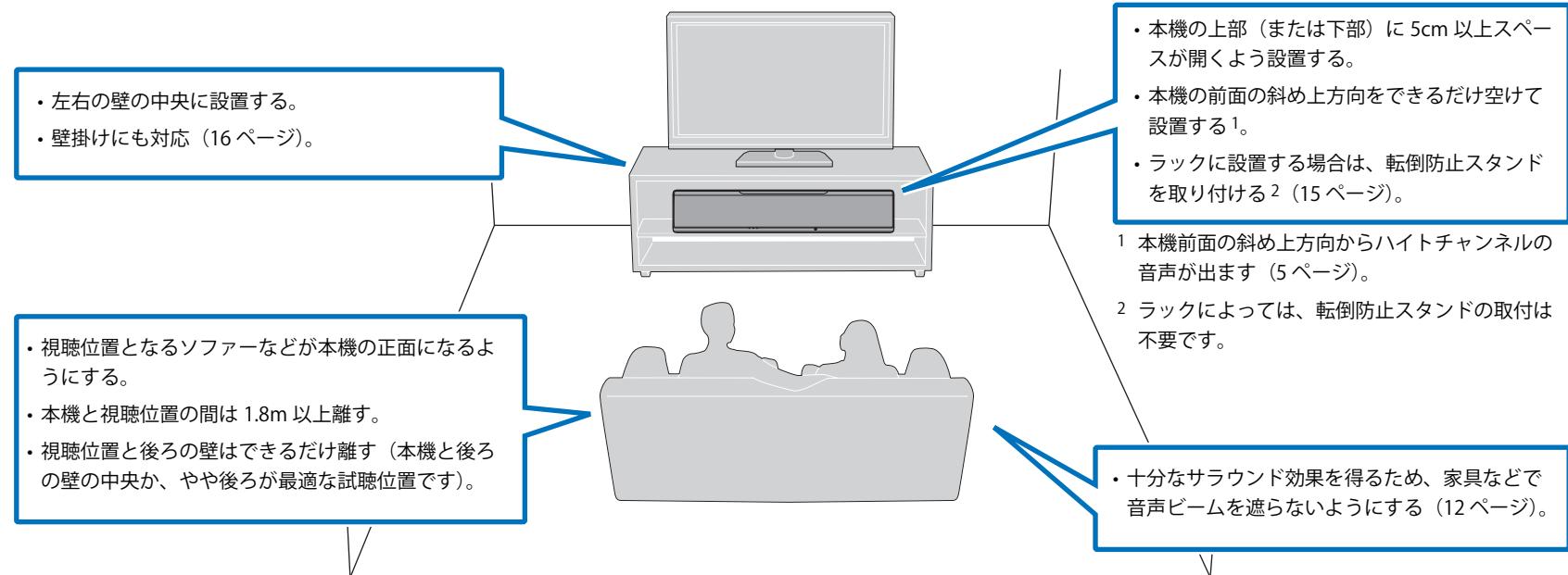
1 設置する

本機は音声ビームを壁や天井に反射させてサラウンド効果を生み出します。十分なサラウンド効果を得るためにには、本機と視聴位置、およびリスニングルームの壁や天井との位置関係が重要です。11～15ページを参考にして設置してください。また、背面のスペースが狭いラックなど、設置する場所によっては、先に外部機器と接続してから設置するほうが簡単な場合があります。外部機器との接続については、21～24ページをご覧ください。

ご注意

- 地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように安定した広い台の上に設置してください。
- 本機の上部にはアンテナが内蔵されています。金属製のラックには設置しないでください。また、本機の上に金属製品を置かないでください。
- 本機は非防磁のスピーカーを搭載しています。ハードディスクドライブなどを近くに設置しないでください。
- 本機を他の再生機器などと直接重ねないでください。熱や振動により機器が故障することがあります。

おすすめの設置位置



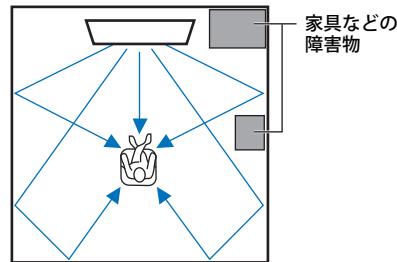
■ 設置位置の例

本機は下図のように音声をビーム化して出力します。十分なサラウンド効果を得るために、下図のように家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください。

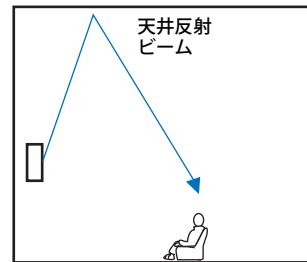
本機を壁と平行に設置する場合には、できるだけ左右の壁の中央に設置し、本機が左右どちらかの壁に近づきすぎないようにしてください。

本機を部屋のコーナーに設置する場合には、本機と、隣接する壁との角度が $40^{\circ} \sim 50^{\circ}$ の間におさまるように設置してください。

本機を壁と並行に設置：天井から見た図

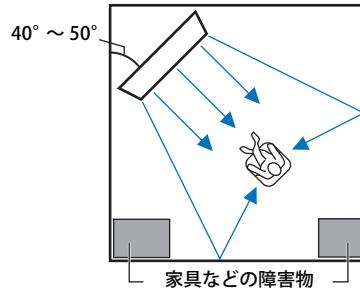


側面から見た図

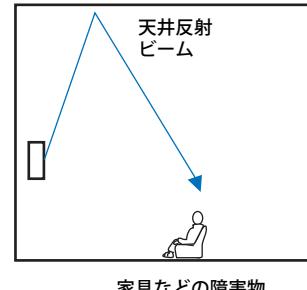


出力される音声ビームは3Dサラウンド/サラウンド(36、37ページ)とチャンネル出力(72ページ)の設定により異なります。上の図は3Dサラウンドに設定し、フロントチャンネルの出力を「ビーム」に設定した場合のビーム経路です。

コーナーに設置：天井から見た図

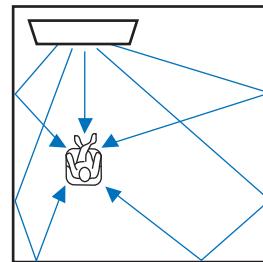


側面から見た図

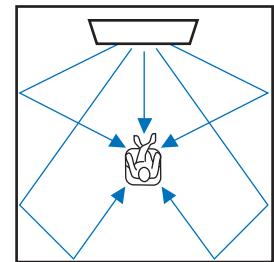


上の図は3Dサラウンドに設定し(36ページ)、フロントチャンネルの出力(72ページ)を「ステレオ」に設定した場合のビーム経路です。

壁と平行に設置する場合の本機の位置

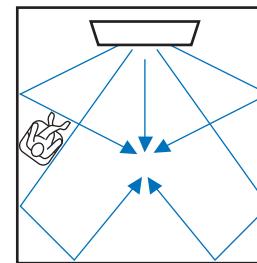


できるだけ左右の壁の中央に設置する

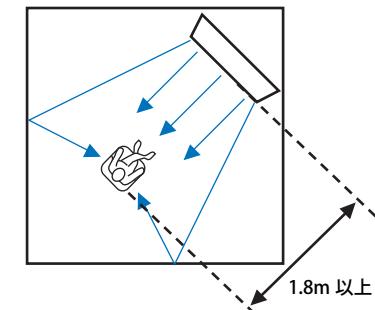
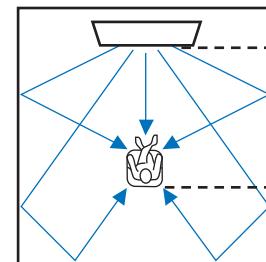


- 本機を左右の壁の中央に設置できない場合でも、音声ビームを調整することで自然なサラウンド効果が得られます(15ページ)。

視聴位置と本機の位置

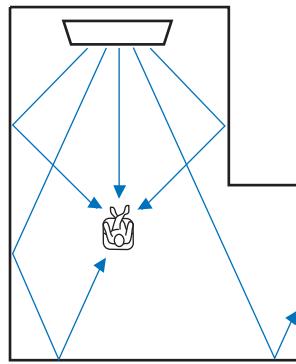


できるだけ視聴位置の正面に設置する

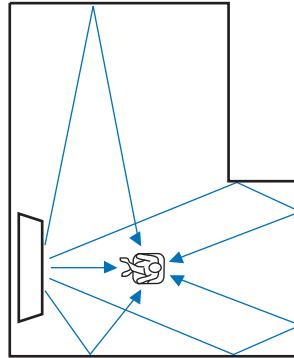
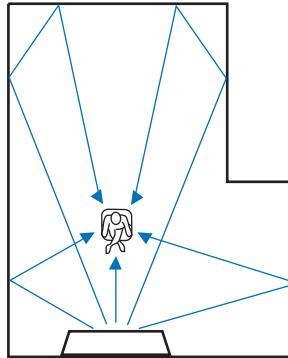


変則的な形の部屋に設置する場合

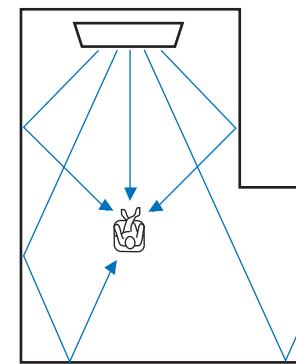
壁がある場合



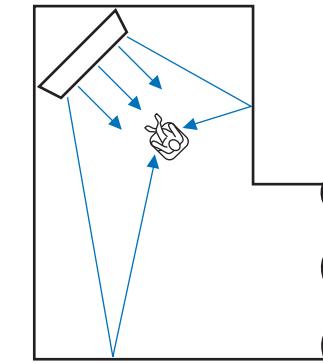
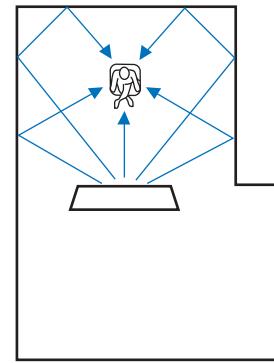
ビームが壁に反射できるように
設置する



壁ではなく、長い廊下が続いている場合



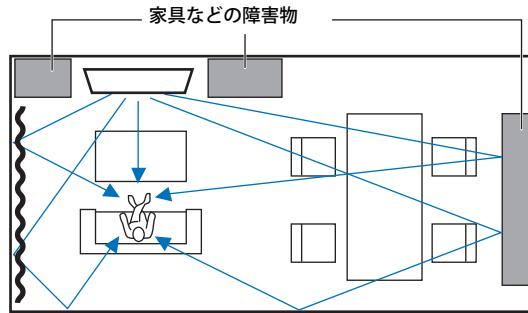
ビームが壁に反射できるように
設置する



- 本機の位置や視聴位置を変更できない場合は、別売の「サウンドリフレクションボード（YRB-100）」を設置してサラウンド感を向上させることができます（99ページ）。

リビングへの設置例

- 通常テーブルの脚などは音声ビームを通すため、障害にはなりません。また、壁に設置した戸棚などは音を反射します。
- 厚手のカーテンは音を吸収するため、開けたときと閉めたときで音の特性が変わります。メモリー機能を使うことで、それぞれの状態に最適な設定を保存できます（43ページ）。



推奨できない視聴環境

本機は音声ビームを壁や天井に反射させてサラウンドを実現するという特性上、以下のような環境では十分なサラウンド効果が得られなかったり、まったく得られない場合があります。

- ビーム経路上に壁がない部屋
- 壁や天井の材質が吸音素材でできている部屋
- 部屋の大きさが幅 3m ~ 7m、奥行き 3m ~ 7m、高さ 2m ~ 3.5m にあてはまらない部屋
- ビーム経路上に出っ張った家具などの障害物がある部屋
- 本機から視聴位置までの距離が 1.8m 未満の場合
- 壁に近いところに視聴位置がある場合
- 視聴位置が本機の正面にない場合
- 天井が傾斜しているなど、複雑な形状の部屋（照明器具などは音声ビームの障害にはなりません）

部屋の条件を問わずにサラウンドを楽しむ（マイサラウンド機能）

「推奨できない視聴環境」でも、マイサラウンド機能により豊かなサラウンドを楽しむことができます。詳しくは「チャンネル出力」（72 ページ）をご覧ください。

音声ビームの調整による最適化

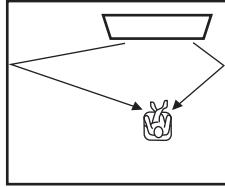
本機は自動設定（28ページ）により、設置する部屋に合わせて最適なサラウンド環境となるようにビームを設定します。本機を以下のような位置に設置する場合は、ビームの自動設定に加えて手動で調整することで、設置する部屋に適したサラウンド効果を得ることができます。

部屋の隅に寄せて設置する場合

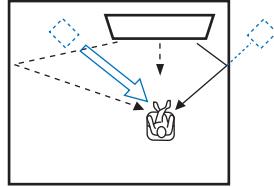
下図のように部屋の隅に寄せて設置すると、自動でビームを設定してもフロントチャネルが不自然な方向から聞こえることがあります。

その場合は、設定メニューの「Lch / Rch 位置調整」（71ページ）を使って左右が自然に聞こえるように調整してください。

フロント左チャネルが不自然なとき



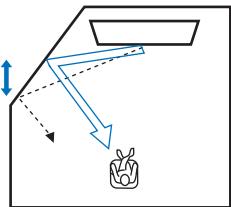
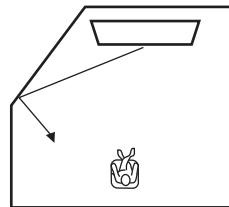
フロント左チャネルを調節したときのイメージ



特殊な形の部屋の場合

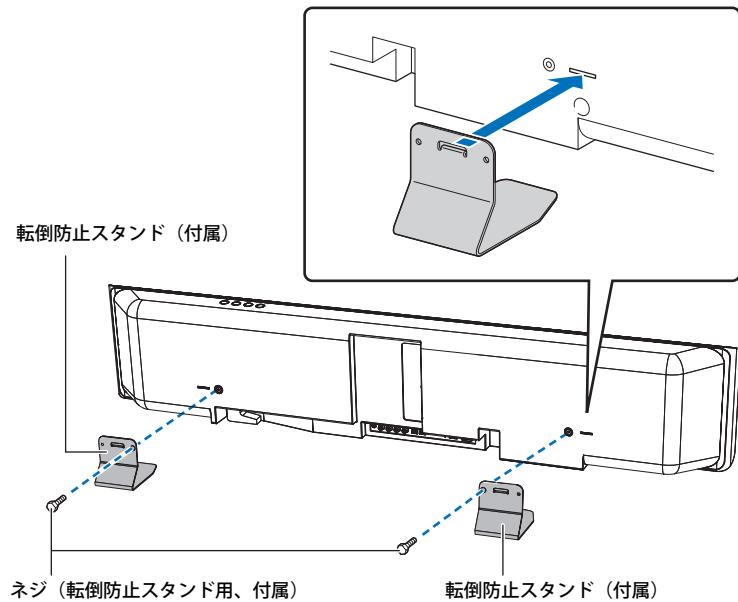
四角形ではない部屋に設置すると、下図のようにビームが正しく反射しないことがあります。

その場合は自動設定を行ったあとで、正しく音が届いていないチャネルのビームの角度を設定メニューの「水平角度」（69ページ）で調整することで、よりバランスの良い聞こえ方になります。



転倒防止スタンドを取り付ける

転倒防止スタンド（付属）を本体底面に取り付けます。図のように転倒防止スタンドの突起部を本体背面の穴に合わせてはめ込み、付属のネジで取り付けてください。なお、別売の壁掛け金具（SPM-K30）に本機を設置する場合、転倒防止スタンドの取付は不要です。

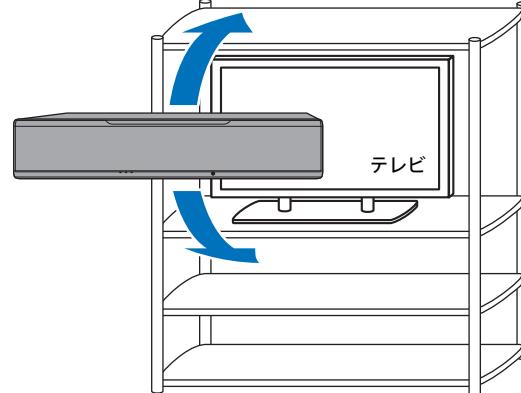


■ ラックを使用して設置する

別売または市販のラックを使用して、本機をテレビの上、または下に設置します。ラックは本機とテレビを設置するのに十分なサイズと放熱スペース、強度を持ったものをご使用ください。



- 別売の専用ラックは安全性を確認済みですので、安心してご使用いただけます。

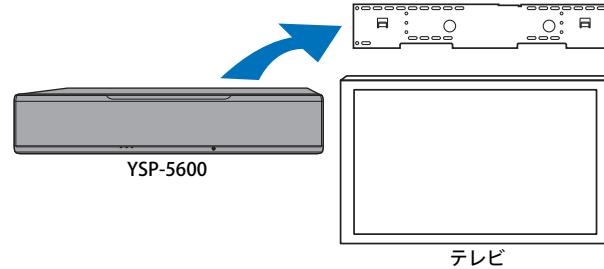


■ 壁掛け金具を使用して設置する

別売の壁掛け金具（SPM-K30 など）を使用して本機を壁に設置します。

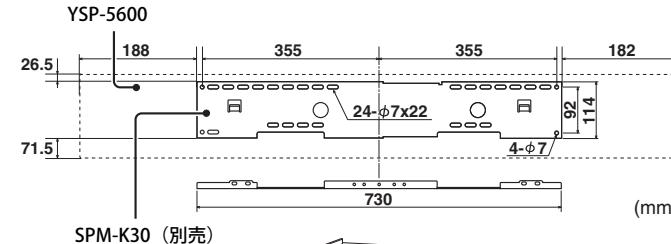
本機の取付方法は SPM-K30 の取付説明書に記載されていません。必ず本書をご覧ください。

壁掛け金具（SPM-K30）

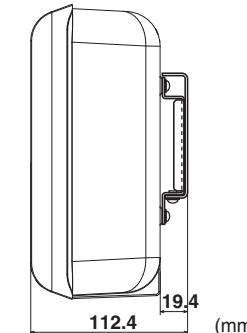


SPM-K30 取付時の寸法

寸法図を参考にして、周囲に十分なスペースを確保してください。



SPM-K30（別売）



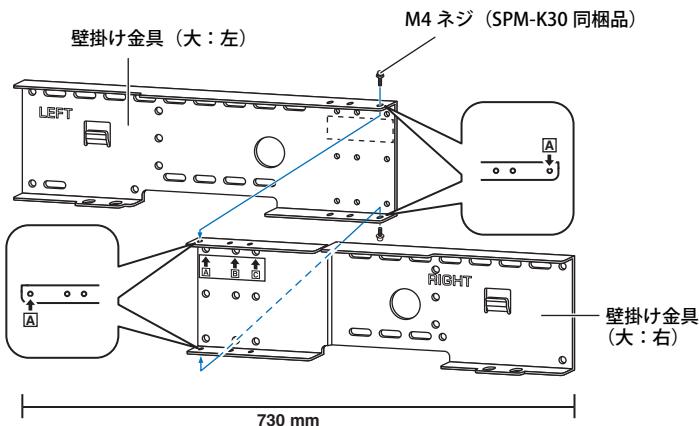
112.4 (mm)



- 取付工事は専門業者、または販売店に依頼してください。お客様自身で作業しないでください。不十分な取付を行った場合、本機が落下してけがの原因となります。
- 本機および壁掛け金具などの重さに長期間十分耐え、また地震にも十分耐えるよう確実に取り付けてください。不十分な取付を行った場合、本機が落下してけがの原因となります。
- しつくいやベニヤ板のような弱い材質の壁には取り付けないでください。本機が落下してけがの原因となります。
- 市販のネジは、規定サイズ（手順2、7参照）で十分な強度があるものを用意ください。くぎや両面テープ、規定サイズ以外のネジを使用すると本機が落下してけがの原因となります。
- 安全確保のため、ネジ類は確実に締め付けてください。本機が落下してけがの原因となります。
- 設置するときは周囲から十分な間隔をあけてください。十分な間隔をあけないと本機内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。
- 本機にもたれかかったり、上から強い力をかけたりしないでください。本機が落下して、けがの原因となります。
- ケーブル類は必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、本機が落下してけがの原因となります。
- 取付後は、定期的に安全点検をしてください。長期間使用すると経年変化や振動等により、ネジがゆるんだり、取付強度が低下することがあります。
- 取付箇所、取付方法の不備による落下などの事故、または壁面への傷について、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。

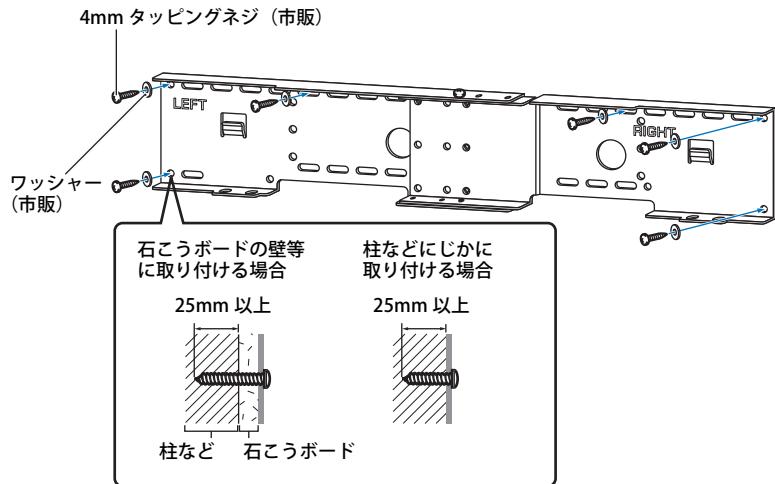
1 壁掛け金具（大）を組み立てる。

左右の金具の A の穴をネジ留めします。



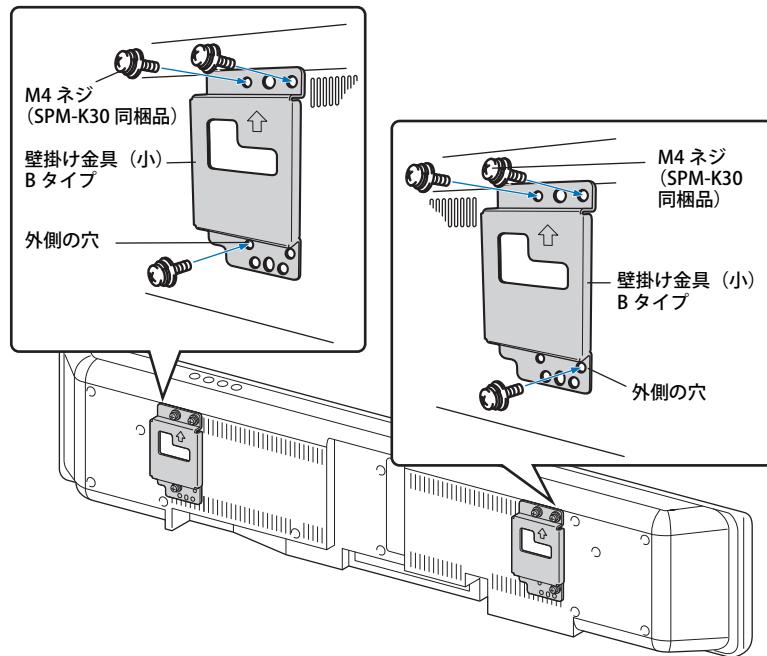
2 壁掛け金具（大）を壁にしっかりと取り付ける。

壁の構造や材質に合わせ、十分に強度が得られる方法で取り付けてください。

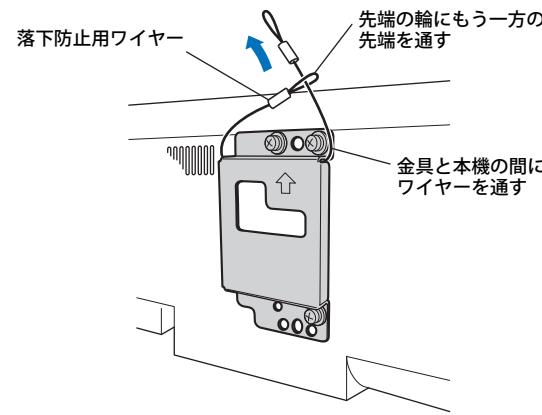


- 十分な取付強度を得るため、できるだけ外側の穴にタッピングネジを6ヶ所以上止めてください。

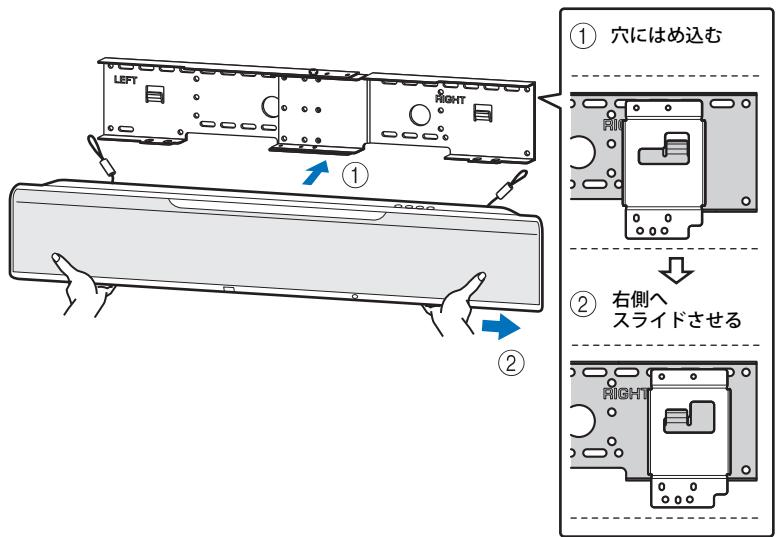
- 3 SPM-K30 同梱品の M4 ネジを使用して、壁掛け金具（小）B タイプ 2 個を本機背面に取り付ける。



- 4 落下防止のため、左右の壁掛け金具（小）に落下防止用ワイヤーを取り付ける。

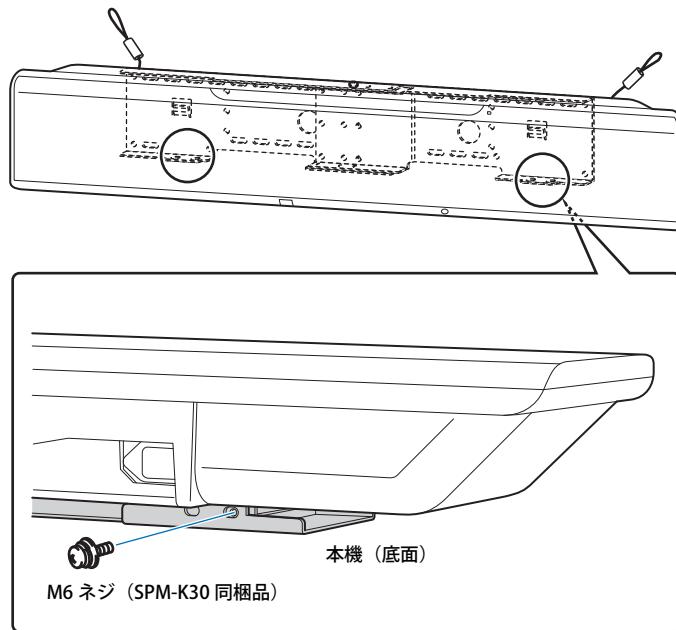


5 本機に取り付けた壁掛け金具（小）のフックを、壁掛け金具（大）左右の取付穴に引っ掛け、右側にスライドさせて固定する。

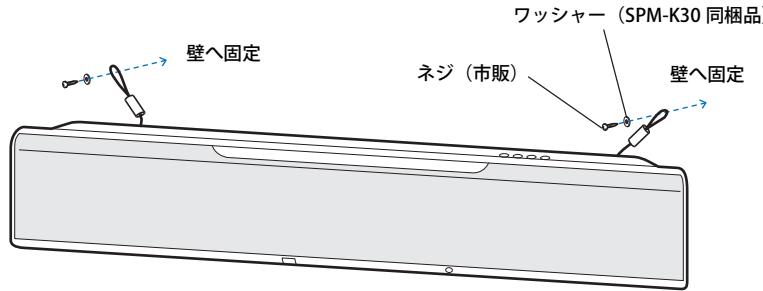


・本機を壁に取り付けるとき、また取り外すときは、本体を両手でしっかりと保持してください。本機が落下するときの原因となります。

6 壁掛け金具（大）と壁掛け金具（小）の下側のネジ穴を合わせ、M6 ネジ（SPM-K30 同梱品）を締め付けて固定する。



- 7 落下防止用ワイヤー先端の輪に市販のネジを通して、壁にしっかりと固定する。



- ・落下防止用ワイヤーはたるみがないように取り付けてください。
- ・ワッシャー2個は予備として保管してください。

② テレビを接続する

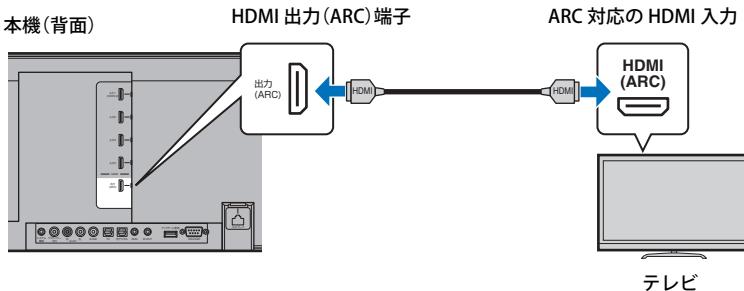
テレビと本機を接続して、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビ番組の音声を本機で楽しむこともできます。



- ・HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
 - ・3D 映像、4K 映像をお楽しみになる場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。
 - ・本機は著作権保護技術 HDCP2.2 に対応しています。4K 映像をお楽しみになる場合は、HDCP2.2 対応テレビの HDMI 入力端子（HDCP2.2 対応の端子）に接続してください。

オーディオリターンチャンネル (ARC) 対応テレビの場合

市販の HDMI ケーブルを使って、テレビを本機に接続します。



オーディオリターンチャンネル (ARC) 対応のテレビを使用する場合は、HDMI コントロール機能をオンにしてください (76 ページ)。

オーディオリターンチャンネル (ARC) とは

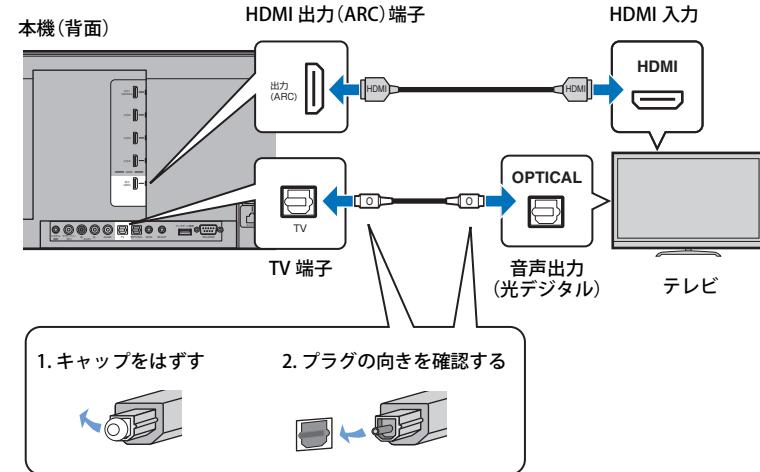
通常、テレビの音声を本機で再生するには、HDMI ケーブルとは別に音声ケーブルの接続が必要になります。しかし、テレビが ARC に対応している場合は、本機からテレビに映像を伝送する HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。



- ARC 対応の HDMI ケーブルをお使いください。

オーディオリターンチャンネル(ARC)非対応のテレビの場合

市販の HDMI ケーブルと付属の光ファイバーケーブルを使って、テレビを本機に接続します。



- **テレビに光デジタル端子がない場合**
テレビの音声出力と本機のAUX1端子（アナログ）またはAUX2端子（同軸）を接続します。設定メニューの「TVインプット」を接続に合わせて「アナログ【AUX1】」または「コアキシャル【AUX2】」に変更すると、TVキーで入力がテレビに切り替わりテレビの音声が本機から聞こえます（76ページ）。

③ 再生機器を接続する

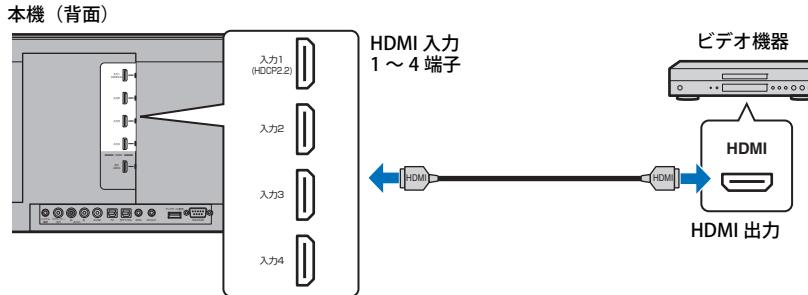
BD / DVD レコーダー、衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機などのビデオ機器を本機に接続します。接続するビデオ機器の出力端子（映像 / 音声）により、接続方法を選んでください。ビデオ機器に HDMI 出力端子がある場合は、HDMI 接続をおすすめします。

HDMI 接続

市販の HDMI ケーブルを使って、ビデオ機器を本機に接続します。



- ・本機は著作権保護技術HDCP2.2に対応しています。4K対応のデジタル放送チューナーなど、HDCP2.2に対応した再生機器を接続する場合は、「HDMI入力1」端子に接続してください。それ以外のビデオ機器は、入力1～4のいずれかに接続してください。



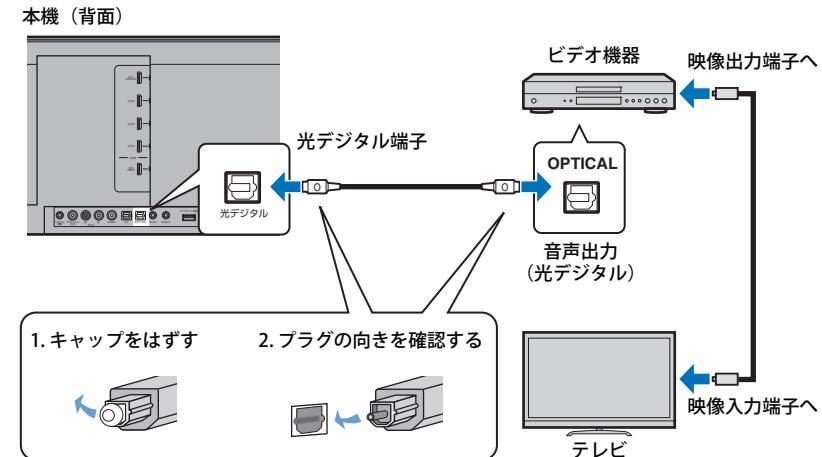
HDMI1～4キーで入力をHDMI1～4に切り替えると、ビデオ機器の映像／音声が本機から出力されます。



- HDMI コントロール機能をオンにすると（33 ページ）、本機の電源がオフのときでもテレビで再生機器の映像や音声を再生できます（HDMI 信号パススルー）。
 - HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
 - 3D 映像、4K 映像をお楽しみになる場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。

光デジタル接続

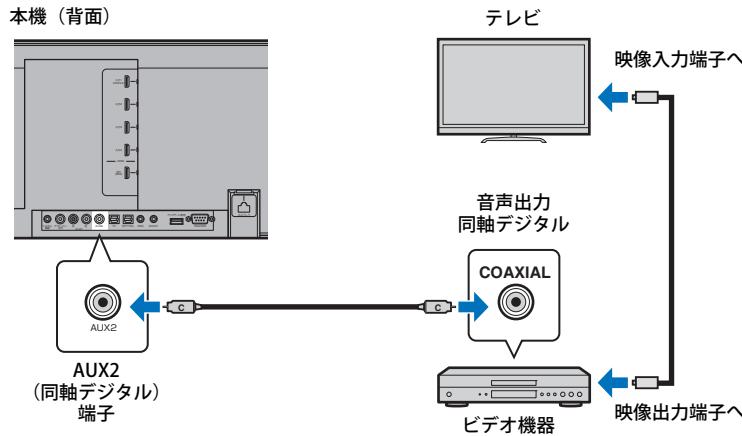
光ファイバーケーブル（付属）を使ってビデオ機器を本機に接続し、ビデオ機器の映像出力とテレビ映像入力を接続します。



光デジタルキーで入力を光デジタルに切り替えると、ビデオ機器の音声が本機から出力されます。

同軸デジタル接続

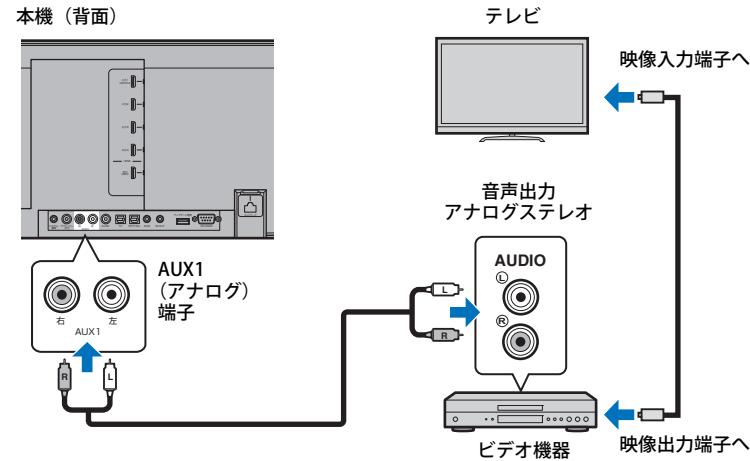
市販の同軸デジタルケーブルを使ってビデオ機器を本機に接続し、ビデオ機器の映像出力とテレビの映像入力を接続します。



AUX2 キーで入力を AUX2 に切り替えると、ビデオ機器の音声が本機から出力されます。

アナログ接続

市販の RCA ステレオケーブルを使ってビデオ機器を本機に接続し、ビデオ機器の映像出力とテレビの映像入力を接続します。



AUX1 キーで入力を AUX1 に切り替えると、ビデオ機器の音声が本機から出力されます。

④ その他の接続

サブウーファーを接続する

本機にサブウーファーを接続して使用することができます。市販のモノラルピンケーブルで接続する方法と、別売のワイヤレスサブウーファーキット（SWK-W16）を使って無線で接続する方法があります。

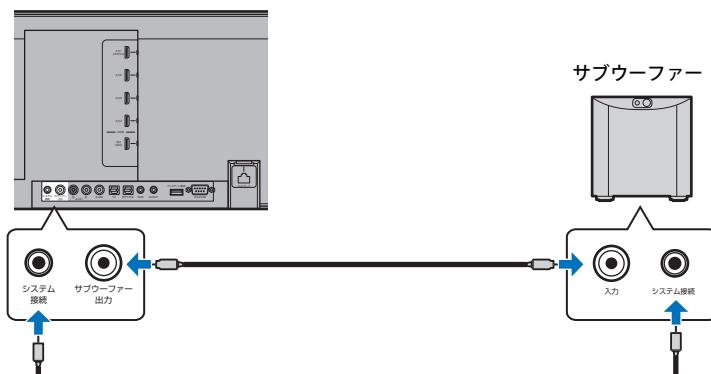
ケーブルで接続する

市販のモノラルピンケーブルで、サブウーファーのモノラル入力端子と本機のサブウーファー出力端子を接続してください。

ヤマハ製サブウーファーを使う場合は、システム接続端子を本機のシステム接続端子に接続すると、本機の電源と連動してサブウーファーの電源をオン／オフできます。

サブウーファーに付属のシステム接続ケーブルか、市販の3.5mmモノラルミニプラグケーブルを使って接続してください。

本機（背面）



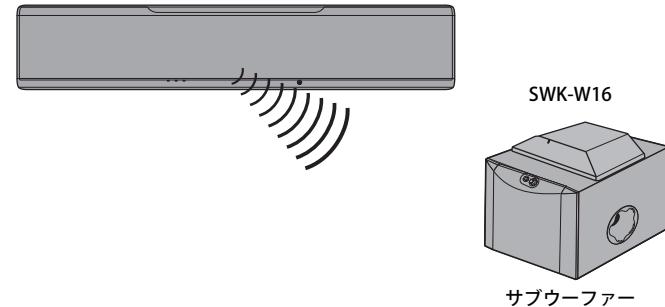
サブウーファーをケーブルで接続して使用する場合は、設定メニューでサブウーファーの出力を「有線」に設定してください（73ページ）。



サブウーファーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ワイヤレスサブウーファーキット（SWK-W16）を使う

別売のワイヤレスサブウーファーキット（SWK-W16）を使うと、サブウーファーと本機をケーブルを使わずに接続できます。



ワイヤレスサブウーファーキットを使う場合は、設定メニューでサブウーファーの出力を「フロント／無線」（初期設定）に設定してください（73ページ）。

最初に本機の電源をオンにしたとき、または設定メニューでサブウーファーの出力を「フロント／無線」に変更したとき、本機とワイヤレスサブウーファーキットは自動的に接続されます。



- ワイヤレスサブウーファーキットのインジケーターが緑色に点灯しない場合は、「故障かな？と思ったら」（90ページ）をご覧ください。
- ワイヤレスサブウーファーキットとサブウーファーの接続については、ワイヤレスサブウーファーキット（SWK-W16）の取扱説明書をご覧ください。
- ワイヤレスサブウーファーキットは、ケーブルで本機に接続しているサブウーファーと同時に使うことはできません。

ネットワーク（有線）

本機を有線でルーターに接続する場合は、ネットワークケーブルを本機のネットワーク端子に接続します。詳しくは、「有線ネットワークの接続」（50ページ）をご覧ください。

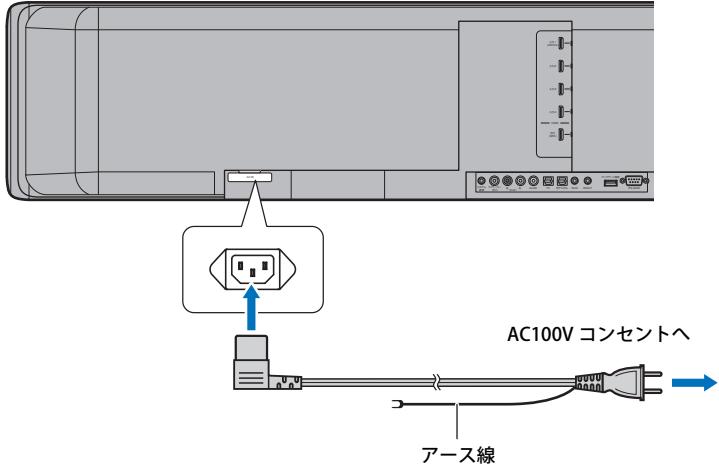
⑤ 電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源コードを本機に接続し、プラグをコンセントに差し込みます。



- アース接続は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

本機（背面）



本機の特長

準備する

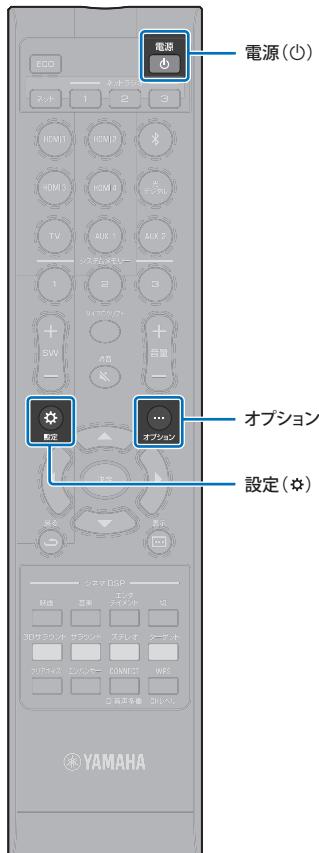
再生する

ネットワークを活用する

設定する

付録

安全上のご注意



⑥ はじめて使うときの設定

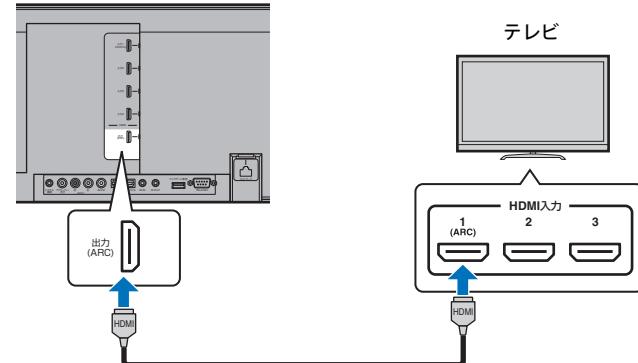
メニュー画面をテレビに表示する

メニュー画面などをテレビに表示することで、視覚的に操作を進められます。

本機とテレビの電源をオンにし、テレビのリモコンの入力切替えボタンで本機からの入力してください。

本機とテレビを下図のように接続したときは、テレビのリモコンの入力切替えボタンで「HDMI 1」を選びます。

本機（背面）

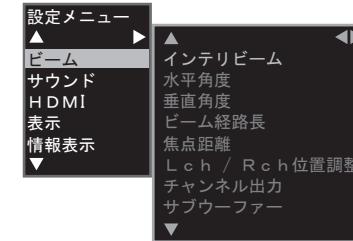


テレビのリモコン（例）



メニュー表示を確認する

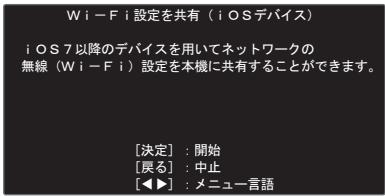
設定（＊）キー や オプション（…）キーを押すと、メニューがテレビに表示されます。HDMI の入力信号があるときは、映像の上にメニューが表示されます。メニューを終了するには、設定（＊）キーを 2 回押すか、オプション（…）キーを押します。



- ・設定メニュー（66 ページ）はテレビのみに表示されます。前面ディスプレイには表示されません。

電源をオンにしたあとの画面について

ご購入後はじめて本機の電源をオンにすると以下の画面がテレビに表示されます
(前面ディスプレイには「ViewScreen」と表示されます)。



お使いの iOS デバイス (iPhone など) の簡単な操作で、本機を無線ネットワークに接続できます。詳しくは、「簡単接続・操作ガイド」をご覧ください。

この機能を使わない場合は戻る (←) キーを押してください。



- 設定メニューの「Wi-Fi 設定を共有 (iOS デバイス)」を使っていつでも接続できますが、すでにほかの無線ネットワークや Bluetooth 機器が設定されている場合は初期化されますのでご注意ください。



- 本機のネットワーク端子とルーターを接続している場合 (有線ネットワーク接続)、この画面は表示されません。
- 上記の画面が表示されている状態でインテリビームマイクを接続すると (29 ページ)、設定がキャンセルされ自動設定画面に変わりますのでご注意ください。

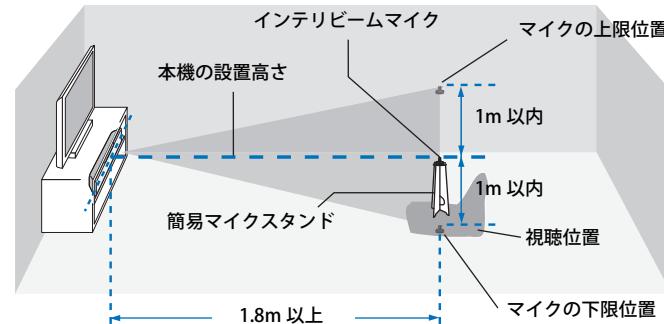
サラウンド効果を自動設定する（インテリビーム）

本機を最適な視聴空間でご利用いただくためには、最初に「インテリビーム」機能を使って、各チャンネルを調節してください。



- 部屋の環境が「推奨できない視聴環境」（14ページ）にあてはまる場合は、測定が正しくできないことがあります。このような部屋でも、マイサラウンド機能により豊かなサラウンドを楽しむことができます。詳しくは「チャンネル出力」（72ページ）をご覧ください。
- インテリビームマイクは、延長ケーブルを使って接続しないでください。測定が正しくできないことがあります。

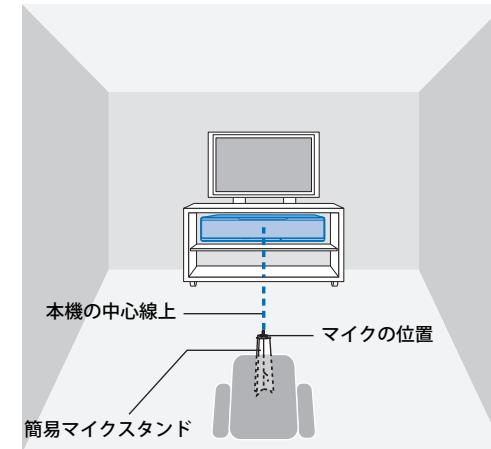
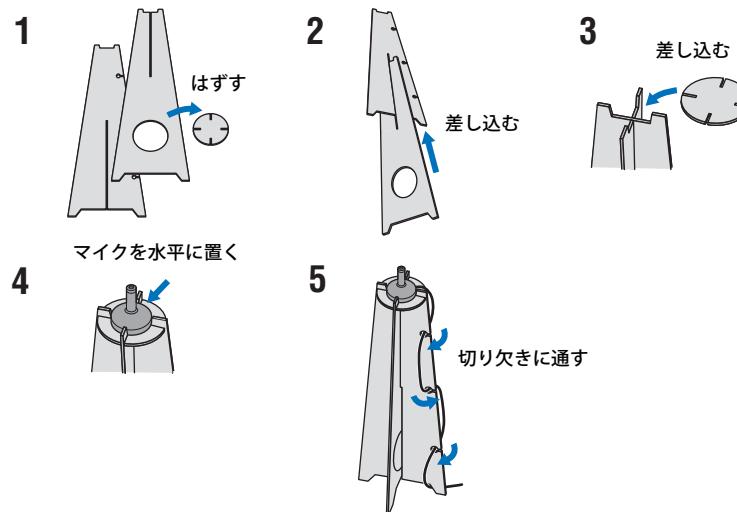
- 簡易マイクスタンド（付属）や三脚を利用して、マイクができるだけ視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。
- マイクは床と水平になるように置いてください。



インテリビームマイクを設置する

1 インテリビームマイクを視聴位置に設置する。

□ 簡易マイクスタンドの組立て方法



ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので、障害物ではありません。

測定する



- 測定中は大きなテスト音が出力されます。自動設定は、小さなお子様がいないときや、部屋に入ってくれる可能性がないときに行ってください。聴覚障害などの原因となる場合があります。
- 壁にカーテンやブラインドなどがかかっている部屋では、ビーム設定が正確に行われないことがあります。そのような部屋で測定する場合、以下の手順で設定することをおすすめします。
 - カーテンやブラインドを開ける
 - 「ビーム調整」をする (31 ページ)
 - カーテンやブラインドを閉める
 - 「音質調整」をする (31 ページ)
- エアコンなど動作音を発生する機器がある場合は、電源を切ってください。

1 本機とテレビの電源をオンにする。



- サブウーファーを接続している場合は電源をオンにして、音量とクロスオーバーを以下のように設定してください。

音量：約半分

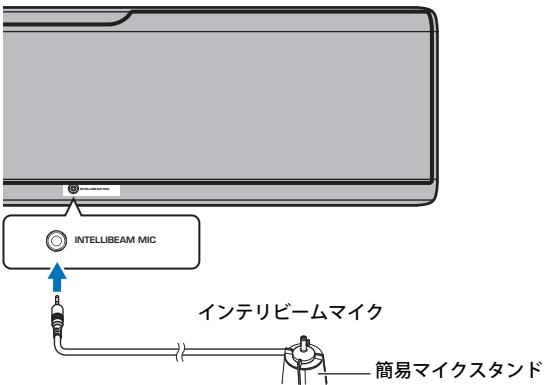


クロスオーバー：周波数を最大

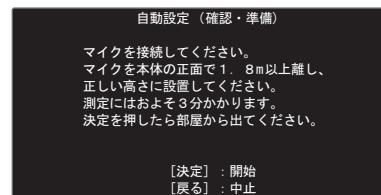


2 テレビの入力を本機からの映像に切り替える (26 ページ)。

3 インテリビームマイクを本機のインテリビームマイク端子に接続する。



インテリビームマイクを接続すると、以下の画面になります。



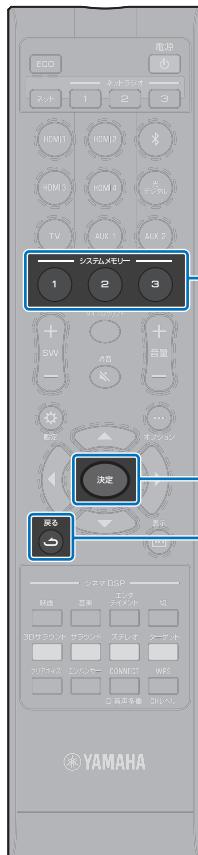
次の 2 つの設定を自動的に調節します。

ビーム調整	部屋の形状や大きさなどに応じて、各チャンネルのビーム角度を最適な設定値に調節します。
音質調整	部屋の音響特性などを測定し、各チャンネルの音色を最適な設定値に調節します。

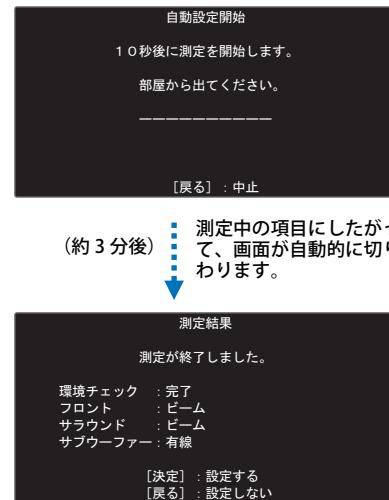
設定メニューから「ビーム調整」と「音質調整」を個別に測定することもできます (31 ページ)。



- 次の手順を実行したあと、部屋から出でてください。部屋の中にいると、ビーム経路を遮ってしまったり、マイクが声や音を拾ってしまったりして、測定が正しくできないことがあります。



4 決定キーを押して測定を開始し、10秒以内に部屋の外に出る。



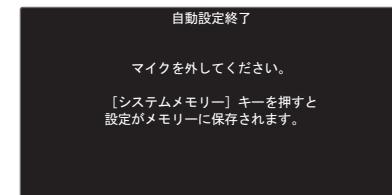
測定が終了すると終了音（チャイム音）が出力されます。



- 測定開始から終了まで、約3分かかります。
- 測定中に「自動設定」を中止するとき、または測定結果を設定しないときは、戻る（←）キーを押してください。
- エラー音（ブザー音）が鳴ったときは、画面のエラーメッセージを確認し、「エラーメッセージが表示されたら」（32ページ）をご覧ください。

5 決定キーを押す。

測定結果を本機に設定し、保存します。



- システムメモリー1、2または3キーを押して、複数の測定結果を保存することもできます。
- システムメモリー1キーを押したときは、「M1 Saving」と表示され、設定が保存されます。
- 測定中に環境ノイズを拾った場合は、「自動設定終了」画面に再設定をおすすめするメッセージが表示されます。決定キーを押して終了し、もう一度自動設定を行ってください。

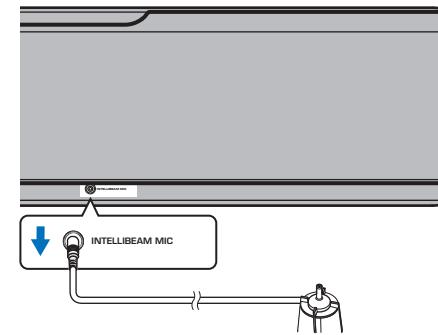


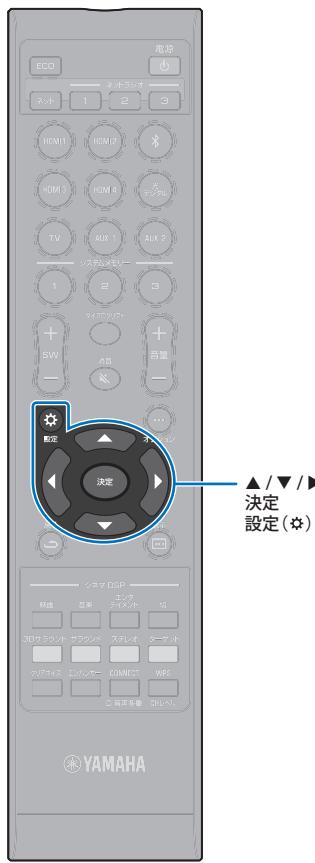
- システムメモリー機能については、43ページをご覧ください。

6 マイクをはずす。

「自動設定終了」画面が消えます。

インテリビームマイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。





□ 設定メニューから自動設定する場合

「ビーム調整」と「音質調整」を個別に調節するときは、設定メニューから設定します。

- 1 インテリビームマイクを視聴位置に置き、設定（※）キーを押す。

インテリビームマイクの置きかたについては、「インテリビームマイクを設置する」（28 ページ）をご覧ください。

- 2 ▲/▼キーで「ビーム」を選び、決定キーを押す。

- 3 ▲/▼キーで「インテリビーム」を選び、決定キーを押す。

- 4 ▲/▼キーで次の選択項目の中からいずれかを選び、決定キーを押す。

選択項目：

ビーム調整+音質調整 購入後、初めて設定する場合に選びます。測定開始から終了まで約 3 分です。

ビーム調整 ご利用の環境に合わせてビーム角度のみ設定する場合に選びます。測定開始から終了まで約 1 分です。

音質調整 音質、音量バランス、音が聞こえるタイミングを設定する場合に選びます。測定開始から終了まで約 2 分です。

「音質調整」はビーム角度を設定したあとで実行してください。カーテンの開閉後、またはビーム角度を「ビーム調整」で調節したあとなどに使います。

- 5 「自動設定（確認・準備）」画面が表示されたら、インテリビームマイクを接続する。

インテリビームマイクの接続については「測定する」（29 ページ）をご覧ください。

- 6 「測定する」の手順 4、5、6 に従って設定し、マイクをはずす。



- ・設定メニューから自動設定をした場合は、測定終了後、自動的に設定メニューのメニュー選択画面に戻ります。設定メニューを終了するには、設定（※）キーを 2 回押します。

□ エラーメッセージが表示されたら

テレビ画面にエラーメッセージが表示された場合は以下の「エラーメッセージ一覧表」で原因を確認し、問題を解決してから、画面の指示にしたがって測定をやり直してください。

エラーメッセージ一覧表

エラーメッセージ	原因	対策
エラー E-1: 環境ノイズが大きすぎます。	雑音が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど動作音を発生する機器の電源を一時的に切るか、それらの機器から離してください。 周囲が静かな時間帯にやり直してください。
エラー E-2: マイクの接続をチェックしてください。再度、実行してください。	インテリビームマイクが取りはずされました。	本機背面のインテリビームマイク端子にインテリビームマイクを接続し、測定をやり直してください。
エラー E-3: 測定中に操作されました。再度、実行してください。測定中に音量の調節、消音などの操作が行われました。		測定中は本機を操作しないように注意し、測定をやり直してください。
エラー E-4: マイクを本体の正面に設置してください。再度、実行してください。	インテリビームマイクが本機正面に置かれていません。	インテリビームマイクを本機正面に設置し、測定をやり直してください。
エラー E-5: マイクを本体から 1.8m 以上離して設置してください。再度、実行してください。	インテリビームマイクが本機から 1.8m 未満の場所に設置されています。	インテリビームマイクを本機から 1.8m 以上離して設置し、測定をやり直してください。
エラー E-6: マイクから十分な入力がありません。マイクの接続・設置位置を確認してください。再度、実行してください。	テスト音が取得できません。	インテリビームマイクを正しく設置し、接続を確認してから測定をやり直してください。
エラー E-7: エラーです。パワーをオフした後、再度、実行してください。	本機内部にエラーが発生しました。	電源（○）キーを押して本機をオフにしたあと、再び電源を入れ、測定し直してください。
エラー E-9: サブウーファーの接続を確認してください。	サブウーファー出力を検知できません。	ワイヤレスサブウーファーキットとサブウーファーの接続を確認してから（24 ページ）、測定をやり直してください。

テレビのリモコンで本機を操作する (HDMI コントロール機能)

HDMI コントロール機能とは

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます (HDMI コントロール)。また HDMI ケーブルで接続した再生機器 (HDMI コントロール対応の BD / DVD レコーダーなど) も操作できます。

テレビのリモコン操作による連動機能

1. 電源のオン / オフ

テレビと本機の電源が連動します。

2. 入力切換

- テレビの入力切替えに連動して本機の入力も切替わります。
例：
- テレビ番組を見るとときは、ARC 機能により HDMI 出力 (ARC) 端子に入力された音声、または TV 端子から入力された音声に切替わります。
- 本機の HDMI1 端子に接続している BD/DVD レコーダーを選択すると、HDMI1 入力に切り替わります。
- 本機の電源がオフになっていても、入力の切替えができます。

3. 音声を出力する機器の切り替え (テレビ ⇄ 本機 (アンプ機器))

4. 音量の調整

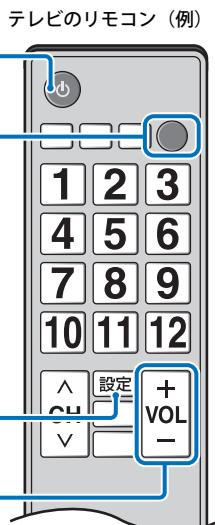
テレビの音声出力が本機 (アンプ機器) に設定されている場合は、本機の音量を調整できます。

5. HDMI 信号パススルー

HDMI 入力信号を HDMI 出力 (ARC) 端子から出力します。本機の電源がスタンバイのときは、HDMI 入力映像と音声はテレビから出力されます。

6. ARC 機能

テレビの音声をテレビの HDMI(ARC) 端子から出力させて本機の HDMI 出力 (ARC) 端子へ入力できるようになります (21 ページ)。



まず、テレビのリモコンで上記の操作を試してください。本機を操作できる場合は、そのままお使いください。また、HDMI コントロール機能をオンにするだけで本機能を使用できる HDMI 機器もあります。操作できない場合は、HDMI コントロールに関する設定をしてください (34 ページ)。

このほか一部のテレビでは以下の機能を操作できます。

- デジタル放送のジャンル情報に合わせて最適なシネマ DSP 音場プログラム (37 ページ) を自動的に選択 (おまかせサラウンド機能)。
- デジタル音声多重の切替え
- テレビに表示される本機のメニュー操作



- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビでも、一部機能が操作できないものがあります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- テレビおよびレコーダーなどの機器は、同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。
- 対応するテレビやレコーダーなどの機器については、下記 WEB サイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

□ おまかせサラウンド機能

- この機能は、デジタル放送に組み込まれた番組情報のジャンル情報をもとにシネマ DSP 音場プログラム (37 ページ) を切り替えます。テレビ放送や、テレビの録画機能を使って録画した番組を再生するときに有効に動作します。ほかの番組に移行したり、チャンネルを切り替えたりしたときは、選んだ番組に応じてプログラムが切り替わります。
- おまかせサラウンド機能を使うには、対応するテレビと本機を HDMI ケーブルで接続し、HDMI コントロール機能を有効にしてください (76 ページ)。また、テレビの設定を AV システムと連動するように変更する必要があります。設定はお使いのテレビにより異なります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 対応するテレビについては下記 WEB サイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/omakase_surround/



HDMI コントロール機能の設定

- 1 本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。
- 2 本機、テレビ、HDMI コントロール対応の再生機器 (BD / DVD レコーダーなど) の HDMI コントロール機能を有効にする。
本機の「HDMI コントロール」が「オン」(初期設定) に設定されていることを確認します (76 ページ)。
再生機器については、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 3 テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。
- 4 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。
- 5 テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。
- 6 本機の入力を HDMI1 ~ 4 に切り替えて、再生機器の画像が正しく映るか確認する。
再生機器を HDMI 入力 1 端子で接続している場合は、HDMI1 キーを押します。
- 7 テレビのリモコンを使って電源オフ、音量調節などを操作して、本機が連動するか確認する。

HDMI 1 入力名

連動機能が動作しないときは

以下のように設定しているか、ご確認ください。

- 「HDMI コントロール」(76 ページ) が「オン」に設定されている
- テレビ側の設定で HDMI コントロール機能が有効になっている

テレビの設定の例

- ・設定メニューから「リンク設定」→「HDMI 連動設定」(例) を選び、「HDMI 連動機能」などの項目を「連動する (使用する)」に設定してください。
- ・テレビの音声出力先の設定を、テレビ以外に設定してください。

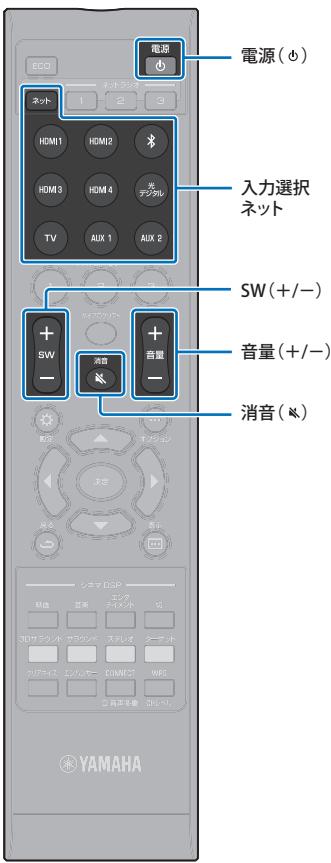
それでも連動機能が動作しない場合は、

- 本機およびテレビの電源を一度オフにしてからオンにしてください。
- 本機および HDMI 接続している機器の電源プラグをコンセントからはずし、30 秒ほど経ってから、接続し直してください。
- 光デジタル、AUX1 または AUX2 を入力したあとで正しく動作しなくなった場合は、もう一度「HDMI コントロール機能の設定」の手順 5、6 を行ってください。

接続方法や接続機器を変更する

接続する機器や端子を変更する場合は以下の手順で再設定してください。

- 1 テレビやレコーダーの HDMI コントロール機能をオフにしてから、すべての機器の電源をオフにし、接続を変更する。
- 2 「HDMI コントロール機能の設定」の手順 1 ~ 7 を再度操作する。



再生する

再生の基本手順

- 1 電源 (○) キーを押して、本機の電源をオンにする。
- 2 本機に接続した機器（テレビ、BD / DVD レコーダー、ゲーム機など）の電源をオンにする。
- 3 再生機器の接続に合わせて入力選択キーまたはネットキーを押し、視聴する機器の入力を選ぶ。
HDMI 入力 1 端子に接続した BD / DVD レコーダーを再生する場合は、HDMI1 キーを押します。
- 4 手順 3 で選択した機器を再生する。

HDMI1 入力名

Bluetooth 機器の再生については 44 ページ、ネットワーク経由の音声の再生については 59 ~ 65 ページをご覧ください。

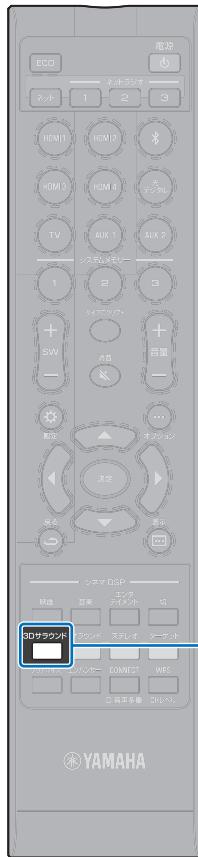
- 5 音量を調節するには、音量 (+ / -) キーを押す。
サブウーファーの音量を調節するには、SW (+ / -) キーを押す。
 - ・テレビのスピーカーと本機の両方から音声が出力されている場合は、テレビを消音にしてください。
 - ・HDMI 入力音声をテレビから出力している場合は、リモコンの音量 (+ / -) キーや消音 (※) キーを押しても音量は変化しません。
 - ・一時的に消音にするには、リモコンの消音 (※) キーを押します（前面ディスプレイに「MUTE ON」と表示）。消音を解除するには再度消音 (※) キーを押すか音量 (+ / -) キーを押します（前面ディスプレイに「MUTE OFF」と表示）。



- ・サブウーファーの音量は全体の音量と独立して設定できます。
- ・夜はサブウーファーの音量を小さくするなどしてお楽しみいただくことをおすすめします。

- 6 3D サラウンド再生、サラウンド再生、ステレオ再生、ターゲット再生などを選び、お好みのサウンドに設定する（36 ページ）。

使用後は、電源 (○) キーを押し、本機の電源をオフにする。



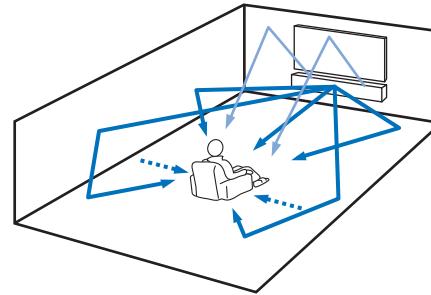
お好みのサウンドを楽しむ

本機にはサウンドをより楽しめる以下のような機能があります。

- ・3D サラウンド再生
- ・サラウンド再生（37 ページ）
- ・シネマ DSP（37 ページ）
- ・ステレオ再生（39 ページ）
- ・ターゲット再生（39 ページ）
- ・ミュージックエンハンサー（40 ページ）
- ・クリアボイス（40 ページ）
- ・各チャンネルの音量調整（41 ページ）

3D サラウンドで再生する

水平方向のサラウンド再生で使用する 5 チャンネルの音声ビームに加えて、上方に 2 本の音声ビームを出力し（ハイチャンネル）、天井に反射させることで上方から音を届けます。水平方向だけのサラウンド再生に比べて、圧倒的な包囲感と臨場感のある音場（音による空間の表現）をつくり出します。



- ← 水平方向のビーム
- ← ハイチャンネルのビーム
- フロントと後方の音声ビームからつくり出されるチャンネル (72 ページ)

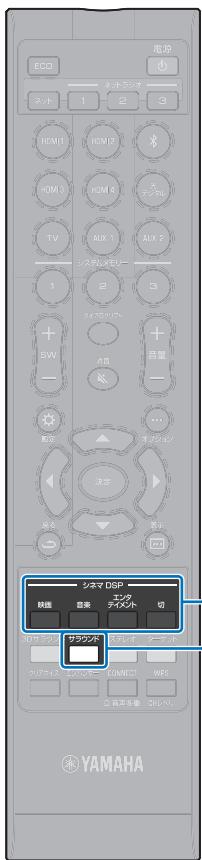
- 1 3D サラウンドキーを押して、3D サラウンド再生に切り替える。

前面ディスプレイに「3D SUR.」と表示されます。

3D SUR.

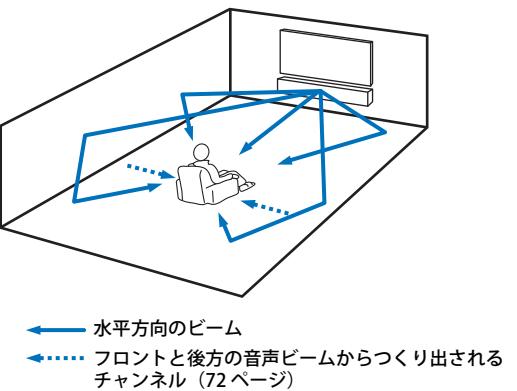


- ・設定メニューの「チャンネル出力」（72 ページ）を設定することで、再生する音源やお部屋に合わせてより詳細にビームを設定できます。



サラウンドで再生する

ハイトチャンネルのビームは使わず、5 チャンネルの音声ビームでサラウンドの音場空間をつくり出します。



- 1 サラウンドキーを押して、サラウンド再生に切り替える。

前面ディスプレイに「SURROUND」と表示されます。

SURROUND



- 設定メニューの「チャンネル出力」(72 ページ) を設定することで、再生する音源やお部屋に合わせてより詳細にビームを設定できます。
- Dolby Atmosなどのハイトチャンネルを含む音声を再生する場合は、3D サラウンドで再生してください。

立体的なサラウンド音声を楽しむ (シネマ DSP 3D / シネマ DSP)

再生する音源や好みに合わせてシネマ DSP プログラムを選びます。ヤマハ独自の音場創生技術（シネマ DSP 3D / シネマ DSP）を用いて、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現し、自然で立体的な視聴空間をお楽しみいただけます。3D サラウンド再生時はシネマ DSP 3D、サラウンド再生時はシネマ DSP を使用して、音場を再現します。選択可能なプログラムはシネマ DSP 3D、シネマ DSP ともに同じです。

- 1 シネマ DSP キー（映画、音楽またはエンタテインメント）を繰り返し押してプログラムを選ぶ。

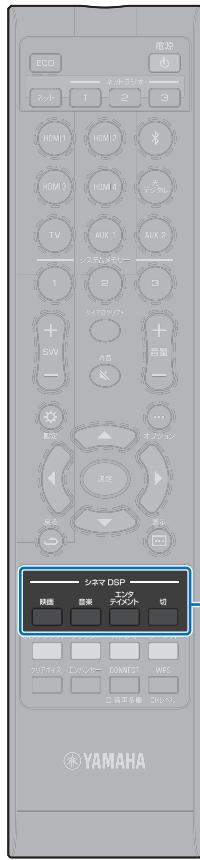
選択したプログラムが前面ディスプレイに表示されます。



- 次の場合はシネマ DSP の機能は無効です。
 - ステレオ再生（39 ページ）またはターゲット再生（39 ページ）をしている
 - マイサラウンド機能を使用している（73 ページ）
- 入力ごとに設定されたプログラムを記憶します。他の入力を選ぶと、自動的に前回設定されたプログラムになります。

シネマ DSP 3D

通常のシネマ DSP の平面的な音場表現に加えて、高さ方向の情報も含めた 3 次元の実測音場データを応用し、立体的な音場を再現します。



■ シネマ DSP 3D/ シネマ DSP プログラム

映画（映画キーで切り替え）

SFX

音楽および効果音が、SF の映像空間をリアルに表現します。シリアルでストーリー性の高いSFX 映画に適しています。

Adventure (アドベンチャー)

音の立体感が強く、アクションならではの痛快な臨場感をつくりだします。

Spectacle (スペクタクル)

ワイドな空間をイメージできる臨場感をつくりだします。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に適しています。

音楽（音楽キーで切り替え）

Music Video (ミュージックビデオ)

ロックやジャズなどのライブコンサート会場の臨場感をつくりだします。映像 / 音場空間がスクリーン周囲に大きく広がり、熱狂的な雰囲気を感じることができます。

Concert (コンサート)

ミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールの 1 階座席にいるような臨場感をつくりだします。豊麗な響きと落ち着いた雰囲気を感じることができます。

Jazz Club (ジャズクラブ)

ニューヨークにかつて存在したライブハウス「ザ・ボトムライン」のステージ正面にいるような臨場感をつくりだします。左右の幅が広く、リアルな躍動感を感じることができます。

エンタテイメント（エンタテイメントキーで切り替え）

Sports (スポーツ)

スポーツ中継のステレオ放送では、解説は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲に大きく広がって、スポーツ観戦の醍醐味を味わうことができます。

Variety (バラエティー)

トークの聞き取りやすさはそのままに、客席の賑やかさが周りを包み込んで、番組の楽しさが倍増します。バラエティー番組、トークショーなどをライブ感豊かに楽しめます。

Drama (ドラマ)

セリフは明瞭さを保ちつつ質感を高め、効果音やBGMには自然な雰囲気と立体感を与えます。シリアルなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの番組に対応します。

Game (ゲーム)

RPG や、アドベンチャーゲームなどに最適な音場です。映画用の音場効果などを用いて、プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を楽しめます。

シネマ DSP を使用しない（切キーを押す）

DSP Off

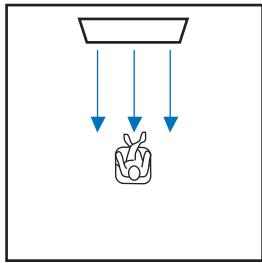
シネマ DSP を使わずに、3D サラウンドまたはサラウンドで再生します。



2 チャンネルで再生する（ステレオ再生）

フロント右、フロント左の2チャンネルステレオで再生します。
マルチチャンネル音声信号の場合は、2チャンネルにダウンミックスして再生します。

1 ステレオキーを押して、ステレオ再生に切り替える。

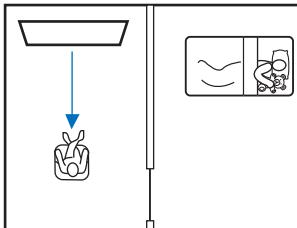


特定の位置に音声を届ける (ターゲット再生)

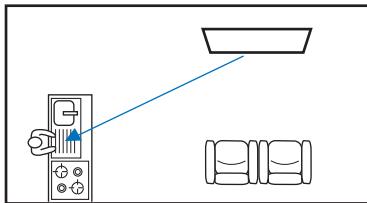
音声ビームを1チャンネルで出力して、特定の位置にいる視聴者が最適に視聴できるようにします。

以下のような場合を参考にしてターゲット再生をお楽しみください。

夜間など、周囲に音を響かせたくないとき



キッチンなど離れた位置からセリフなどを
はっきりと聞き取りたいとき



再生しながらビーム角度を調節します。

1 ターゲットキーを押す。

2 ◀/▶キーで左右のビーム角度を調節する。

◀キーを押すたびに左方向の角度が2度ずつ大きくなり、
▶キーを押すたびに右方向の角度が2度ずつ大きくなります。
左右90度まで調節できます。

左16度に調節したとき

TARGET L16

ターゲット再生をオフにする

3Dサラウンドキー、サラウンドキーまたはステレオキーを押します。



- ターゲット再生中は、シネマ DSP は無効です。
- 他の方向へ音が広がるのを防止するため、低音域を制限して出力しています。



MP3などの圧縮音声を豊かに再生する (ミュージックエンハンサー)

MP3などの圧縮音声に不足しがちな、低音域と高音域を強調、拡張し、より豊かな音で再生します。

- 1 エンハンサーキーを押して、ミュージックエンハンサーをオンにする。
もう一度押すと、オフになります。



- サンプリング・レートが48kHzを超えるデジタル音声信号の場合、ミュージックエンハンサーは動作しません。
- 初期設定ではBluetooth入力時はオン、それ以外の入力時はオフに設定されています。
- 入力ごとにオン/オフを記憶します。他の入力を選ぶと、自動的に前回の状態になります。

人の声を明瞭に再生する（クリアボイス）

映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声を聞きやすく再生します。

- 1 クリアボイスキーを押して、クリアボイスをオンにする。
もう一度押すと、オフになります。

セリフが聞こえる位置を調整する（ダイアログリフト）

セリフが画面よりも下から聞こえる場合に、セリフの位置を上げ、テレビ画面の中央から聞こえるように調整します。

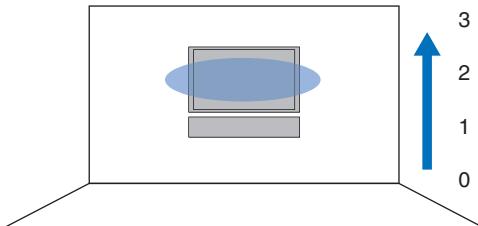
- 1 ダイアログリフトキーを押す。

現在の設定が表示されます。

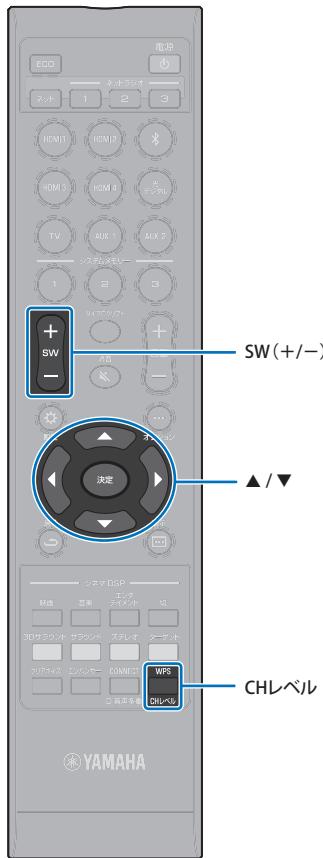
Dig. Lift 0

ダイアログリフトキーを押すたびに、以下のように位置が切り替わります。

0 (初期設定) → 1 → 2 → 3 → 0 · · ·



- ダイアログリフト機能は3Dサラウンドまたはサラウンド再生時（マイサラウンド再生以外）に設定できます。



各チャンネルの音量を調整する

各チャンネルの音（それぞれの方向からの音）がバランス良く聞こえるように、再生しながらチャンネルごとの音量を調整します。



・テスト音を聴きながら調節する場合は「チャンネルレベル」(74ページ) をご覧ください。

1 CH レベルキーを押して、以下から調節したいチャンネルを選ぶ。

FL：フロント左

FR：フロント右

C：センター

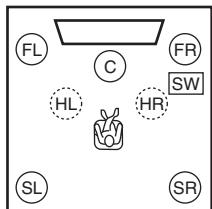
SL：サラウンド左

SR：サラウンド右

HL：ハイト左

HR：ハイト右

SW：サブウーファー



- ・ターゲット再生時は音量を調整できません。
- ・ステレオ再生（39ページ）のときはSW（サブウーファー）の音量のみ調整できます。
- ・マイサラウンド機能をオン（73ページ）にしているときは以下のチャンネルの音量を調整できます。
 - C：センター
 - SL / SR：サラウンド左右
 - SW：サブウーファー

2 ▲/▼キーを押して、音量レベルを調節する。

調節範囲：- 20 ~ + 20



音量バランスの調整例

- ・セリフが聞き取りにくい場合：C（センター）を選び、レベルを上げます。
音の包囲感が少ない場合：SL（サラウンド左）、SR（サラウンド右）、HL（ハイト左）、HR（ハイト右）を選び、レベルを上げます。
- ・サブウーファーの音量はSW（+ / -）キーを使用して調整することもできます。



便利な機能を使う

二カ国語放送の音声を切り替える

BS / 地上デジタル放送のモノラル音声多重信号入力時に、再生する音声を選択します。

1 D音声多重キーを繰り返し押す。

再生する音声の設定が切り替わります。

選択項目：MAIN、SUB、MAIN + SUB

MAIN（初期設定）：主音声を出力します。

SUB：副音声を出力します。

MAIN + SUB：主音声と副音声の両方を出力します。



- 副音声が収録されていない場合やステレオ音声多重信号の場合は、音声は切り替わりません。

エコ機能で節電する

エコ機能を使うと、本機の消費電力を低減できます。

オンにすると、前面ディスプレイの明るさが最小になり、最大音量が小さくなります。

1 ECOキーを押す。

以下のように表示したあと、前面ディスプレイが消灯します。

ECO ON

STATUS インジケーターの明るさは最小になります。

エコ機能をオフにする

ECOキーを押します。

「ECO OFF」が前面ディスプレイに表示されます。



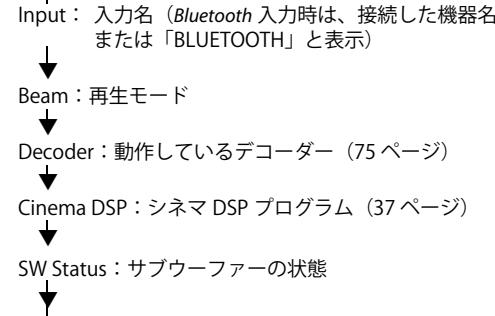
- 大きな音量で再生する場合は、「エコ機能」を「オフ」にしてください。
- エコ機能をオンにすると、設定メニューの「ディマー」（77ページ）と拡張メニューの「MAX VOLUME」（85ページ）は設定できません。

前面ディスプレイに情報を表示する

入力名とサラウンドに関する情報、サブウーファーの状態などを表示します。

1 表示 (REC)キーを押す。

表示 (REC)キーを押すたびに、以下のように切り替わります。
表示される情報は入力によって異なります。



・再生モード表示 (Beam)

- 3D SUR. : 3D サラウンド再生時 (36 ページ)
- SURROUND : サラウンド再生時 (37 ページ)
- MY SUR. : マイサラウンド機能で再生時 (73 ページ)
- STEREO : ステレオ再生時 (39 ページ)
- TARGET : ターゲット再生時 (39 ページ)
- ・サブウーファーの状態表示 (SW Status)
- Wireless : ワイヤレスサブウーファーキットと接続されている (24 ページ)
- None : サブウーファーなし
- Wired : 設定メニューの「サブウーファー」の「出力」が「有線」になっているとき (73 ページ)



システムメモリーに本機の設定を保存する

3種類の異なる設定を本機に保存し、使い分けることができます。以下の例を参考にして測定結果やサラウンドの設定などをシステムメモリーに保存し、状況に合わせて活用してください。

例 1 異なる環境でのインテリビーム測定結果を保存する

音声ビームの経路上にカーテンなどの吸音物がある場合には、ビームの効果が減少します。そこで、カーテンを開けた状態と閉じた状態で測定し、システムメモリー1と2にそれぞれ保存して使い分けます。

例 2 使用頻度の高い設定を保存する

システムメモリー1： サラウンド設定

システムメモリー2： ターゲット再生の角度をキッチンに向けた設定

システムメモリー3： ターゲット再生の角度をリビングに向けた設定

例 3 視聴者ごとの好みに合わせた設定を保存する

システムメモリー1： お父さん用

システムメモリー2： お母さん用

システムメモリー3： パーティー用

システムメモリーに保存できる設定：

- ・インテリビームの測定結果（29ページ）
インテリビームの測定結果を保存する方法については30ページをご覧ください。
(設定メニュー（66ページ）で「水平角度」、「垂直角度」、「ビーム経路長」、「焦点距離」、「Lch / Rch 位置調整」、および「チャンネルレベル」を行った場合は、調整値がインテリビームの自動調整結果に上書きされます。)
- ・3Dサラウンド再生（36ページ）、サラウンド再生（37ページ）、ステレオ再生（39ページ）、またはターゲット再生（39ページ）（3Dサラウンド / サラウンド再生では、「チャンネル出力」（72ページ）を含めて保存します。）

- ・サラウンド機能：シネマ DSP 3D / シネマ DSP（37ページ）
- ・トーンコントロール（84ページ）
- ・サブウーファーの設定（73ページ）

システムメモリーに保存する

1 システムメモリー1、2または3キーを「M1 Save？」と表示されるまで押す。

押したキーに応じて、M1、M2、またはM3と表示されます。

2 手順1で押したシステムメモリーキーを押す。

システムメモリー1キーを押したときは、「M1 Saving」と表示され、設定が保存されます。



- ・選択したメモリーパン号に保存されている設定は、新しい設定に上書きされます。
- ・拡張メニュー（85ページ）の「MEMORY PROTECT」が「ON」になっている場合は、システムメモリーを設定することができません。

保存したメモリーを呼び出す

1 設定を保存したシステムメモリー1、2、または3キーを押す。

システムメモリー1キーを押したときは、「M1 Load？」と表示されます。

2 手順1で押したシステムメモリーキーを押す。

システムメモリー1キーを押したときは、「M1 Loading」と表示され、メモリーが呼び出されます。

Bluetooth を使ってワイヤレス再生する

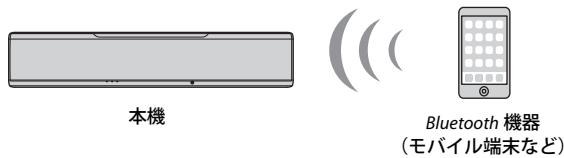
本機は、Bluetooth 機器の音声を再生する受信機としての使い方と、本機の音声を

Bluetooth 機器側で聴く送信機としての使い方ができます。

ご使用の際には、Bluetooth 機器の取扱説明書もご覧ください。

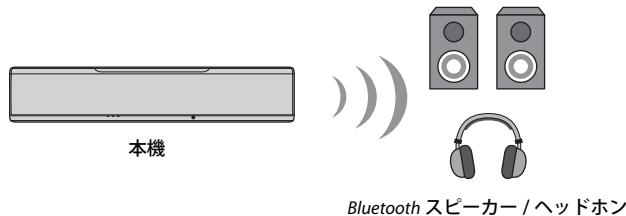
□ Bluetooth 機器から音声を受信する

Bluetooth に対応したモバイル端末やデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth 機器の音声をワイヤレスで再生できます。



□ Bluetooth 機器へ音声を送信する

Bluetooth 対応のワイヤレスヘッドホンなどで音声を聴くことができます。

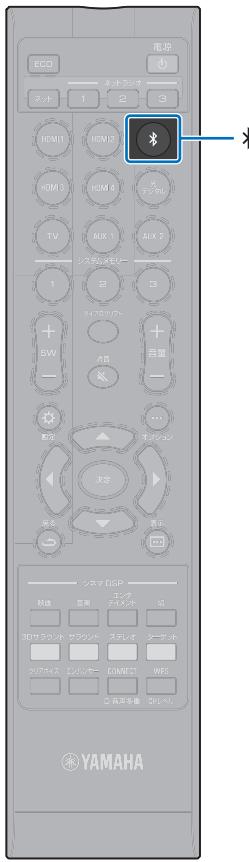


- モバイル端末などからの本機への受信と、本機からスピーカーなどへの送信は同時にできません。



- Bluetooth 機能を使うには、設定メニューの「Bluetooth」が「オン」(初期設定) になっていることが必要です (82 ページ)。
- 「0000」以外のパスキーが設定されている Bluetooth 機器は接続できません。
- 本機は送信 / 受信を合わせて最大 20 台の Bluetooth 機器と接続できます。21 台目の Bluetooth 機器との接続が成功すると、接続した日時がもっとも古い機器の接続情報が削除されます。
- 本機と Bluetooth 機器の距離が 10m の範囲内で接続してください。
- 接続できない場合は、「故障かな？と思ったら」の「Bluetooth」(94 ページ) をご覧ください。
- 必要に応じて、Bluetooth 機器側の音量を調整してください。

Bluetooth 機器の音楽を聴く（受信）



1 リモコンの＊キーを押す。

入力が Bluetooth になり、前面ディスプレイに「BLUETOOTH」と表示されます。

BLUETOOTH



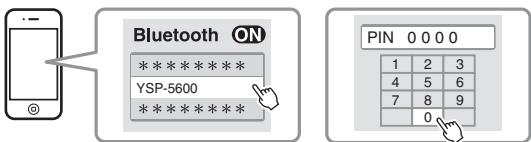
- 他の Bluetooth 機器を接続したことがある場合、＊キーを押すと前回接続した機器と接続されます。いったん切断してから、接続を行ってください。
- 入力が Bluetooth にならないときは、設定メニューの「音声送信」が「オフ」に設定されているか確認してください（82 ページ）。

2 Bluetooth 機器側の Bluetooth 機能をオンにする。

Bluetooth 機器により操作は異なります。お使いの機器の取扱説明書をご確認ください。

3 Bluetooth 機器側で Bluetooth 機器のリストが表示されたら、「YSP-5600」を選ぶ。

パスキー（PIN）の入力を要求されたら、数字の「0 0 0 0」を入力します。



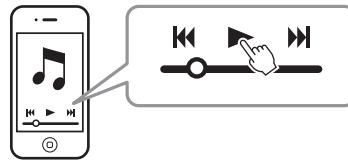
接続中は本機前面の＊インジケーターが点滅し、接続が完了すると点灯します。



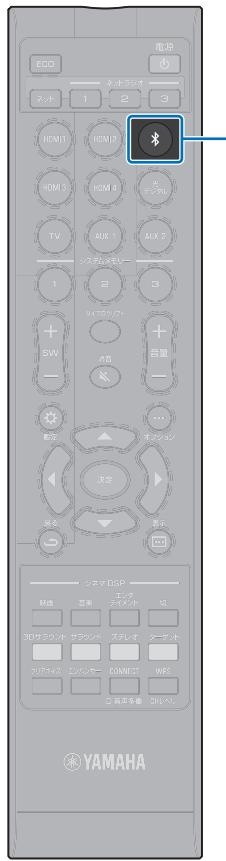
前面ディスプレイには「Connect」と表示されます。

Bluetooth 機器側には＊、または接続完了メッセージが表示されます。

4 Bluetooth 機器側で曲を再生する。



- お使いの機器によっては、音声の出力先として本機を設定する必要があります。
- 設定メニューの「ネットワークスタンバイ」を「オン」にすると、Bluetooth 機器の操作により、本機の電源が連動します（81 ページ）。



Bluetooth 接続を切断する

Bluetooth 接続中に以下のいずれかの操作を行うと、Bluetooth 接続が切断されます。

切断されると本機前面の  インジケーターが消灯します。

- **Bluetooth 機器側で Bluetooth 機能をオフにする。**
- **リモコンの  キーを 3 秒以上押す。**
- **本機の電源をオフにする。**



- 接続が切断されると、前面ディスプレイに「Disconnect」と表示されます。

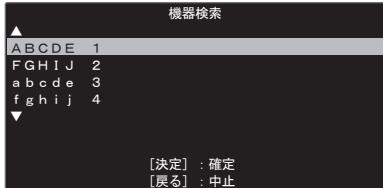


Bluetooth スピーカーやヘッドホンで楽しむ（送信）



- AirPlay の音声を *Bluetooth* 機器で聞くことはできません。

- 1 *Bluetooth* 機器の電源をオンにする。
- 2 入力選択キー（＊を除く）で音声ソースを選ぶ。
- 3 設定（＊）キーを 2 回押す。
テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。
- 4 ▲/▼キーで「*Bluetooth*」を選び、決定キーを押す。
- 5 ▲/▼キーで「音声送信」を選び、決定キーを押す。
- 6 ▲/▼キーで「オン」を選び、決定キーを押す。
- 7 ▲/▼キーで「機器検索」を選び、決定キーを押す。
- 8 ▲/▼キーで *Bluetooth* 機器を選び、決定キーを押す。



接続中は本機前面の Bluetooth インジケーターが点滅し、接続が完了すると点灯します。



テレビ画面には「完了しました」と表示されます。

- 9 音声ソースを再生して *Bluetooth* 機器で聞く。



- 接続する機器を検知できなかった場合は、手順 8 の画面で「Not found」と表示されます。
- 機器の名称を表示できない場合は、機器の名称の代わりに「No Device Name」が手順 8 の画面に表示されます。
- 本機からも再生音が出ます。

Bluetooth 接続を切断する

Bluetooth 接続中に以下のいずれかの操作を行うと、*Bluetooth* 接続が切断されます。

- 切断されると本機前面の Bluetooth インジケーターが消灯します。
- *Bluetooth* 機器側で *Bluetooth* 接続を切断する、または電源をオフにする。
 - 設定メニューの「音声送信」を「オフ」にする。
 - 本機の電源をオフにする。

ネットワークを活用する

ネットワーク機能について

本機をネットワークに接続すると、インターネットラジオや AirPlay、パソコン（サー
バー）に保存されている音楽ファイルを本機で再生できます。

再生の種類によっては、モバイル端末専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」が必要に
なります。

MusicCast CONTROLLER アプリが必要な再生は  で示しています。



- ・「MusicCast CONTROLLER」については弊社ウェブページをご覧ください。
- ・ネットワーク経由で音楽を再生すると、入力が自動的に切り替わります。ネットワーク上の他の音声
ソースに切り替えるには、ネットキーを使います。ネットキーを押すたびに、以下のように入力が切り
替わります。



・パソコン、モバイル端末などの音楽ファイルを再生する

 パソコン、DLNA 対応機器 59 ページ

AirPlay 63 ページ

 モバイル端末 65 ページ

・インターネットラジオや音楽ストリーミングサービスを受信する

 インternetラジオ 60 ページ

 radiko.jp 62 ページ

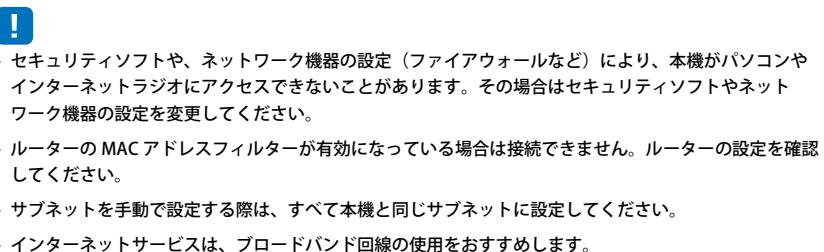
ラジオ局や放送局を登録すると、本機で選局できるようになります。

・ 家庭内のネットワークに接続された他の MusicCast 対応機器と音 声 ソースを送信 / 受信する

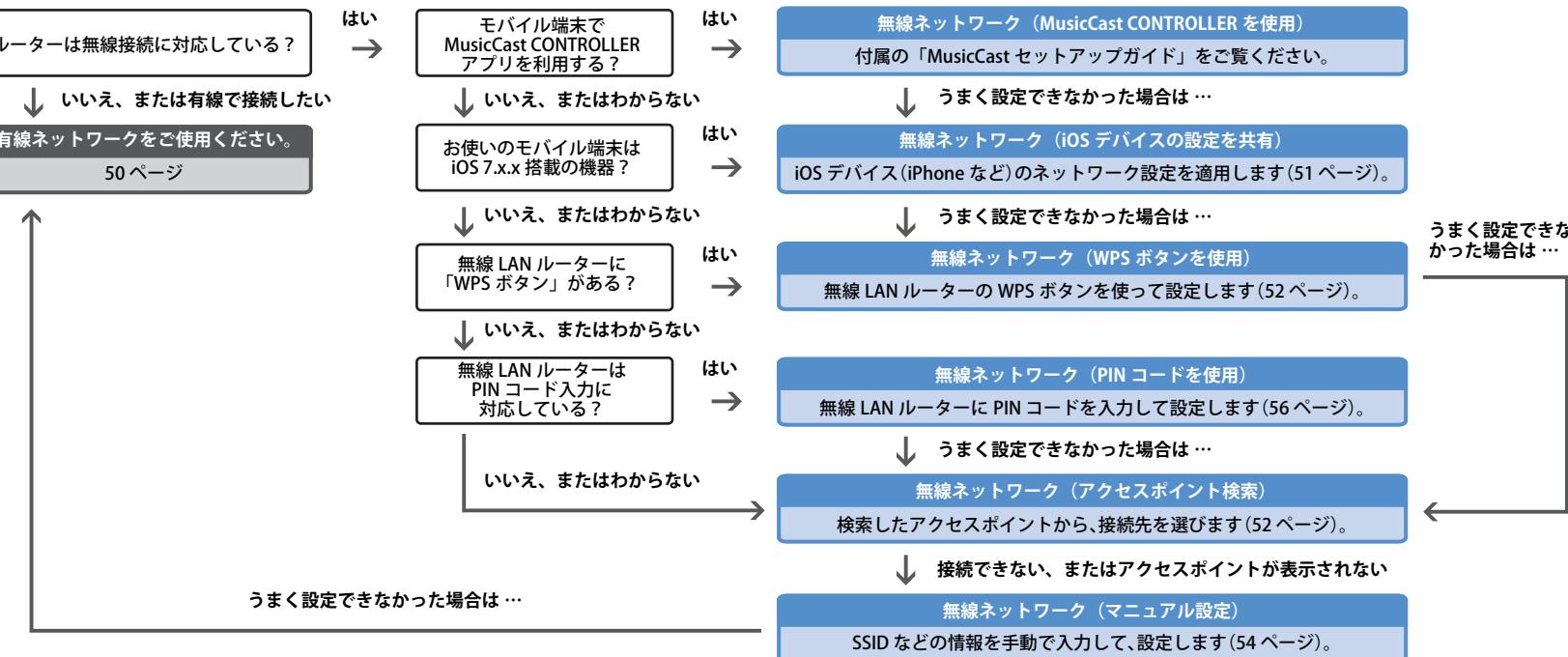
詳細は、付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

ネットワークに接続する

ご利用のネットワーク環境に合わせて、有線ネットワークまたは無線ネットワーク接続を選びます。

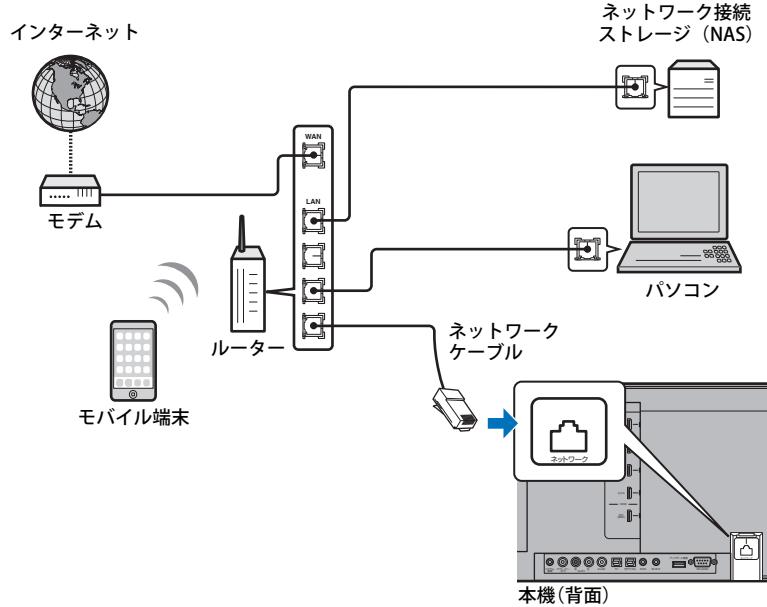


- DHCP サーバー対応のルーターをお使いの場合は、本機でネットワーク設定を行う必要はありません。ネットワーク情報 (IP アドレスなど) が自動で割り当てられます。ルーターが DHCP サーバー非対応の場合や、ネットワーク情報を手動で割り当てる場合は、ネットワークの設定 (80 ページ) が必要になります。
 - 設定メニューの「ネットワーク情報」(79 ページ) で、ネットワーク情報 (IP アドレスなど) が正しく取得されていることを確認できます。



有線ネットワークの接続

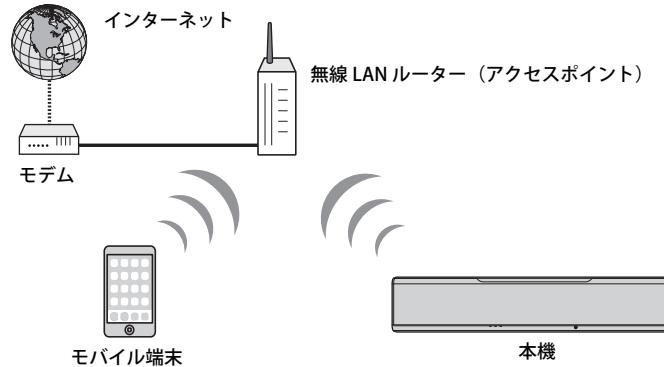
有線ネットワークを利用するには、市販のSTPネットワークケーブル（CAT-5以上のストレートケーブル）を使って、本機をルーターに接続します。



- すでに無線ネットワークに接続している場合、有線ネットワーク接続に変更するには、設定メニューの「ネットワーク接続」を「有線」に変更してください（79ページ）。

無線ネットワークの接続

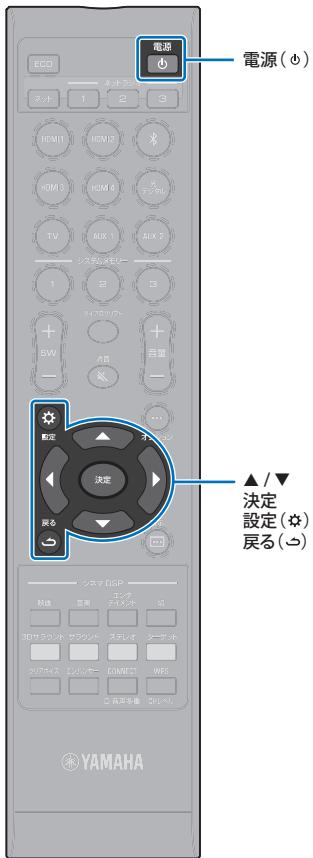
本機を無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に接続します。



無線ネットワークに接続すると、前面の インジケーターが点灯します。



- 有線ネットワーク接続やワイヤレスダイレクト（57ページ）と同時に使用することはできません。
- 本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が離れていると接続できない場合があります。そのような場合は本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を近づけて設置してください。
- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を使わない場合は、モバイル端末と本機を直接接続すると（ワイヤレスダイレクト）、モバイル端末にインストールした HOME THEATER CONTROLLER (WLAN) アプリを使って本機を操作できます（57ページ）。



■ iOS デバイスの設定を共有する

お手持ちの iOS デバイス (iPhone など) のネットワーク設定を本機に適用して、簡単に接続することができます。

設定を始める前に、お使いの iOS デバイスが無線 LAN ルーター (アクセスポイント) に接続されていることを確認してください。



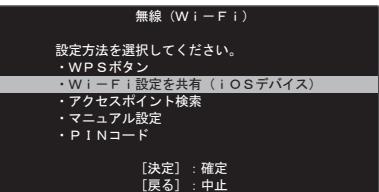
・ iOS 7.1 以降を搭載した iOS デバイスが必要です。

・ 無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の暗号化方式に WEP が使用されている場合は、iOS デバイスを使った接続ができません。「無線 LAN ルーター (アクセスポイント) を検索する」(52 ページ) で接続してください。

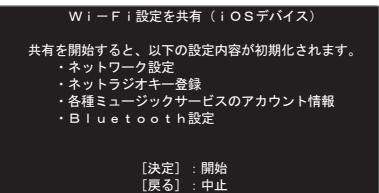
- 1 電源 (○) キーを押して、本機の電源をオンにする。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替える (26 ページ)。
- 3 設定 (※) キーを 2 回押す。
テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。
- 4 ▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。
- 5 ▲/▼ キーで「ネットワーク接続」を選び、決定キーを押す。
- 6 ▲/▼ キーで「無線 (Wi-Fi)」を選び、決定キーを押す。



- 7 ▲/▼ キーで「Wi-Fi 設定を共有 (iOS デバイス)」を選び、決定キーを押す。

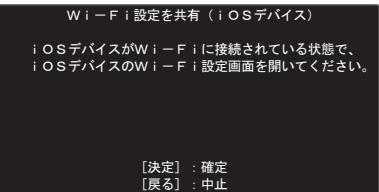


- 8 以下の画面が表示されたら、決定キーを押す。



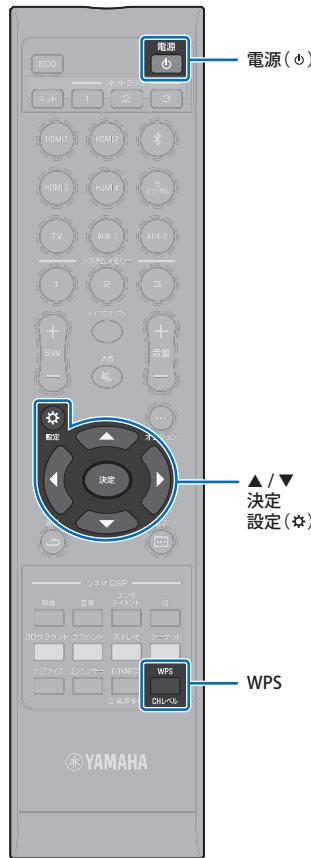
・画面には初期化する内容が表示されています。初期化したくない場合は、戻る (△) キーを押して接続を中止してください。

- 9 以下の画面が表示されたら、決定キーを押す。



- 10 iOS デバイスの Wi-Fi 設定画面を開き、「新しい AIRPLAY スピーカーを設定...」から本機を選ぶ。

以降は、iOS デバイスの画面の指示にしたがって操作します。



■ 無線 LAN ルーターの WPS ボタンを使って設定する

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押すだけで、簡単に接続することができます。

- 1 電源（○）キーを押して、本機の電源をオンにする。
- 2 リモコンの WPS キーを 3 秒以上押し続ける。

前面ディスプレイに「Press WPS button on Access Point」と表示されます。



- 中止する場合は、WPS キー以外のキーを押します。

- 3 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押す。

接続が完了すると、前面ディスプレイに「Completed」と表示されます。

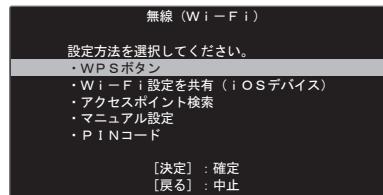
「NotConnect」と表示された場合は、手順 1 からやり直すか、以下を参考にして別の接続方法をお試しください。



- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の暗号化方式に WEP が使用されている場合、または MAC アドレスフィルターが有効になっている場合は、WPS ボタンを使った接続ができません。「無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を検索する」で接続してください。
- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の ESS-ID ステルス機能（SSID の隠蔽）が有効になっている場合は、WPS ボタンを使った接続ができません。「手動で無線接続を設定する」（54 ページ）で接続してください。



・設定メニューで「無線（Wi-Fi）」の「WPS ボタン」を選択すると、画面の案内に従って設定できます。



WPS とは

WPS（Wi-Fi Protected Setup）とは、Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。WPS により、無線ネットワークを簡単に設定できます。

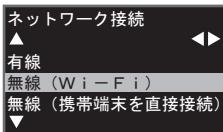
■ 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を検索する

近くの無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を検索して接続します。

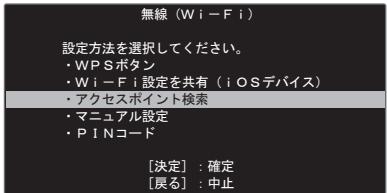
- 1 電源（○）キーを押して、本機の電源をオンにする。
 - 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える（26 ページ）。
 - 3 設定（※）キーを 2 回押す。
- テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。
- 4 ▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。
 - 5 ▲/▼ キーで「ネットワーク接続」を選び、決定キーを押す。



6 ▲/▼キーで「無線 (Wi-Fi)」を選び、決定キーを押す。



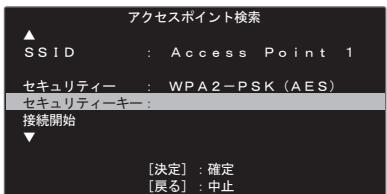
7 ▲/▼キーで「アクセスポイント検索」を選び、決定キーを押す。



利用できるアクセスポイントの一覧が表示されます。

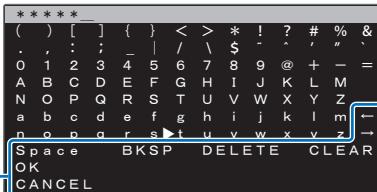
8 ▲/▼キーで接続したいアクセスポイントを選び、決定キーを押す。

無線接続の設定画面が表示されます。



9 決定キーを押す。

10 ◀/▶/▲/▼キーと決定キーでセキュリティキーを入力する。



[←]/[→] : カーソルを左右に移動させる。

[Space] : スペースを入力する。

[BKSP] : カーソル左の文字を削除する。

[DELETE] : カーソル上の文字を削除する。

[CLEAR] : 入力した文字をすべて削除する。

[CANCEL] : 入力を取り消してひとつ前の画面に戻る。

入力が終わったら「OK」を選び、決定キーを押します。手順8の画面に戻ります。

11 ▲/▼キーで「接続開始」を選び、決定キーを押して、接続を開始する。

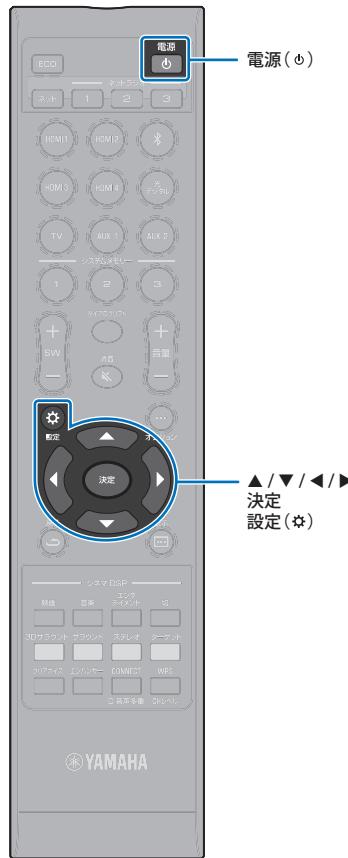
接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、決定キーを押して手順6からやり直すか、以下を参考にして別の接続方法をお試しください。



・無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の ESS-ID ステルス機能（SSID の隠蔽）が有効になっている場合は、「アクセスポイント検索」を使った接続ができません。「手動で無線接続を設定する」（54ページ）で接続してください。

12 設定メニューを終了するには、設定（※）キーを押す。



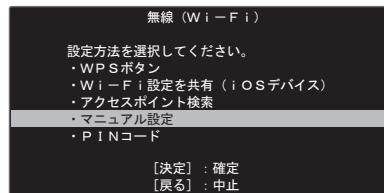
■ 手動で無線接続を設定する

SSID (ネットワーク名) や暗号化方式、セキュリティーキーを手動で設定します。

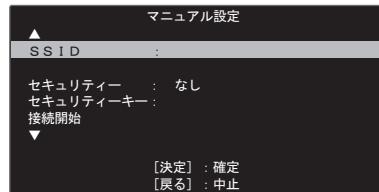
- 1 電源 (○) キーを押して、本機の電源をオンにする。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替える (26 ページ)。
- 3 設定 (※) キーを 2 回押す。
テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。
- 4 ▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。
- 5 ▲/▼ キーで「ネットワーク接続」を選び、決定キーを押す。
- 6 ▲/▼ キーで「無線 (Wi-Fi)」を選び、決定キーを押す。



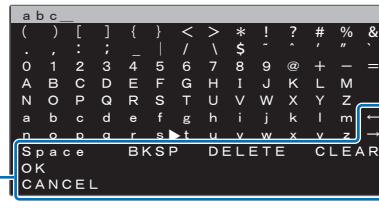
- 7 ▲/▼ キーで「マニュアル設定」を選び、決定キーを押す。



- 8 ▲/▼ キーで「SSID」を選ぶ。



- 9 ◀/▶/▲/▼ キーと決定キーで無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の SSID を入力する。



[←]/[→]：カーソルを左右に移動させる。

[Space]：スペースを入力する。

[BKSP]：カーソル左の文字を削除する。

[DELETE]：カーソル上の文字を削除する。

[CLEAR]：入力した文字をすべて削除する。

[CANCEL]：入力を取り消してひとつ前の画面に戻る。

入力が終わったら「OK」を選び、決定キーを押します。手順 8 の画面に戻ります。

- 10 ▲/▼ キーで「セキュリティー」を選び、◀/▶ キーで暗号化方式を選ぶ。

選択項目

なし、WEP、WPA2-PSK (AES)、Mixed Mode



・「なし」を選ぶと通信が暗号化されないため、第三者に無断で本機に接続される危険性があります。



11 ▲/▼キーで「セキュリティーキー」を選び、決定キーを押す。



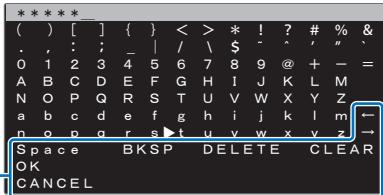
- 手順10で「なし」を選んだ場合は、セキュリティーキーは設定できません。

12 ◀/▶/▲/▼キーと決定キーでセキュリティーキーを入力する。

手順10で「WEP」を選んだ場合は、5文字または13文字の文字列、または10桁または26桁の16進数を入力してください。
「WEP」以外を選んだ場合は、8文字から63文字までの文字列、または64桁の16進数を入力してください。



- 16進数は、0～9の数字およびa～fまでのアルファベットを使います。アルファベットの大文字／小文字の区別はありません。



[←]/[→]：カーソルを左右に移動させる。

[Space]：スペースを入力する。

[BKSP]：カーソル左の文字を削除する。

[DELETE]：カーソル上の文字を削除する。

[CLEAR]：入力した文字をすべて削除する。

[CANCEL]：入力を取り消してひとつ前の画面に戻る。

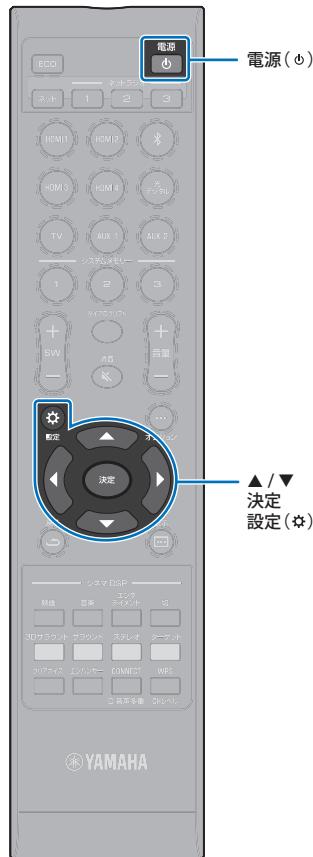
入力が終わったら「OK」を選び、決定キーを押します。手順8の画面に戻ります。

13 ▲/▼キーで「接続開始」を選び、決定キーを押して、接続を開始する。

接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、決定キーを押して手順6からやり直してください。

14 設定メニューを終了するには、設定(※)キーを押す。



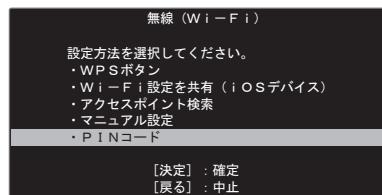
PIN コード方式の WPS を使う

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に本機の PIN コードを設定して接続します。無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が PIN コード式の WPS に対応している場合に利用できます。

- 1 電源（○）キーを押して、本機の電源をオンにする。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える（26 ページ）。
- 3 設定（＊）キーを 2 回押す。
テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。
- 4 ▲/▼キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。
- 5 ▲/▼キーで「ネットワーク接続」を選び、決定キーを押す。
- 6 ▲/▼キーで「無線（Wi-Fi）」を選び、決定キーを押す。



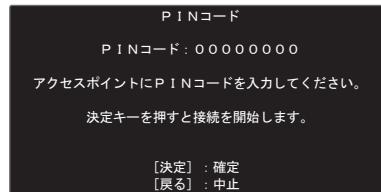
- 7 ▲/▼キーで「PIN コード」を選び、決定キーを押す。



テレビ画面に利用可能なアクセスポイントの一覧が表示されます。

- 8 ▲/▼キーで接続したいアクセスポイントを選び、決定キーを押す。

本機の PIN コードが表示されます。



- 9 本機の PIN コードを無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に設定する。

設定方法については無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の取扱説明書をご覧ください。

- 10 決定キーを押して、接続を開始する。

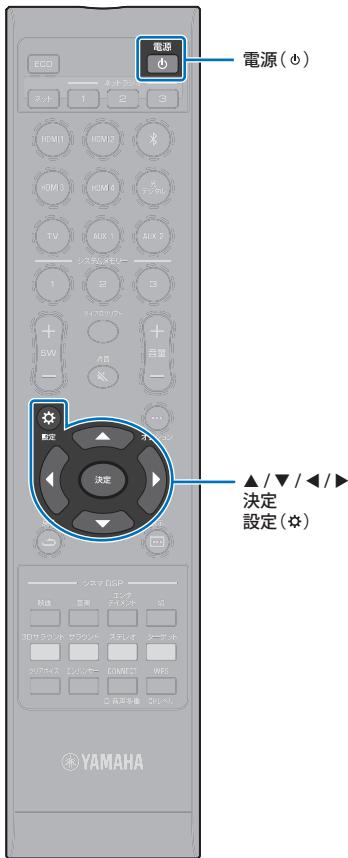
接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、決定キーを押して手順 6 からやり直すか、以下を参考にして別の接続方法をお試しください。



・無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の暗号化方式に WEP が使用されている場合、または MAC アドレスフィルターが有効になっている場合は、PIN コードを使った接続ができません。「無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を検索する」（52 ページ）で接続してください。

- 11 設定メニューを終了するには、設定（＊）キーを押す。

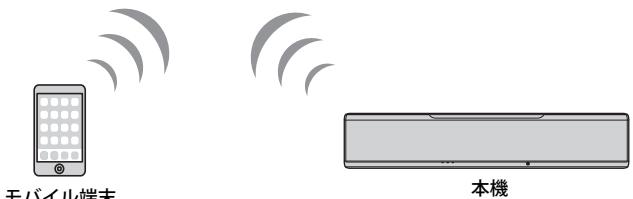


モバイル端末を本機に直接接続する（ワイヤレスダイレクト）

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を使わずに、モバイル端末と本機を直接接続します。

ワイヤレスダイレクトでは、以下の機能が使えます。

- MusicCast CONTROLLER または HOME THEATER CONTROLLER (WLAN) アプリをインストールしたモバイル端末から本機を操作する。
- AirPlay を使って iOS デバイスの音楽ファイルを本機で再生する。



- 有線ネットワーク接続（50 ページ）や無線ネットワーク接続（50 ページ）と一緒に使用することはできません。
- ワイヤレスダイレクト使用時はインターネットに接続できません。したがってインターネットラジオなどのインターネットサービスは使用できません。

- 1 電源（○）キーを押して、本機の電源をオンにする。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える（26 ページ）。
- 3 設定（※）キーを 2 回押す。

テレビ画面に「設定メニュー」が表示されます。

- 4 ▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。

- 5 ▲/▼ キーで「ネットワーク接続」を選び、決定キーを押す。

- 6 ▲/▼ キーで「無線（携帯端末を直接接続）」を選び、決定キーを押す。



- 7 ▲/▼ キーで「セキュリティー」を選び、◀/▶ キーで暗号化方式を選ぶ。

選択項目

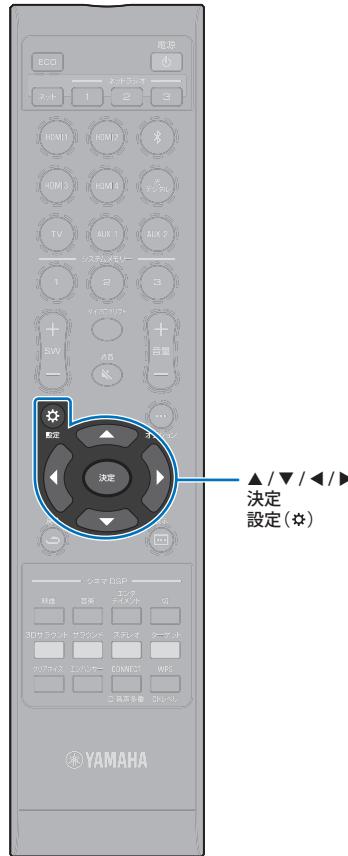
なし、WPA2-PSK (AES)

通常は「WPA2-PSK (AES)」を選んでください。お使いのモバイル端末が WPA2-PSK (AES) に対応していない場合は、「なし」を選んでください。

- 8 ▲/▼ キーで「セキュリティーキー」を選び、決定キーを押す。



• 手順 7 で「なし」を選んだ場合は、セキュリティーキーは設定できません。



9 ◀/▶/▲/▼ キーと決定キーでセキュリティーキーを入力する。

8 文字から 63 文字までの文字列、または 64 桁の 16 進数を入力してください。

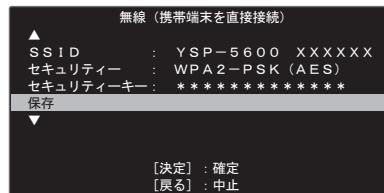


- 16 進数は、0～9 の数字および a～f までのアルファベットを使います。アルファベットの大文字 / 小文字の区別はありません。



- [←]/[→]：カーソルを左右に移動させる。
- [Space]：スペースを入力する。
- [BKSP]：カーソル左の文字を削除する。
- [DELETE]：カーソル上の文字を削除する。
- [CLEAR]：入力した文字をすべて削除する。
- [CANCEL]：入力を取り消してひとつ前の画面に戻る。

入力が終わったら「OK」を選び、決定キーを押します。以下のような画面が表示されます。



- 次に進む前に、以下の情報を控えておいてください。これらの情報はモバイル端末の Wi-Fi 設定を行うときに必要です。
 - テレビ画面に表示されている SSID
 - 入力したセキュリティーキー

10 ▲/▼ キーで「保存」を選び、決定キーを押す。

設定が完了し、テレビ画面に「端末を設定してください」と表示されます。

これにより本機はアクセスポイントとして動作します。

次に、モバイル端末の Wi-Fi 設定を行います。

11 モバイル端末の Wi-Fi 設定を行う。

設定方法についてはモバイル端末の取扱説明書をご覧ください。

- モバイル端末の Wi-Fi 機能を有効にする。
- アクセスポイントの一覧が表示されたら、手順9で確認したSSIDを選ぶ。
- パスワードの入力を求められたら、手順 9 で確認したセキュリティーキーを入力する。

12 設定メニューを終了するには、設定 (⌘) キーを押す。



パソコン（サーバー）の音楽ファイルを聴く

パソコンや DLNA 対応のネットワーク接続ストレージ（NAS）に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。



- この機能を使用するには、本機とパソコン（サーバー）が同じルーターに接続されている必要があります（49 ページ）。設定メニューの「ネットワーク情報」（79 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- 無線ネットワーク接続時に音声が途切れる場合は、有線でネットワークに接続してください。



- 再生できるファイルフォーマットは以下の通りです。
 - WAV (PCM フォーマットのみ)、AIFF、MP3、WMA、MPEG-4 AAC、FLAC、ALAC ファイルに対応しています（1～2 チャンネル音声のみ再生可能）。
 - WAV、AIFF および FLAC ファイルは 192kHz まで、ALAC ファイルは 96kHz まで、その他のファイルは 48kHz までのサンプリング周波数に対応しています。
 - WAV、FLAC、ALAC ファイルのギャップレス再生に対応しています。
 - FLAC ファイルを再生するには、パソコン（サーバー）にインストールされているサーバーソフトが、DLNA を使った FLAC ファイルの共有に対応している必要があります。
 - DRM（デジタル著作管理）により保護されたファイルは再生できません。

本機の特長

準備する

再生する

ネットワークを活用する

設定する

付録

安全上のご注意

メディアの共有設定を行う

パソコン（サーバー）に保存されている音楽ファイルを本機で再生するには、各機器で本機とのメディア共有を有効にする必要があります。

Windows Media Player がインストールされているパソコン

本機は Windows Media Player 11 以降に対応しています。ここでは例として、Windows Media Player 12 の設定方法を説明します。

- パソコンで Windows Media Player 12 を起動する。
- メニューバーの「ストリーム」から、「メディアストリーミングを有効にする」を選ぶ。
- 「メディアストリーミングを有効にする」をクリックする。
- 機種名の右側にあるドロップダウン・リストで「許可」を選ぶ。
- 「OK」をクリックして設定を終了する。

Windows Media Player 以外の DLNA サーバーソフトがインストールされているパソコン（サーバー）

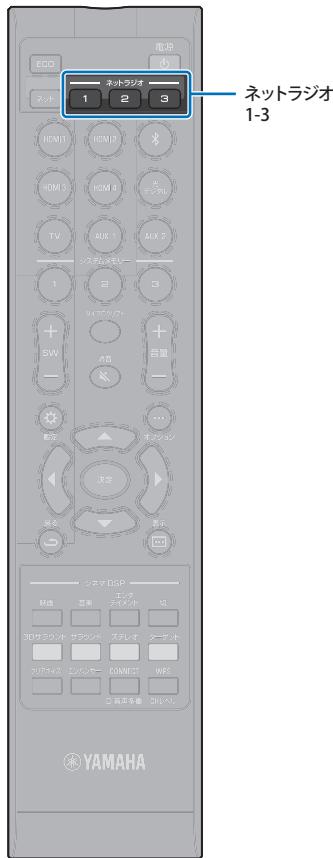
各機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照してメディアの共有設定を行ってください。

音楽ファイルを再生する

モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリを使用して再生します。



- 再生の前に MusicCast CONTROLLER アプリの基本設定を行ってください。
- 詳しくは、付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。



インターネットラジオを聴く

インターネットラジオ放送を受信します。



- この機能を使用するには、本機がインターネットに接続されている必要があります（49ページ）。設定メニューの「ネットワーク情報」（79ページ）で、ネットワーク情報（IPアドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- インターネットラジオ局や時間帯によっては、受信できないことがあります。
- vTuner ラジオ局データベースサービスを利用してインターネットラジオ放送を受信します。このサービスは事前の通知なく中止される場合があります。

インターネットラジオ局を選ぶ

モバイル端末にインストールしたMusicCast CONTROLLERアプリを使用して、インターネットラジオ局を選びます。



- 選局する前にMusicCast CONTROLLERアプリの基本設定を行ってください。
- 詳しくは、付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

お気に入りのインターネットラジオ局を登録する

インターネットラジオ局をリモコンのネットラジオキーや、vTuner の Bookmarks フォルダーに登録します。

ネットラジオキーを使って登録する

- 登録したいインターネットラジオ局を再生する。
- ネットラジオ 1-3 キーのいずれかを 3 秒以上押す。

登録したインターネットラジオ局を呼び出す

- インターネットラジオ局を登録したネットラジオ 1、2、または 3 キーを押す。
前面ディスプレイに「NET RADIO」と表示され、再生が始まります。

vTuner のウェブサイトでブックマークを登録する

vTuner のウェブサイトから Bookmarks フォルダーにお気に入りのインターネットラジオ局を「ブックマーク」として登録することもできます。

1 本機でいすれかのインターネットラジオ局を再生する。

初めて登録するときに必要な操作です。

2 本機の vTuner ID を調べる。

本機の vTuner ID は設定メニューの「ネットワーク情報」(79 ページ) で確認できます。

3 パソコンのウェブブラウザーで vTuner ウェブサイト

(<http://yradio.vtuner.com/>) にアクセスし、本機の vTuner ID を入力する。

表示言語を切り替えられます。



vTuner ID を入力します。



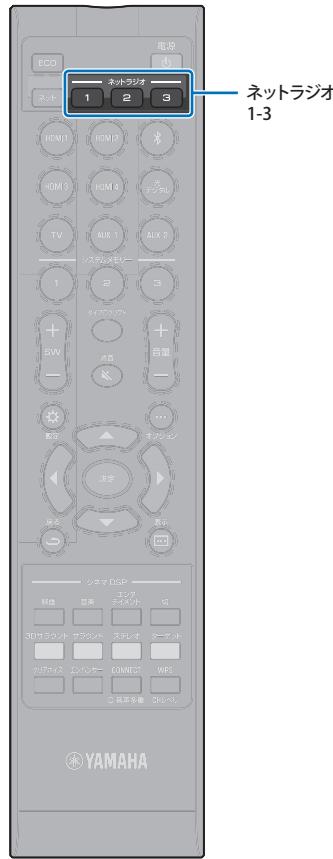
- ブックマークの登録にはアカウント作成が必要です。電子メールアドレスを入力し、アカウントを作成してください。

4 お気に入りのインターネットラジオ局を登録する。

登録したいラジオ局の追加 (♥+) アイコンをクリックします。



- ブックマークを削除するには、Home 画面から Bookmarks を選び、削除したいラジオ局の削除 (♥-) アイコンをクリックします。



radiko.jp を聴く

radiko.jp は、地上波ラジオ放送を CM も含めて同時にインターネットで配信する「IP (Internet Protocol) サイマルラジオ」サービスです。放送エリアに準じた地域に配信するサービスのため、エリア（都道府県）ごとに対応している放送局が異なります。対応しているエリアや放送局については、radiko.jp のウェブページをご覧ください。



- radiko.jp プレミアム（有料）に登録すると、全国のラジオ局を受信できます。
- radiko.jp プレミアムを利用するには、radiko.jp のウェブサイトでユーザー登録し、モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリからログイン名とパスワードを入力してください。

放送局名から選局する

モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリを使用して、選局します。



- 選局する前に MusicCast CONTROLLER アプリの基本設定を行ってください。
- 詳しくは、付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

お気に入りの放送局を登録する

1 登録したいラジオ局を再生する。

2 ネットラジオ 1-3 キーのいずれかを 3 秒以上押す。

□ 登録したラジオ局を呼び出す

1 ラジオ局を登録したネットラジオ 1、2、または 3 キーを押す。

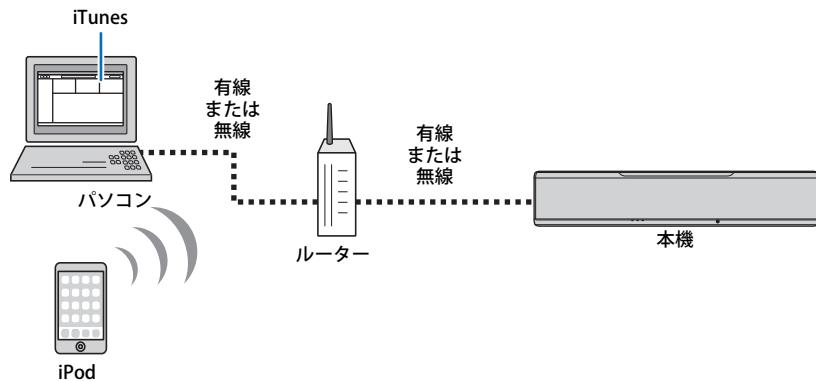
前面ディスプレイに「radiko」と表示され、再生が始まります。

AirPlay で音楽を聞く

AirPlay 機能を使って、iTunes や iPod の音楽ファイルをネットワーク経由で再生します。



- この項では iPod touch、iPhone、iPad を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod touch、iPhone および iPad を意味します。



- この機能を使用するには、本機とパソコンや iPod が同じルーターに接続されている必要があります（49 ページ）。設定メニューの「ネットワーク情報」（79 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- マルチ SSID 対応ルーターでは、接続する SSID により他の機器へのアクセスが制限されることがあります。本機と iPod は同じ SSID に接続してください。
- AirPlay は iOS 4.3.3 以降を搭載した iPhone、iPad、iPod touch、OSX Mountain Lion を搭載した Mac、iTunes 10.2.2 以降をインストールした Windows 搭載パソコンにおいて動作します。

iTunes/iPod で曲を再生する

iTunes/iPod を操作して再生を始めます。

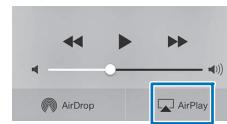
- 本機の電源をオンにし、iTunes を起動する、または iPod の音楽再生画面を表示する。

iTunes/iPod が本機を認識すると AirPlay アイコン（）が表示されます。

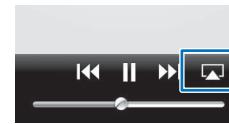
iTunes（表示例）



iPod iOS7/iOS8（表示例）



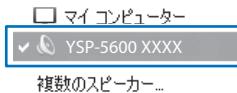
iPod iOS6（表示例）



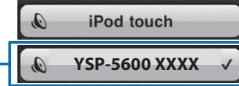
- アイコンが表示されない場合は、本機とパソコンや iPod が正しくルーターに接続されているか確認してください。

- iTunes/iPod で AirPlay アイコンをクリック（タップ）し、音声の出力先として本機（ネットワーク名）を選択。

iTunes（表示例）



iPod（表示例）



複数のスピーカー...

本機のネットワーク名

3 iTunes/iPod を操作して曲を再生する。

iPod の「ミュージック」アプリ、またはパソコンの iTunes を使って再生します。

前面ディスプレイに「AirPlay」と表示され、再生が始まります。

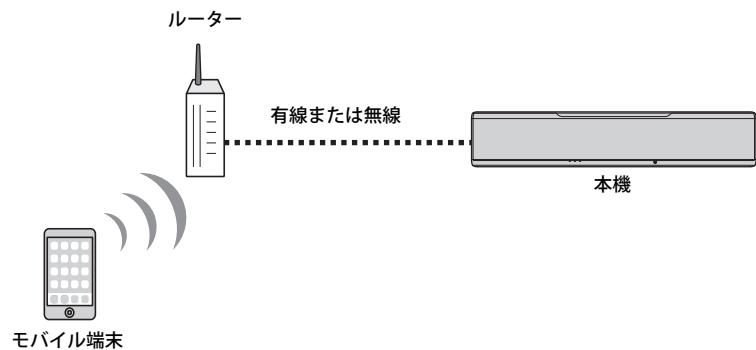


- ・設定メニューの「ネットワークスタンバイ」(81 ページ) を「オン」に設定した場合は、iTunes/iPod で再生を始めると本機の電源が自動的にオンになります。
- ・iTunes/iPod に表示される本機のネットワーク名は、設定メニューの「ネットワーク名」(81 ページ) で変更できます。
- ・再生中は iTunes/iPod から本機の音量を操作できます。

注意

- ・iTunes/iPod で音量を調節すると、予想以上に音量が大きくなり、本機やスピーカーが故障する場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐに iTunes/iPod の再生を停止してください。

モバイル端末の音楽ファイルをネットワーク経由で再生します。



モバイル端末で曲を再生する

モバイル端末にインストールした MusicCast CONTROLLER アプリを使用して再生します。



- 再生の前に MusicCast CONTROLLER アプリの基本設定を行ってください。
- 詳しくは、付属の「MusicCast セットアップガイド」をご覧ください。

注意

- モバイル端末で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、本機やスピーカーが故障する場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐにモバイル端末の再生を停止してください。



- この機能を使用するには、本機とパソコンやモバイル端末が同じルーターに接続されている必要があります（49 ページ）。設定メニューの「ネットワーク情報」（79 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- マルチ SSID 対応ルーターでは、接続する SSID により他の機器へのアクセスが制限されることがあります。本機とモバイル端末は同じ SSID に接続してください。

本機の特長

準備する

再生する

ネットワークを活用する

設定する

付録

安全上のご注意



設定する

設定メニュー

設定メニューには、良好なサラウンド効果を得るための音声ビームの調整、チャンネルレベルなどの音の調節、HDMIの設定など、本機を使いこなすためのいろいろな設定があります。

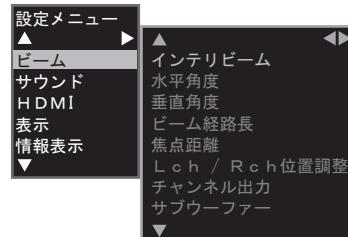
設定メニューはテレビ画面を見ながら設定します（前面ディスプレイには表示されません）。テレビにメニューを表示させる方法については、「メニュー画面をテレビに表示する」(26 ページ) をご覧ください。

操作手順

1 設定 (⌘) キーを押す。

設定 (⌘) キーを押すたびに、以下のように切り替わります。

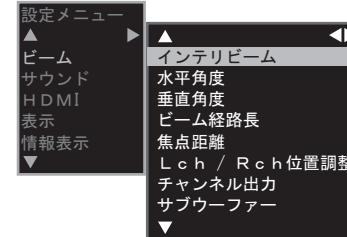
- 「ビーム」、「サウンド」、「HDMI」、「表示」、「情報表示」の設定ができます。
- 「ネットワーク」、「Bluetooth」の設定ができます。
- メニューが終了します。



- ・設定 (⌘) キーを長押しすると、言語選択の画面になります(77 ページ)。
- ・ファームウェアの更新が可能な場合は、封筒アイコン (✉) が表示されます (87 ページ)

2 ▲/▼ キーを押してメニューを選び、決定キーまたは ► キーを押す。

設定したいメニューが表示されるまで、この手順を繰り返してください。



◀ キーまたは戻る (⟲) キーを押すと、ひとつ前のメニュー表示に戻ります。

3 ▲/▼ キーを押して、各メニューを設定する。

4 設定 (⌘) キーを押して、設定メニューを終了する。

設定メニューリスト

メニュー	項目	内容	ページ
ビーム	ビーム調整+音質調整	音声ビームと音質を自動的に設定します。	31
	ビーム調整	音声ビームを自動的に設定します。	31
	音質調整	音質を自動的に設定します。	31
	水平角度	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右 音声ビームの水平方向の角度を調節します。	69
	垂直角度	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、ハイト左、ハイト右 音声ビームの垂直方向の角度を調節します。	69
	ビーム経路長	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、ハイト左、ハイト右 音声ビームの経路距離を調節します。	70
	焦点距離	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、ハイト左、ハイト右 音声ビームの焦点距離を調節します。	70
	Lch / Rch 位置調整	調整、左、右 左右の音のバランスを調節します。	71
	フロント	フロントチャンネルの出力方法を設定します。	72
	チャンネル出力	サラウンドバック サラウンドバックチャンネルの有無を設定します。	72
	マイサラウンド	マイサラウンド機能の有効 / 無効を設定します。	73
サブウーファー	出力	サブウーファーの有無、接続方法を設定します。	73
	クロスオーバー	サブウーファーから出力する音声の周波数の上限を設定します。	73
	距離	サブウーファーから視聴位置までの距離を設定します。	73
	ペアリング	ワイヤレスサブウーファーキットと手動でペアリングします。	73
	チャンネルレベル	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、ハイト左、ハイト右、サブウーファー 各チャンネルの音量を調節します。	74
サウンド	アダプティブ DRC	本機の音量に連動してダイナミックレンジを調節するかどうかを設定します。	74
	ダイナミックレンジ	ダイナミックレンジを設定します。	75
	DTS	Neural : X、ダイアログコントロール DTS デコーダーを設定します。	75
HDMI	HDMI コントロール	HDMI コントロール機能のオン / オフを切り替えます。	76
	HDMI 音声出力	HDMI 入力した音声を、本機またはテレビのどちらで再生するかを設定します。	76
	TV インプット	TV 入力の端子を TV (光デジタル)、AUX1 (アナログ)、AUX2 (同軸デジタル) から選びます。	76

メニュー	項目	内容	ページ
表示	ディマー	前面ディスプレイとインジケーターの明るさを調節します。	77
	メニュー言語	テレビに表示されるメニュー画面の表示言語を設定します。	77
	距離単位	メニューなどに表示される長さや距離の単位を設定します。	77
情報表示	音声	入力している音声信号の情報を表示します。	78
	映像	入力している映像信号の情報を表示します。	78
	システム	本機のファームウェアのバージョンを表示します。	78
	ネットワーク情報	本機のネットワーク情報を表示します。	79
ネットワーク	ネットワーク接続	ネットワークへの接続方法を設定します。	79
	IP アドレス	DHCP、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバー (P)、DNS サーバー (S) IP アドレスを指定して本機を操作できるネットワーク機器を制限します。	80
	MAC アドレスフィルター	MAC アドレスを指定して本機を操作できるネットワーク機器を制限します。	80
	ネットワークスタンバイ	ネットワーク機器から本機の電源を入れる機能（ネットワークスタンバイ）を有効 / 無効にします。	81
	ネットワーク名	ネットワークに表示される本機の名称を設定します。	81
ネットワークアップデート	アップデート実行 本機のファームウェアをネットワーク経由で更新します。	81	
Bluetooth	Bluetooth	Bluetooth 機能のオン / オフを切り替えます。	82
	音声送信	Bluetooth 機器（Bluetooth スピーカーなど）への音声送信機能をオン / オフします。	82
	機器検索	本機から音声を送信する Bluetooth 機器（Bluetooth スピーカーなど）を検索します。	82
	MAC アドレス	Bluetooth 接続の MAC アドレスを表示します。	82

ビーム

インテリビームの「自動設定」(29ページ)により、「水平角度」、「垂直角度」、「ビーム経路長」、「焦点距離」(「センター」を除く)および「Lch / Rch 位置調整」は適切な値に設定されますが、「ビーム」のメニューでこれらの設定を手動で微調整できます。

また、「ビーム」のメニューでは、各チャンネルの音声出力方法を変更できます。

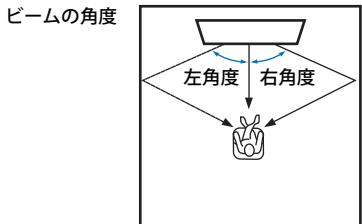


- フロントチャンネルの音声ビームを手動で調整する場合は、「チャンネル出力」の「フロント」を「ビーム」に設定してください(72ページ)。「ステレオ」になっていると調整できません。

水平角度

設定メニュー → ビーム → 水平角度

テスト音を聴きながら、音声ビームの水平方向の角度をチャンネルごとに調節します。左方向に調節すると音声出力は左方向へ移動し、右方向に調節すると右方向へ移動します。

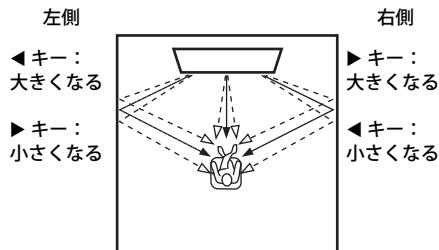


設定項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右

調整範囲

左 90° ~ 右 90°



垂直角度

設定メニュー → ビーム → 垂直角度

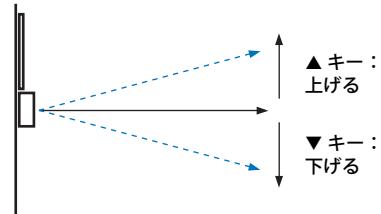
テスト音を聴きながら、音声ビームの垂直方向の角度をチャンネルごとに調節します。上方向に調節すると音声出力は上方向へ移動し、下方向に調節すると下方向へ移動します。

設定項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右

調整範囲

-45° ~ 0° (水平) ~ 45°



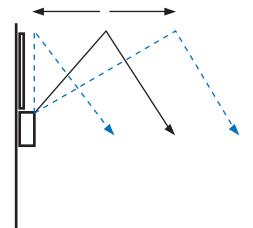
設定項目

ハイト左、ハイト右

調整範囲

+30° ~ +90°

▲キー: 上げる ▼キー: 下げる



ビーム経路長

設定メニュー

→ ビーム

→ ビーム経路長

音声のビームが高出力されてから壁や天井に反射して視聴位置に到達するまでの距離をチャンネルごとに設定します。音の遅延量が補正され、各チャンネルの音が同じタイミングで視聴位置に届くようになります。

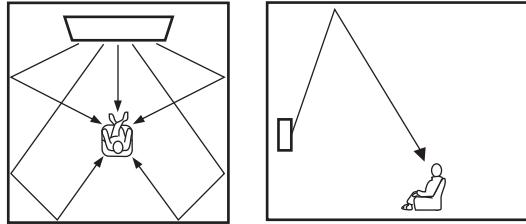
設定項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、ハイト左、ハイト右

調整範囲

0.3m ~ 24.0m

右図では、矢印の長さがビームの経路長を表しています。



・「ビーム経路長」は「水平角度」または「垂直角度」を調節した場合にのみ設定してください。

焦点距離

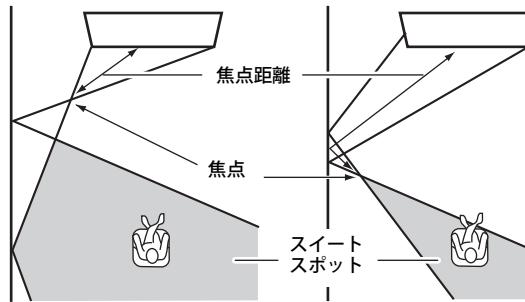
設定メニュー

→ ビーム

→ 焦点距離

音がよく聞こえる範囲（スイートスポット）の広さを調節します。

下図のように音が一旦焦点を結び、その地点からまた広がるよう設定されています。数値を小さく（-（マイナス）方向に）設定するほどスイートスポットは広くなり、数値を大きく（+（プラス）方向に）設定するほどスイートスポットは狭くなります。



設定項目

フロント左、フロント右、サラウンド左、サラウンド右、ハイト左、ハイト右

調整範囲

- 1.0m ~ + 13.0m

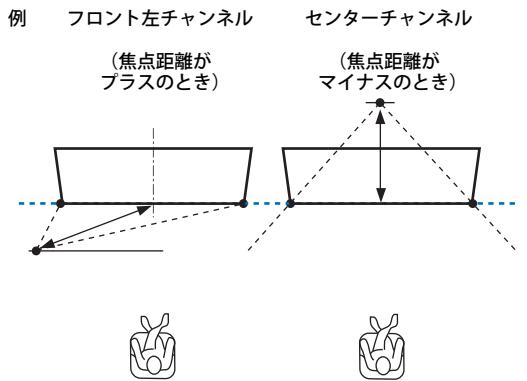
設定項目

センター

調整範囲

- 1.0m ~ - 0.5m (初期設定) ~ + 13.0m

センター・チャンネルは、初期設定（-0.5m）での使用をおすすめします。



・「自動設定」(29ページ)では、シートスポットが本機の幅より少し広くなるよう自動的に調節されます。

Lch / Rch 位置調整

設定メニュー

→ ビーム

→ Lch / Rch 位置調整

左右の音が不自然に聞こえたら、まず各チャンネルの音量を調節します（41、74ページ）。

調節しても、左右で音の聞こえてくる方向が不自然な場合は、左右チャンネルの位置調整をします。

フロント左／右チャンネルの音声が聞こえてくる方向が、センターに近い位置になるように調節します。

□ 調整

選択項目

オフ（初期設定） 調節しません。

オン 「左」、「右」を選択し、音の方向を調節します。

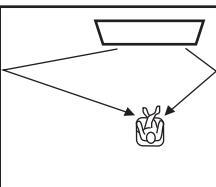
□ 左

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。
「調整」をオンにすると選択できます。

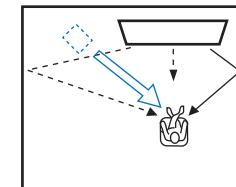
調整範囲

0%（初期設定）～95%

フロント左チャンネルが不自然なとき



フロント左チャンネルを調節したときのイメージ



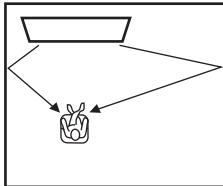
□ 右

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。
「調整」をオンにすると選択できます。

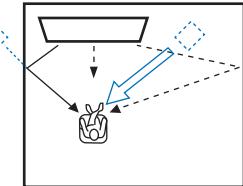
調整範囲

0%（初期設定）～95%

フロント右チャンネルが
不自然なとき



フロント右チャンネルを調節
したときのイメージ



選択項目

ビーム

フロント（右、左）、センターチャンネルを音声ビームで出力します。映画などを鑑賞するとき、部屋のサイズよりも広い音場空間をつくり出したい場合に有効です。

ステレオ

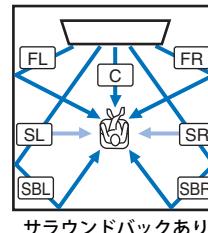
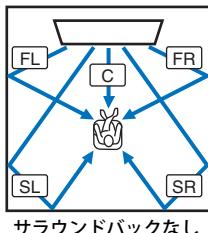
フロント（右、左）、センターチャンネルは音声ビームを使用せずに出力します。フロント（右、左）、センターチャンネルは音声ビームを使用せずに出力します。フロントチャンネルが画面の方向から聞こえるため、ライブ映像などの音楽コンテンツを楽しむときに有効です。



- ・「マイサラウンド」がオンの場合は設定できません。
- ・フロントチャンネルの音声ビームを手動で調整する場合は、「チャンネル出力」の「フロント」を「ビーム」に設定してください。「ステレオ」になっていると調整できません。

□ サラウンドバック

サラウンドバックチャンネルの有無を設定します。



FL：フロント（左）

FR：フロント（右）

C：センター

SL：サラウンド（左）

SR：サラウンド（右）

SBL：サラウンドバック（左）

SBR：サラウンドバック（右）

選択項目

なし

サラウンドバックチャンネルなしで再生します。後方からの音声ビームはサラウンド右、サラウンド左チャンネルの音声を再生します。

あり

サラウンドバックチャンネルを使用して再生します。後方からの音声ビームはサラウンドバック右、サラウンドバック左チャンネルの音声を再生し、サラウンド右、サラウンド左チャンネルの音声はフロントチャンネルと後方の音声ビームの両方から出力します。これにより、視聴位置の横方向からも音声が聞こえます。

自動（初期設定）

再生する音声ソースのチャンネル数に合わせてサラウンドバックチャンネルの有無を自動的に選択します。

□マイサラウンド

ビームを使用したサラウンド再生に向かない部屋でもサラウンド感を再現する「マイサラウンド機能」の有効、無効を設定します。

選択項目

オフ（初期設定） マイサラウンド機能を無効にします。

オン マイサラウンド機能を有効にします。ビームを使用したサラウンド再生では十分なサラウンド効果を得られない環境でも、サラウンド感あふれる音声を楽しむことができます。
マイサラウンド機能で再生するには、リモコンの 3D サラウンドキーまたはサラウンドキーを押します。



・マイサラウンド機能を使用する場合は、本機の正面で視聴するとよりサラウンド感が高まります。



- ・マイサラウンド機能をオンにすると、シネマ DSP は無効となります。
- ・マイサラウンド機能をオンにすると、Dolby Atmos の再生や、ハイトチャンネルを使った再生はできません。

□サブウーファー

設定メニュー

→ ビーム

→ サブウーファー

サブウーファーを使うかどうか、およびサブウーファーとの接続方法や視聴位置までの距離などを設定します。

□出力

サブウーファーの有無、接続方法を設定します。

選択項目

フロント / 無線
(初期設定) サブウーファーを使用しない場合、またはワイヤレスサブウーファーキットを使用するときに選びます。

有線 サブウーファーを本機にケーブルで接続するときに選びます。

□クロスオーバー

サブウーファーから出力する音声の周波数の上限（本体から出力する音声の周波数の下限）を設定します。

設定項目

80Hz、100Hz（初期設定）、120Hz

□距離

サブウーファーから視聴位置までの距離を設定します。

調整範囲

0.3m～2.5m（初期設定）～15.0m

□ペアリング

ワイヤレスサブウーファーキットと手動でペアリングします。

「ペアリング」を選んだあと、ワイヤレスサブウーファーキットの SUBWOOFER PAIRING ボタンを 3 秒間押してください。



・「ペアリング」は「出力」を「フロント / 無線」に設定しているときに選べます。

サウンド

チャンネルレベル

設定メニュー

→ サウンド

→ チャンネルレベル

チャンネルごとに出力されるテスト音を聴きながら、各チャンネルの音がバランス良く聞こえるように、チャンネルごとの音量を調節します。

設定項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、ハイト左、ハイト右、サブウーファー

調整範囲

- 20 ~ + 20



・「チャンネル出力」(72 ページ) で「マイサラウンド」を「オン」に設定した場合は、以下の項目を設定できます。

- センター
- サラウンド左右
- サブウーファー

アダプティブ DRC

設定メニュー

→ サウンド

→ アダプティブ DRC

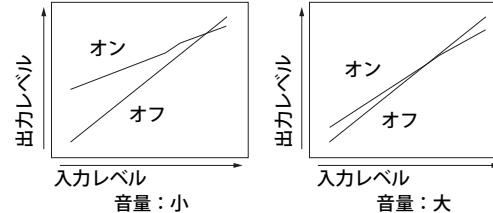
本機の音量とダイナミックレンジを連動して調節します。「オン」に設定すると、ダイナミックレンジは次のように調節されるので、夜間などに小音量で聴く際にも聴きやすくなります。

音量を小さくしたとき：

ダイナミックレンジが狭くなります。大きな音は音量を小さめに、聞き取りにくい小さな音は大きめに再生します。

音量を大きくしたとき：

ダイナミックレンジが広くなります。小さな音から大きな音まで、音源の持つ音量のまま再生します。



選択項目

オフ

ダイナミックレンジを自動調節しません。

オン (初期設定)

ダイナミックレンジを自動調節します。



・「オン」に設定すると、「ダイナミックレンジ」が自動的に「最大」に設定されます。

■ ダイナミックレンジ

設定メニュー → サウンド → ダイナミックレンジ

ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を設定します。

選択項目

最小／自動	（最小）夜間に小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。 （自動）入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。
標準	一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。
最大（初期設定）	入力された信号を補正せず、そのまま再生します。



- 「最大」以外に設定すると、「アダプティブ DRC」が自動的に「オフ」に設定されます。

■ DTS

設定メニュー → サウンド → DTS

DTS フォーマットの音声信号が入力されたときに使用する DTS デコーダーを設定します。

□ Neural:X

Neural:X を用いて音声ソースにはないチャンネルを生成するかどうかを設定します。

選択項目

禁止	Neural:X を使用しません。
許可（初期設定）	Neural:X を使用します。



- Neural:X は、DTS:X のサラウンドデコーダーです。

□ ダイアログコントロール

セリフの音量を上げて、聴きやすくします。

設定範囲

0（初期設定）～6（dB）



- この設定は、ダイアログコントロールに対応した DTS:X フォーマットの音声ソースを再生するときのみ有効です。

お買い上げになった製品によっては、ファームウェアの更新により「Neural:X」および「Dialog Control」が提供されます。最新の情報については、弊社のウェブサイトをご覧ください。

ファームウェアの更新前は、以下の設定が可能です。

DTS フォーマットの音声信号が入力されたときに使用する DTS Neo:6 デコーダーを設定します。

選択項目

Neo:6 Cinema（初期設定）	映画鑑賞に適した DTS Neo:6 Cinema デコーダーで再生します。
Neo:6 Music	音楽鑑賞に適した DTS Neo:6 Music デコーダーで再生します。



- ステレオ再生やターゲット再生のときは無効です。

HDMI

HDMI 信号や HDMI コントロール機能に関する設定をします。

HDMI コントロール

設定メニュー → HDMI → HDMI コントロール

HDMI コントロール機能（33 ページ）のオン / オフを切り替えます。

選択項目

オフ	コントロール機能を無効にします。本機の待機時消費電力を低減できます。
オン（初期設定）	コントロール機能を有効にします。

TV インプット

設定メニュー → HDMI → TV インプット

テレビに ARC 機能がない場合（または ARC 機能をオフにしている場合）や、本機の HDMI コントロール機能をオフにしている場合、テレビの音声は TV 端子（光デジタル）に割り当てられています（初期設定）。この割り当てを AUX2（同軸デジタル）端子または AUX1（アナログ）端子に入れ替えることができます。

選択項目

オプティカル [TV]（初期設定）、アナログ [AUX1]、コアキシャル [AUX2]



・「コアキシャル [AUX2]」に割り当てを変更した場合：

TV キーを押すと AUX2（同軸デジタル）端子に接続した機器（テレビ）の音声を入力します。AUX2 キーを押すと TV 端子（光デジタル）に接続した機器の音声を入力します。

・「アナログ [AUX1]」に割り当てを変更した場合：

TV キーを押すと AUX1（アナログ）端子に接続した機器（テレビ）の音声を入力します。AUX1 キーを押すと TV 端子（光デジタル）に接続した機器の音声を入力します。

HDMI 音声出力

この設定は、「HDMI コントロール」が「オフ」の場合のみ設定できます。

設定メニュー → HDMI → HDMI 音声出力

HDMI 入力音声信号を再生する機器を設定します。

選択項目

AMP（初期設定）	入力した音声信号を本機で再生します。
TV	HDMI 出力（ARC）端子に接続したテレビで音声を再生します。



・「HDMI コントロール」が「オン」の場合は、接続したテレビの設定で音声を出力する機器を選択してください。

・本機の HDMI 入力端子に入力した HDMI 映像信号は、常に本機の HDMI 出力（ARC）端子へ出力されます。

表示

ディマー

設定メニュー → 表示 → ディマー

前面ディスプレイとインジケーターの明るさを調節します。数値が小さくなるほど暗くなります。

選択項目

-4 (最も暗い) ~ 0 (最も明るい) (初期設定)



- STATUS インジケーターが赤色で点灯するときは、この設定にかかわらず最も明るくなります。
- エコ機能がオンのときは設定することができません (42 ページ)。

メニュー言語

設定メニュー → 表示 → メニュー言語

テレビに表示されるメニュー画面の表示言語を設定します。

選択項目

日本語 (初期設定)	日本語で表示します。
ENGLISH	英語で表示します。
DEUTSCH	ドイツ語で表示します。
FRANÇAIS	フランス語で表示します。
ESPAÑOL	スペイン語で表示します。
ITALIANO	イタリア語で表示します。
NEDERLAND	オランダ語で表示します。
РУССКИЙ	ロシア語で表示します。
SVENSKA	スウェーデン語で表示します。
TÜRK	トルコ語で表示します。



- 設定 (※) キーを長押しすると、「メニュー言語」を直接表示することができます。
- HDMI コントロール対応のテレビをご使用の場合、設定が自動的に変更されることがあります。
- 表示言語を設定できるのは、テレビ画面に表示されるメニューだけです。前面ディスプレイは常に英数字で表示します。

距離単位

設定メニュー → 表示 → 距離単位

メニューなどに表示される長さや距離の単位を設定します。

選択項目

メートル (初期設定)、フィート



- メートルとフィートを切り替えたときは設定をやり直してください。数値は変更した単位に換算されません。

情報表示

本機に入力している音声・映像信号の情報を表示します。

音声

設定メニュー	→	情報表示	→	音声
現在入力している音声信号について、以下の情報を表示します。				
<hr/>				
フォーマット	デジタル音声のフォーマット			
チャンネル数	入力信号に含まれているチャンネル数（フロント / サラウンド / LFE（低域効果音））表示例：「3/2/0.1」→入力信号にフロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE あり フロント、サラウンド、LFE 以外のチャンネルが含まれていると、 「7.1.2ch」（末尾の「2」はハイトチャンネル）のように合計のチャンネル数で表示されることがあります。			
サンプリング周波数	デジタル入力信号のサンプリング周波数			
ビットレート	入力信号の 1 秒あたりのビットレート			



・入力信号によってはビットレートが表示されない場合があります。

システム

設定メニュー	→	情報表示	→	システム
--------	---	------	---	------

本機のファームウェアのバージョンを表示します。

映像

設定メニュー	→	情報表示	→	映像
--------	---	------	---	----

現在入力している映像信号について、以下の情報を表示します。

種類	HDMI または DVI
解像度	映像信号の解像度

ネットワーク

本機のネットワーク関連機能を設定します。

■ ネットワーク情報

設定メニュー → ネットワーク → ネットワーク情報

本機のネットワーク情報を表示します。



- ネットワーク接続の種類（有線 / 無線（Wi-Fi）/ 無線（携帯端末を直接接続））により、表示される項目が異なります。

ステータス	ネットワーク端子の接続状態
接続方法	ネットワークへの接続方法
MC ネットワーク	MusicCast ネットワークの接続状態
SSID	本機が接続しているアクセスポイント
セキュリティー	ネットワークの暗号化方式
MAC アドレス	本機の MAC アドレス（イーサーネット /Wi-Fi）
IP アドレス	本機の IP アドレス
サブネットマスク	サブネットマスク
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレス
DNS サーバー (P)	プライマリー DNS サーバーの IP アドレス
DNS サーバー (S)	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレス
vTuner ID	インターネットラジオ（vTuner）の ID

■ ネットワーク接続

設定メニュー → ネットワーク → ネットワーク接続

ネットワークへの接続方法を設定します。

選択項目

有線	市販のネットワークケーブルを使って、本機をネットワークに接続する場合に選びます。
無線 (Wi-Fi)	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を経由して、本機をネットワークに接続する場合に選びます。
無線（携帯端末を直接接続）	モバイル機器を本機に直接接続する場合に選びます。

IP アドレス

設定メニュー → ネットワーク → IP アドレス

ネットワーク情報（IP アドレスなど）を設定します。

□ DHCP

DHCP サーバーを使用するかどうかを設定します。

選択項目

オフ	DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定します。詳しくは下記「ネットワークの手動設定」をご覧ください。
オン（初期設定）	DHCP サーバーを使用して、本機のネットワーク情報（IP アドレスなど）を自動的に取得します。

ネットワークの手動設定

1 「DHCP」を「オフ」に切り替える。

2 ▲/▼キーで設定したい項目を選ぶ。

IP アドレス	IP アドレスを設定する。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定する。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（P）	プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（S）	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。

3 ◀/▶キーで変更したい位置を選び、▲/▼キーで数値を変更する。

4 決定キーを押す。

MAC アドレスフィルター

設定メニュー → ネットワーク → MAC アドレスフィルター

MAC アドレスを指定して本機を操作できるネットワーク機器を制限します。モバイル端末のアプリで本機を操作する場合は、その機器の MAC アドレスを指定してください。



- AirPlay（63 ページ）や DLNA 対応機器（59 ページ）からの操作は制限されません。

□ フィルター

MAC アドレスフィルターをオン / オフします。

選択項目

オフ（初期設定）	MAC アドレスフィルターを無効にします。
オン	MAC アドレスフィルターを有効にします。「MAC アドレス 1-10」で指定したネットワーク機器だけが本機を操作できるようになります。

□ MAC アドレス 1-10

「フィルター」を「オン」に切り替えてから、本機を操作できるネットワーク機器の MAC アドレス（最大 10 個）を以下の手順で指定します。

1 ▲/▼キーで設定したい MAC アドレス番号（1～10）を選ぶ。

2 ◀/▶キーで変更したい位置を選び、▲/▼キーで数値を変更する。

3 決定キーを押す。

■ ネットワークスタンバイ



ネットワーク機器や Bluetooth 機器の操作により、本機の電源を制御する機能（ネットワークスタンバイ）をオン／オフします。

選択項目

オフ	ネットワークスタンバイを無効にします。
オン (初期設定)	<p>ネットワークスタンバイを有効にします。</p> <p>Bluetooth 機器からの連動 本機の電源がオフのときに、Bluetooth 機器側で本機に接続すると、本機の電源がオンになります。</p> <p>電源オン連動 本機の電源がオフのときに、Bluetooth 機器側で本機に接続すると、本機の電源がオフになります。</p> <p>電源オフ連動 本機の電源がオンのときに、Bluetooth 機器側で本機の接続を切断すると、本機の電源もオフになります。</p> <p>（入力が Bluetooth のときのみ）</p>



「ネットワークスタンバイ」を「オン」に設定すると、「オフ」に比べて電力を消費します。

■ ネットワーク名



ネットワークに表示される本機の名称（ネットワーク名）を 15 文字以内で設定します。

1 ◀/▶ キーで変更したい位置を選び、▲/▼ キーで文字を変更する。



以下の文字／記号が使えます。

() [] { } < > * ! ? # % & . , : ; _ | / \ \$ ~ ^ ' " ` 0~9
@ + - = A~Z a~z

2 戻る (←) キーを押す。

■ ネットワークアップデート



本機のファームウェアをネットワーク経由で更新します。

アップデート実行

ファームウェアが更新されると、この項目が選べるようになります。詳しくは「本機のファームウェアを更新する」(87 ページ) をご覧ください。

Bluetooth

Bluetooth 接続を設定します。

Bluetooth

設定メニュー → Bluetooth → Bluetooth

Bluetooth 機能のオン / オフを切り替えます。

選択項目

オフ	Bluetooth 機能を無効にします。
オン（初期設定）	Bluetooth 機能を有効にします。

機器検索

設定メニュー → Bluetooth → 機器検索

音声送信する Bluetooth スピーカーやヘッドホンを選び、接続します。

MAC アドレス

設定メニュー → Bluetooth → MAC アドレス

Bluetooth 接続の MAC アドレスを表示します。

音声送信

設定メニュー → Bluetooth → 音声送信

Bluetooth スピーカーやヘッドホンに本機から音声を送信します。

選択項目

オフ（初期設定）	音声送信を無効にします。
オン	本機に入力した音声を Bluetooth スピーカーやヘッドホンに送信します。



入力ごとの設定（オプションメニュー）

再生中の入力に関する機能を設定します。

オプションメニューはテレビ画面または前面ディスプレイを見ながら設定します。テレビにメニューを表示させる方法については、「メニュー画面をテレビに表示する」（26ページ）をご覧ください。

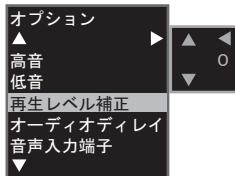
操作手順

1 設定したい入力選択キーを押して、入力を選ぶ。

2 オプション（…）キーを押す。



3 ▲/▼キーでメニューを選び、決定キーまたは▶キーを押す。



4 ▲/▼キーを押して、設定値を変更する。



5 オプション（…）キーを押して、オプションメニューを終了する。



・設定できるメニューは入力によって異なります。

オプションメニューリスト

メニュー	内容	入力
高音 [TREBLE]	高音域の出力レベルを調節します。	HDMI1～4、TV、光デジタル、AUX1～2、Bluetooth、NET（インターネットラジオなど）
低音 [BASS]	低音域の出力レベルを調節します。	HDMI1～4、TV、光デジタル、AUX1～2、Bluetooth、NET（インターネットラジオなど）
再生レベル補正 [VOLUME TRIM]	入力ごとに異なる音量のばらつきを調節します。	HDMI1～4、TV、光デジタル、AUX1～2、Bluetooth、NET（インターネットラジオなど）
オーディオディレイ [AUDIO DELAY]	映像と音声のズレを補正します。	HDMI1～4、TV、光デジタル、AUX1～2
音声入力端子 [AUDIO ASSIGN]	HDMI入力時、別の入力からの音声を割り当てます。	HDMI1～4



・[]は前面ディスプレイの表示です。

音色を調整する（高音、低音）

高音域と低音域の出力レベルを調節します。

調整範囲

–12～0（初期設定）～+12

各端子の入力レベルを設定する（再生レベル補正）

入力ごとに異なる音量のばらつきを調節します。

調整範囲

–12～0（初期設定）～+12

映像と音声のタイミングを調整する（オーディオディレイ）

接続しているテレビでデジタル処理された映像が、音声よりも遅れて表示されることがあります。このタイミングのズレを、音声を遅らせて出力することにより補正します。

調整範囲

HDMI1～4：自動[AUTO]（初期設定）、0ms～500ms、5ms単位
TV、光デジタル、AUX1～2：0ms（初期設定）～500ms、5ms単位

「AUTO」にすると、出力タイミングが自動的に調節されます。HDMIで接続されたテレビがオーディオディレイの自動補正機能に対応しているときのみ有効です。

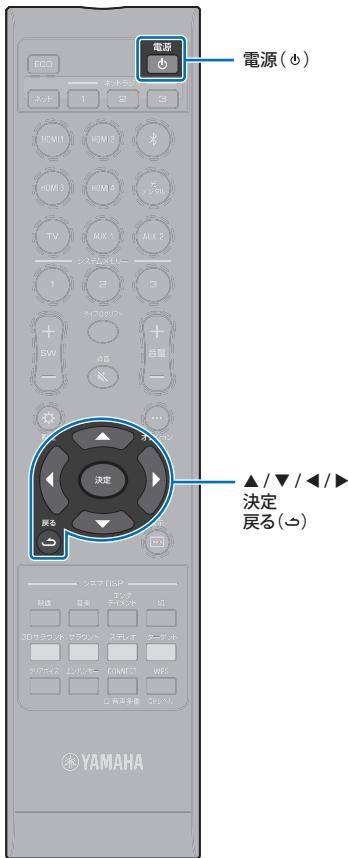
HDMIの音声を他の入力端子に割り当てる（音声入力端子）

HDMI1～4を入力するとき、HDMIからの音声ではなく光デジタル端子からの音声を割り当てるすることができます。

ブルーレイディスクの映像を見ながら、他の再生機器の音声を楽しむ場合などにご利用ください。

選択項目

HDMI（初期設定）、光デジタル[OPTICAL]

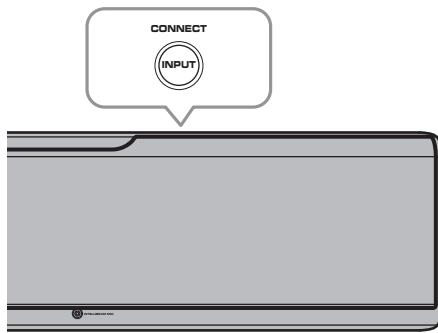


拡張メニュー

「拡張メニュー」は、最大音量の制限や、本体上面の INPUT キーを無効にするなど、本機の機能をより詳細に設定します。

操作手順

- 1 電源 (○) キーを押して、本機の電源をオフにする。
- 2 本体上面の INPUT キーを押しながら、リモコンの電源 (○) キーを押して電源をオンにする。



前面ディスプレイに「ADVANCED」と表示されます。

ADVANCED



・拡張メニューはテレビには表示されません。

- 3 本体上面の INPUT キーをはなす。

- 4 ▲/▼ キーで、設定したいメニューを前面ディスプレイに表示させ、決定キーまたは▶キーを押す。



・ひとつ前の表示に戻るには、◀または戻る(△)キーを押してください。

- 5 ▲/▼ キーを押して、設定を変更する。

- 6 電源 (○) キーを押して、電源をオフにする。
再度電源 (○) キーを押して電源を入れると、設定されます。



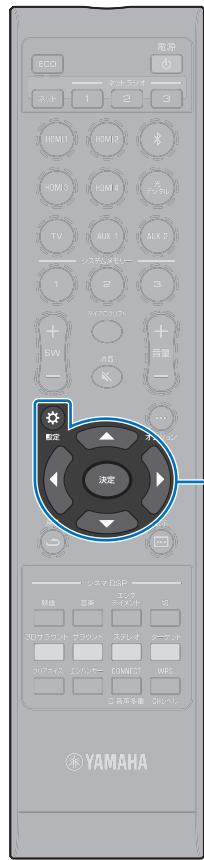
・「INITIALIZE」(86 ページ) を実行した場合、本機は自動的に再起動します。

拡張メニューリスト

設定項目	選択項目 / 調整範囲	内容
TURN ON VOLUME	OFF (設定しない) (初期設定)、1 ~ 70	本機の電源をオンにしたときの音量を、常に指定した値になるように設定します。 OFF の場合は、電源をオフにしたときの音量になります。
MAX VOLUME	1 ~ 99、MAX (最大) (初期設定)	本機の音量を、指定した値より大きくできないように設定します。
INPUT LOCK	ON (INPUT キー操作無効) OFF (INPUT キー操作有効) (初期設定)	本体上面の INPUT キーを押しても、入力が変わらないようにします。
PANEL LOCK	ON (本体のキー操作無効) OFF (本体のキー操作有効) (初期設定)	拡張メニュー以外の操作を本体のキーでできないようにします。
IR INPUT POWER	ON (起動する) OFF (起動しない) (初期設定)	本機の電源がオフのとき、リモコンの入力選択キーを押すと本機の電源がオンになるように設定します。
AC ON STANDBY	ON (電源オフの状態) OFF (電源遮断前の状態) (初期設定)	本機への電源供給が一時的に遮断（コンセントを抜いた、または停電など）されたあと、電源供給が復帰したときに本機を電源オフの状態にします。
MEMORY PROTECT	ON (保護する) OFF (保護しない) (初期設定)	システムメモリーに保存した設定の内容や、登録したインターネットラジオ局などを変更できないようにします。
YRB FL	YES (サウンドリフレクションボードを使用する) NO (サウンドリフレクションボードを使用しない) (初期設定)	サウンドリフレクションボード YRB-100 をフロント左に使用するときに設定します。 YRB-100 については、99 ページをご覧ください。
YRB FR	YES (サウンドリフレクションボードを使用する) NO (サウンドリフレクションボードを使用しない) (初期設定)	サウンドリフレクションボード YRB-100 をフロント右に使用するときに設定します。 YRB-100 については、99 ページをご覧ください。
YRB SL	YES (サウンドリフレクションボードを使用する) NO (サウンドリフレクションボードを使用しない) (初期設定)	サウンドリフレクションボード YRB-100 をサラウンド左に使用するときに設定します。 YRB-100 については、99 ページをご覧ください。
YRB SR	YES (サウンドリフレクションボードを使用する) NO (サウンドリフレクションボードを使用しない) (初期設定)	サウンドリフレクションボード YRB-100 をサラウンド右に使用するときに設定します。 YRB-100 については、99 ページをご覧ください。
AUTO POWER STANDBY	ON (自動的にオフにする) OFF (自動的にオフにしない) (初期設定)	ON に設定すると、以下のいずれかの場合に電源が自動的にオフになります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声は入力されているが、操作がない状態で 8 時間経過 ・ HDMI1-4、BLUETOOTH、または NET が入力ソースとして選択されているが、音声入力や操作がない状態で 20 分経過
NOTICE OF NEW FW	ON (通知する) (初期設定) OFF (通知しない)	本機のファームウェアのアップデートがネットワーク経由で提供されている場合でも、テレビ画面にお知らせを表示させないようにします。
FW UPDATE	01.02 (ファームウェアのバージョン表示例) Start OK? (ファームウェアのアップデート)	本機のファームウェアのバージョン確認と、ファームウェアの更新ができます (87 ページ)。
INITIALIZE	INFO (ネットワーク以外に関する設定を初期化する) NET INFO (ネットワークに関する設定を初期化する) * CANCEL (初期化しない) (初期設定)	各種設定を工場出荷状態に戻します。本機の操作ができなくなったときなどに、初期化することで問題が解決する場合があります。 * 以下の設定は、「INFO」を選ぶと初期化されます。 - ネットワークスタンバイ (81 ページ) - Bluetooth (44 ページ)



・初期化すると、インテリビームの測定結果やシステムメモリーに保存した設定も初期化されます。再度インテリビームで自動設定してください (28 ページ)。



本機のファームウェアを更新する

機能の追加や不具合の改善に応じて、新しいファームウェアが提供されることがあります。本機がインターネットに接続されている場合、ネットワークから最新のファームウェアをダウンロードして、ファームウェアを更新できます。

新しいファームウェアが提供されてから、はじめて本機の電源をオンにすると、テレビ画面にファームウェア更新のメッセージが表示され、設定メニューに封筒アイコン (✉) が表示されます (66 ページ)。

ファームウェアの更新には以下の方法があります。

- ・本機の設定メニューの「ネットワークアップデート」から更新する
- ・更新用ファームウェアを格納した USB メモリーを本機に接続して更新する (88 ページ)
- ・MusicCast CONTROLLER アプリを使って、モバイル端末から更新する (MusicCast CONTROLLER アプリのガイドにしたがってモバイル端末を操作してください。)

注意

- ・ファームウェア更新中は、本機を操作したり電源コードやネットワークケーブルを抜いたりしないでください。所要時間は約 20 分です (インターネット回線の速度により異なります)。
- ・インターネット回線の速度が十分に得られない場合や、無線ネットワークに接続している場合など、接続状態によってはファームウェアの更新に失敗することがあります。そのような場合は、時間をおいてアップデートをお試しくださいか、USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください (88 ページ)。
- ・以下の操作を行うには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。
- ・ファームウェアに関する詳細は弊社ウェブサイトをご覧ください。

設定メニューの「ネットワークアップデート」から更新する

1 設定 (※) キーを 2 回押す。

「設定メニュー」が表示されます。

2 ▲/▼ キーで「ネットワーク」を選び、決定キーを押す。

3 ▲/▼ キーで「ネットワークアップデート」を選び、決定キーを押す。

ファームウェアの更新が可能な場合、以下の画面が表示されます。



・ファームウェアを更新せずに終了するには設定 (※) キーを押します。

4 決定キーを押す。

テレビ画面の表示が消え、ファームウェアの更新が始まります。

更新中は前面ディスプレイに進行状況が表示されます。



5 前面ディスプレイに「Success!」と表示されたら、本体上面の（電源）キーを押す。

これでファームウェアの更新は完了です。



- ・ファームウェアの更新に失敗したときは、電源（）キーを押して本機の電源を入れ直し、手順1からやり直してください。
- ・「XXXXSumErr」と表示された場合は、ネットワークの通信に問題が発生しています。通信状態を確認し、電源（）キーを押して本機の電源を入れ直したあと、手順1からやり直してください。

USB メモリーを本機に接続して更新する

弊社ウェブサイトから本機の最新ファームウェアをダウンロードし、USB メモリーデバイスを使って本機のファームウェアを更新します。

詳しくは、ファームウェア更新時に提供される情報を確認してください。

- 1 USB メモリーに本機のファームウェアを保存する。
- 2 本機の電源をオフにする。
- 3 USB メモリーを本機背面のアップデート専用端子に接続する。
- 4 本機の電源をオンにして、拡張メニュー（85 ページ）で「FW UPDATE」を選び、決定キーを押す。
- 5 ▲/▼キーで「Start OK？」を選び、決定キーを押す。

ファームウェアの更新が始まります。

更新中は前面ディスプレイに進行状況が表示されます。



6 前面ディスプレイに「Success!」と表示されたら、本体上面の（電源）キーを押す。

これでファームウェアの更新は完了です。



- ・ファームウェアの更新に失敗したときは、電源（○）キーを押して本機の電源を入れ直し、手順1からやり直してください。それでも更新できない場合は、USBメモリーがアップデート専用端子に正しく差し込まれているか確認してください。
- ・以下のように表示された場合は、更新中に問題が発生しています。
 - 「Not found」：
USBメモリーの中にファームウェアデータがありません。パソコンなどでUSBメモリー内にファームウェアデータを正しく保存してください。
 - 「XXXXSumErr」：
USBメモリーに保存されたデータに問題があります。パソコンなどでUSBメモリーのデータを確認してください。

DTS:X のアップデートについて

本機は近日中に公開が予定されている DTS:X バージョン 2 へのアップデートに対応しています。DTS:X バージョン 2 へのバージョンアップは、本機のファームウェア更新時に提供されます。

DTS:X バージョン 2 に関する詳細は、ファームウェア更新時に提供される情報をご覧ください。

本機の特長

準備する

再生する

ネットワークを活用する

設定する

付録

安全上のご注意

付録

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
本体の電源（○）キーを押しても電源が入らない/すぐに電源が切れてしまう	電源コードがしっかりと接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。	25
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
	「PANEL LOCK」が「ON」に設定されている。	「PANEL LOCK」を「OFF」にしてください。	86
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待ち（約 1 時間程度）、本機の周囲に十分なスペースがあること、本機を布などで覆っていないことを確認して電源を入れなおしてください。	11
	「AUTO POWER STANDBY」（自動スタンバイ）が「ON」に設定されていて、以下のいずれかの条件の場合、自動的に電源が切れる。 - 音声入力があり、操作がない状態で 8 時間経過 - HDMI1-4、BLUETOOTH、または NET が入力ソースとして選択されているが、音声入力や操作がない状態で 20 分経過	電源を入れて再生しなおしてください。自動スタンバイ機能を使わない場合は、「AUTO POWER STANDBY」を「OFF」にしてください。	86
	ネットワークスタンバイモードが有効で、Bluetooth 機器との接続が切断された。	Bluetooth 機器側で再度本機に接続してください。または電源を入れて、「ネットワークスタンバイ」を「オフ」に設定してください。	81

症状	原因	対策	参照ページ
音声が出ない	再生機器がしっかりと接続されていない。	接続を確認してください。	22
	再生する機器が正しく選ばれていない。	入力選択キーで、再生する機器を正しく選んでください。	35
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	35
	消音されている。	消音（  ）キーまたは音量（+ / -）キーを押して消音を解除してください。	35
	本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号の音源を再生してください。または再生機器の設定を変更してください。	106
	「HDMI 音声出力」が「TV」に設定されている。	「AMP」に設定してください。	76
	「HDMI コントロール」が「オフ」に設定されている。	ARC（オーディオリターンチャンネル）対応のテレビと本機を HDMI ケーブルのみで接続する場合は、「HDMI コントロール」を「オン」に設定してください。	76
		「HDMI コントロール」を「オフ」にしたまま使うには、本機の TV 端子（光デジタル）とテレビの音声出力端子を光ファイバーケーブルで接続してください。	21
	HDMI コントロール機能を使用しているテレビの音声出力先が、テレビの内蔵スピーカーになっている。	テレビの HDMI に関する設定で、音声出力先をテレビの内蔵スピーカー以外に切り替えてください。	—
特定のチャンネル音声が出ない / はっきり聞こえない	該当チャンネルの音量が絞られている。	該当チャンネルの音量を調節してください。	41、74
	音声ビームが正しく設定されていない。	音声ビームを調節してください。	28、69
	ステレオ再生している。	3Dサラウンドまたはサラウンドで再生してください。	36、37
十分なサラウンド効果が得られない	本機と再生機器やテレビをデジタル接続している場合に、再生機器やテレビのデジタル出力設定が有効になっていない。	再生機器やテレビ側の設定を確認してください。	—
	再生機器側で、常に 2 チャンネル（PCM など）で出力するように設定されている	再生機器側の音声出力設定を変更してください。	—
	部屋が特殊な形状をしている、または本機の設置場所や視聴位置が部屋の左右の壁の中央からずれている。	本機の設置場所や視聴位置を変更してください。	12
	音声ビーム経路上に壁がない。	音声ビーム経路上にサウンドリフレクションボードを設置してください。	99
	マイサラウンドをオンに設定し、本体中央正面以外の場所で視聴している。	本体中央正面で視聴してください。	73
上方からの音声がはっきり聞こえない	ハイトチャンネルの音声ビームの角度が正しく設定されていない。	3Dサラウンドで再生し、設定メニューの「垂直角度」で「ハイト右」と「ハイト左」を音声がよく聞こえるように調節してください。	36、69
	3Dサラウンド以外のモードで再生している。	3Dサラウンドで再生してください。	36
	天井が高すぎる、または天井に突起物がある。	本機の設置場所や視聴位置を変更し、もう一度自動設定を実施してください。	28

症状	原因	対策	参照ページ
サブウーファーから音声が出ない	有線 / 無線 サブウーファーの電源コードがしっかりと接続されていない。 有線 / 無線 サブウーファーの音量が小さい。 有線 / 無線 サブウーファーの電源がオフになっている。 有線 / 無線 サブウーファーのオートスタンバイ（自動的に電源を切る機能）が作動した。 有線 サブウーファーの出力が「フロント / 無線」に設定されている。	電源コードをコンセントに正しく接続してください。 サブウーファー本体の音量を調節してください。 サブウーファーをオンにしてください。 サブウーファーのオートスタンバイを無効にするか、動作感度を調節してください。 「有線」に設定してください。	— — — — — 73
	無線 無線の通信状態が悪く、本機とワイヤレスサブウーファーキットが接続されない。 (ワイヤレスサブウーファーキットのインジケーターが緑色で点滅、または赤色で点灯している。)	ワイヤレスサブウーファーキットを本機に近づけてください。 近づけても改善しない場合は、ワイヤレスサブウーファーキットを動かして、ワイヤレスサブウーファーキットのインジケーターが緑色に点灯する場所に設置してください。 本体とワイヤレスサブウーファーキットの間が金属製の家具などで遮られている場合は、家具やワイヤレスサブウーファーキットの位置を変えてください。 近くに電子レンジや無線 LAN 機器など、電磁波を発する物がある場合は、それらのものから離れたところに設置してください。 ワイヤレスサブウーファーキットの電源コードをコンセントから抜き、再度接続してください。	— — — — —
	無線 本機とワイヤレスサブウーファーキットがペアリングされていない。 (ワイヤレスサブウーファーキットのインジケーターが赤色で点滅している。)	本機にワイヤレスサブウーファーキットを近づけるなどして、良好な通信状態にしてから以下のようにペアリングしてください。 設定メニューでサブウーファーの「ペアリング」を選んだあと、ワイヤレスサブウーファーキットの SUBWOOFER PAIRING ボタンを 3 秒間押してペアリングを行ってください。ペアリングを実施してもワイヤレスサブウーファーキットのインジケーターが緑色で点灯しない場合は、故障の可能性があります。電源プラグをコンセントから抜き、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。	73
	無線 サブウーファーの出力が「有線」に設定されている。	「フロント / 無線」に設定してください。	73
サブウーファーからの音量が小さい。	有線 / 無線 サブウーファーの音量が小さい。 有線 / 無線 低音域が少ない音源を再生している。 有線 / 無線 ターゲット再生している。	サブウーファー本体の音量を調節してください。 SW (+) キーを押して音量を上げてください。 低音域が多く含まれる音源を再生して確認してください。 3Dサラウンド再生、サラウンド再生またはステレオ再生にしてください。	— 35 — 36、37、39

症状	原因	対策	参照ページ
サブウーファーの音が途切れ 有線 / 無線する	サブウーファーと本機（またはワイヤレスサブウーファーアンプ）を接続するケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	24
無線	無線の通信状態が悪く、本機とワイヤレスサブウーファーキットの接続が途切れる。	ワイヤレスサブウーファーキットを本機に近づけてください。 近づけても改善しない場合は、ワイヤレスサブウーファーキットを動かして、ワイヤレスサブウーファーキットのインジケーターが緑色に点灯する場所に設置してください。 本体とワイヤレスサブウーファーキットの間が金属製の家具などで遮られている場合は、家具やワイヤレスサブウーファーキットの位置を変えてください。 近くに電子レンジや無線 LAN 機器など、電磁波を発する物がある場合は、それらのものから離れたところに設置してください。	—
テレビ画面に映像が表示されない	HDMI ケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	21、22
本機のメニュー画面が表示されない	テレビの入力切り替えが正しく設定されていない。	テレビの入力を本機にしてください。	26
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機からそれらの機器を離してください。	—
設定した内容が変わってしまう	「HDMI コントロール」が「オン」に設定されているとき、テレビの仕様によっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、音場プログラムなどの本機の設定が変更される。	「HDMI コントロール」を「オフ」に設定するか、本機のリモコンで再度設定してください。	76
HDMI コントロール機能が正常に動作しない	「HDMI コントロール」が「オフ」に設定されている。	「オン」に設定してください。	76
	テレビの HDMI コントロール機能が有効になっていない。	テレビ側の設定を確認してください。	—
	規格の制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
	テレビまたは再生機器に、本機以外のアンプ機器（AV アンプ、サウンドバーなど）が HDMI ケーブルで接続されている。	テレビまたは再生機器に接続するアンプ機器を本機だけにしてください。	—
フロントチャンネルの音声ビームを手動で調整できない	「チャンネル出力」の「フロント」が「ステレオ」に設定されている。	「ビーム」に設定してください。	72
「AUDIO DELAY」を「AUTO」に設定しても効果が感じられない	テレビがオーディオディレイの自動補正機能に対応していない。	「AUDIO DELAY」の遅延時間を手動で設定してください。	84
キー操作時に「Disable」と表示される	操作したキーは現在の状態では機能しません。	_____	—

Bluetooth

症状	原因	対策	参照ページ	
受信時	接続できない	「Bluetooth」が「オフ」になっている。 「音声送信」が「オン」になっている。 本機の入力が Bluetooth 以外になっている。 別の Bluetooth 機器が接続されている。 Bluetooth アダプタなどの機器でバスキーが「0000」以外の設定になっている。 接続したい Bluetooth 機器のプロファイルが A2DP 対応ではない。 20 台を超える機器と接続をしたため、接続情報が削除された。 本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。 2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	「オン」に設定してください。 「オフ」に設定してください。 入力を Bluetooth にしてください。 接続している機器と本機を切断し、受信したい機器と接続してください。 バスキーが「0000」の機器をお使いください。 A2DP 対応の機器（オーディオ用の Bluetooth 機器）と接続してください。 接続し直してください。 本機は受信／送信合わせて最大 20 台の Bluetooth 機器と接続が可能ですが、21 台目を登録すると、接続した日時が最も古い機器の接続情報が削除されます。 本機と Bluetooth 機器との距離を 10m 以内にして接続してください。	82 82 45 44、45 44 105 44、45 44、45 —
	音が出ない、または音が途切れる	送信側の Bluetooth 機器が Bluetooth 信号を本機に送っていない。 送信側の Bluetooth 機器を再生していない。 送信側の Bluetooth 機器の音量が最小になっている。 本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。 2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。 接続が切れている。	送信側の Bluetooth 機能が正しく設定されているか確認してください。 送信側の Bluetooth 機器を再生してください。 送信側の Bluetooth 機器の音量を上げてください。 本機と Bluetooth 機器との距離を 10m 以内に近づけてください。 本機を電磁波を発するものから離して設置してください。 接続し直してください。	— — — 44、45 — 45

症状	原因	対策	参照ページ
送信時	接続できない	「Bluetooth」が「オフ」になっている。	「オン」に設定してください。
		「音声送信」が「オフ」になっている。	「オン」に設定してください。
		別の Bluetooth 機器が接続されている。	接続している機器と本機を切断し、送信したい機器と接続してください。
		接続したい Bluetooth 機器のプロファイルが A2DP 対応ではない。	A2DP 対応の機器（オーディオ用の Bluetooth 機器）と接続してください。
		20 台を超える機器と接続をしたため、接続情報が削除された。	接続し直してください。 本機は受信 / 送信合わせて最大 20 台の Bluetooth 機器と接続が可能ですが、21 台目を登録すると、接続した日時が最も古い機器の接続情報が削除されます。
	受信側の Bluetooth 機器から音が出ない、または音が途切れる	本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。	本機と Bluetooth 機器との距離を 10m 以内にして接続してください。
		2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
		受信側の Bluetooth 機器の設定が正しくない。	受信側の Bluetooth 機器で、本機から受信できる設定になっているか確認してください。
		受信側の Bluetooth 機器の音量が最小になっている。	受信側の Bluetooth 機器の音量を上げてください。
		送信する音声を再生していない。	入力選択キーで選んだ機器を再生してください。
	接続が切れている	本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。	本機と Bluetooth 機器との距離を 10m 以内に近づけてください。
		2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。
		接続が切れている。	接続し直してください。
		AirPlay の再生中に送信しようとした。	AirPlay の音声は送信できません。AirPlay の再生を終了してから接続し直してください。

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで本機を操作できない	リモコン操作範囲からはずれている。	本体のリモコン受光部から 6m 以内、角度 30° 以内の範囲で操作してください。	6
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新品に交換してください。	6

ネットワーク

症状	原因	対策	参照ページ
ネットワーク機能を使用できない	ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていない。	ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。また、本機の設定メニューで「DHCP」を「オン」に設定してください。DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する場合は、本機の IP アドレスが他のネットワーク機器と重複しないようにしてください。	80
「無線（Wi-Fi）」の設定で「接続できませんでした」と表示され、無線 LAN ルーター（アクセスポイント）と接続できない	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の MAC アドレスフィルターが有効になっている。	MAC アドレスフィルターが有効になっている場合は接続できません。無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の設定を確認し、別の接続方法を試してください。	49、80
「無線（Wi-Fi）」の WPS 機能（「WPS ボタン」、「PIN コード」）や「アクセスポイント検索」を使った設定で、「接続できませんでした」と表示され、無線 LAN ルーター（アクセスポイント）と接続できない	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の ESS-ID ステルス機能（SSID の隠蔽）が有効に設定されている。	ESS-ID ステルス機能（SSID の隠蔽）が有効に設定されている場合は接続できません。無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の設定を確認し、別の接続方法を試してください。	52、56
「無線（Wi-Fi）」の WPS 機能（「WPS ボタン」、「PIN コード」）を使った設定で「接続できませんでした」と表示され、無線 LAN ルーター（アクセスポイント）と接続できない	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が暗号化方式に WEP を使用している。	WPS 機能では接続できません。別の接続方法を試してください。	52、56
再生が停止してしまう（連続して再生できない）	本機が再生できないファイルが存在する。	再生するフォルダーには、本機が再生できないファイル（画像ファイルや隠しファイルなどを含む）を入れないでください。	—
パソコン（サーバー）が検出されない	メディアの共有設定が正しくない。	本機がパソコン（サーバー）のフォルダーにアクセスできるように、パソコン（サーバー）のメディアの共有設定を変更してください。	59
	セキュリティソフトなどの設定により、パソコン（サーバー）へのアクセスが制限されている。	パソコン（サーバー）のセキュリティソフトの設定を確認してください。	—
	本機とパソコン（サーバー）が同じネットワークに接続されていない。	本機、パソコン（サーバー）のネットワーク設定を確認し、同じネットワークに接続してください。	—
	MAC アドレスフィルターが有効になっている。	設定メニューの「MAC アドレスフィルター」で、MAC アドレスフィルターを無効にするか、使用するパソコンの MAC アドレスを指定してください。	80
パソコン（サーバー）のファイルが表示（再生）されない	本機またはパソコン（サーバー）が非対応のファイル形式を使用している。	本機およびパソコン（サーバー）が対応しているファイル形式を使用してください。	59

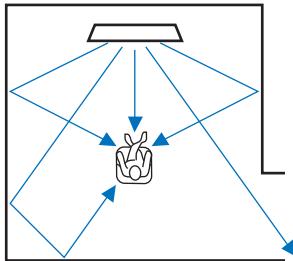
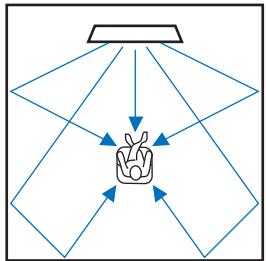
症状	原因	対策	参照ページ
インターネットラジオを再生できない	選択したラジオ局のサービスが現在停止している。	ラジオ局側のネットワークエラーにより受信できない場合や、サービスを休止している場合があります。しばらく経つてから再生するか、別のラジオ局を選んでください。	—
	選択したインターネットラジオ局が無音を放送している。	時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合は受信できいても音はできません。しばらく経つてから再生するか、別のラジオ局を選んでください。	—
	ルーターなどネットワーク機器のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	ファイアウォールの設定をご確認ください。なお、インターネットラジオは各ラジオ局指定のポート経由でのみ再生できます。ポート番号はラジオ局により異なります。	—
モバイル端末の専用アプリで本機が検出されない	MAC アドレスフィルターが有効になっている。	設定メニューの「MAC アドレスフィルター」で、MAC アドレスフィルターを無効にするか、使用するモバイル端末の MAC アドレスを指定してください。	80
	本機とモバイル端末が同じネットワークに接続されていない。	ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。	—
ネットワーク経由によるファームウェアの更新に失敗した	ネットワークの接続状態がよくない。	しばらく経つてから再度更新をお試しください。または USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください。	87
AirPlay 使用時、iPod から本機を認識できない	(同じアクセスポイントの) 別々の SSID に接続している。	本機、モバイル端末のネットワーク設定を確認し、同じ SSID を持つネットワークに接続してください。	—
モバイル端末にインストールしたアプリが本機を認識しない			—
無線 LAN ルーター (アクセスポイント) 経由でインターネットに接続できない	無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の電源が切れている。	無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の電源を入れてください。	—
	本機と無線 LAN ルーター (アクセスポイント) との距離が離れすぎている。	本機と無線 LAN ルーター (アクセスポイント) を近づけて設置してください。	—
	本機と無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の間に障害物がある。	本機と無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の間に障害物がない場所に設置してください。	—
無線ネットワークが見つからない	電子レンジやその他の無線機器からの電磁波により、無線通信が妨害されている。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。	—
	無線 LAN ルーター (アクセスポイント) のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	無線 LAN ルーター (アクセスポイント) のファイアウォール設定をご確認ください。	—

前面ディスプレイのメッセージ

メッセージ	内容	参照ページ
ViewScreen	テレビ画面に本機の設定画面を表示しています。テレビを見ながら設定してください。	66
Key Locked	本体の操作キーをロックしています。リモコンで操作してください。	85
Sleep XXmin	自動スタンバイ機能により、XX 分後に電源がオフになります。	85
Protected	システムメモリー 1-3、およびネットラジオ 1-3 は保護されています。	85
Disable	キーの操作は無効です。	—

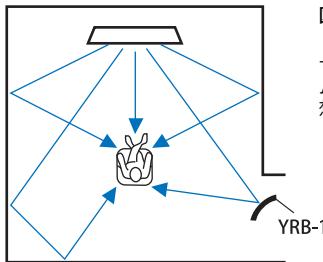
サラウンド感が得られないときは

本機は音声をビーム化し、壁面に反射させることでサラウンド音響を実現しています。設置した部屋の状態によってはビームが視聴位置の方向に反射されず、音量のバランスや音の方向が不自然に聴こえることがあります。



サラウンド右チャンネルの音が小さくなったり、理想的な位置より前方から音が聴こえたりします。

上記の図2のようにビームが視聴位置の方向に反射されない場合、別売の「サウンドリフレクションボード（YRB-100）」を設置することで、壁がない場所でもサラウンド感を向上させることができます。



YRB-100の設置と調整

1 サウンドリフレクションボードの位置を決める。

図を参考にしてサウンドリフレクションボードを設置してください。

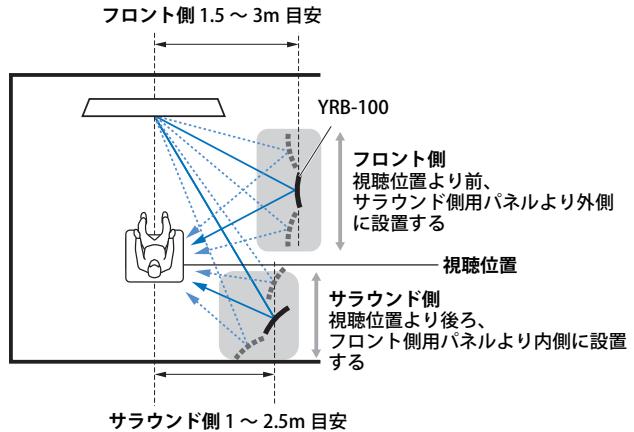


・サウンドリフレクションボードを移動するときは、必ずポールを持ってください。



・どの方向からの音が聴こえにくいかを正確に知るには、設定メニューの「チャンネルレベル」を使います（74ページ）。

推奨する設置場所



2 拡張メニュー (85 ページ) でサウンドリフレクションボードを設定する。

設置するリフレクションボードの位置に応じて、YRB FL (フロント左)、YRB FR (フロント右)、YRB SL (サラウンド左)、および YRB SR (サラウンド右) を「YES」にします。

テレビ画面全体にカラーバーが表示されます。手順 4 でパネルの左右の方向を決めるとき、パネルにテレビ画面が写り込んでいるかを判別しやすくなります。

3 高さを決める。

本機やサウンドリフレクションボードの位置、および視聴位置に応じて、サウンドリフレクションボードのパネルを適切な高さに調節します。

詳しくは YRB-100 の取扱説明書をご覧ください。

4 左右の方向を決める

音声ビームが視聴位置に反射するようにパネルの方向を調節します。

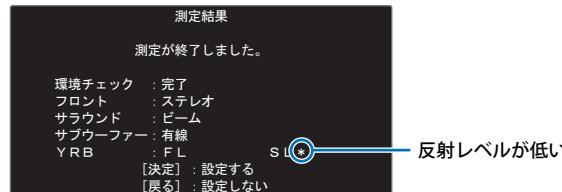
テレビをつけ部屋を少し暗くして視聴位置からパネルを見た場合に、パネルにテレビ画面（カラーバー表示）が写り込んでいるとき、パネルは適切な方向になっています。詳しくは YRB-100 の取扱説明書をご覧ください。

5 電源 (○) キーを押して本機の電源を切り、もう一度押して電源を入れる。

6 本機にインテリビームマイクを接続し、音声ビームの自動設定（ビーム調整 + 音質調整）を行う (28 ページ)。

測定結果の画面の「YRB」に、サウンドリフレクションボードを設置したチャンネル (FL、FR、SL、および SR) が表示されているかを確認してください。

音声ビームの反射レベルが低いチャンネルには、「*」が表示されます。



このような場合は、以下のように調節し直してください。

- ① サウンドリフレクションボードの設置状態を確認し、パネルの高さや左右の方向を調節する。
- ② 設定メニューの「チャンネルレベル」(74 ページ) を使って、テスト音が良好に反射するようになったか確認する。

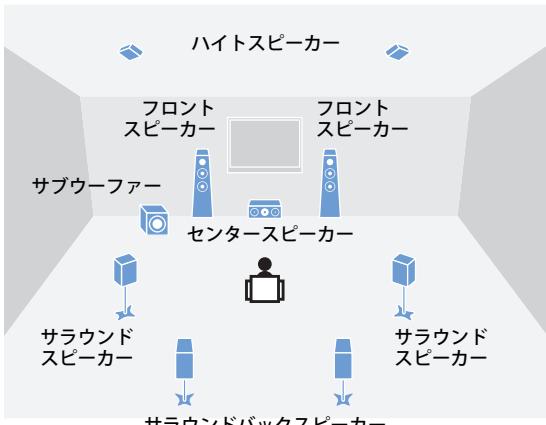
正確に確認するには、音声ビームの自動設定を行って、チャンネル表示から「*」が消えているか確認してください。

それでも「*」が消えないときや、テスト音がサウンドリフレクションボードの方向から聴こえないときは、YRB-100 の取扱説明書に従って、音声ビームを手動で調節してください。

サラウンドの基礎知識

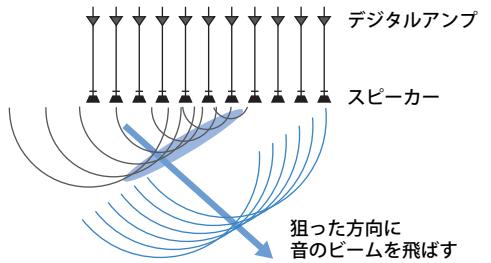
デジタルサウンドプロジェクターとは？

通常のサラウンド再生システムの場合、5～7個のスピーカーを使用します。また、高さ方向の音声の再生にも対応したサラウンド再生システムを構築するには、さらに2つ以上のスピーカーを視聴位置の頭上に設置する必要があります。



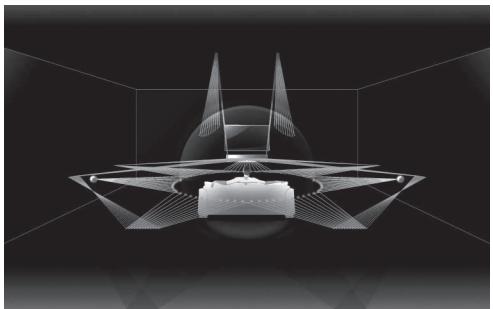
上図のように試聴位置をスピーカーで囲むことで、臨場感の高い音場空間をつくり出すことはできますが、実際には家庭のリビングルームにたくさんのスピーカーを設置するのは大変です。そこで、本機は「デジタルサウンドプロジェクター」技術を使用し、本機だけでリアルなサラウンドを実現できるようにしました。

デジタルサウンドプロジェクターは、均等に配列された小口径のスピーカーごとに遅延時間を適切に制御し、個々のスピーカーのアンプを駆動させることにより、各スピーカーから出力された音声が合成され、強い指向性を持った音（音声ビーム）が生成されます。



指向性の強い音は波のような性質を持つため、かたい壁や天井に当たると反射します。デジタルサウンドプロジェクターはフロント（左/右）、センター、サラウンド（左/右）、ハイ（左/右）の7チャンネル分の音声ビームを、壁面や天井の反射を利用して聴き手にとって適切な方向から音が届くように出力することで、側面や背面、天井にスピーカーを置かずにサラウンドを実現する技術です。また、前方（左/右）と後方（左/右）の音声ビームを組み合わせることによって2つの音声チャンネルをつくり出し、水平面7.1チャンネルのサラウンド再生を実現します。この場合、新たにつくり出された2つの音声チャンネルはサラウンドチャンネルを出力し、後方（左/右）の音声ビームはサラウンドバックチャンネルの音声を出力します。

本機のサウンドイメージ



オブジェクトベースオーディオとは？

これまでのオーディオ技術では、音源を製作する段階でどのチャンネル（スピーカー）からどの音を出力するかをあらかじめ決めていました。これを「チャンネルベースオーディオ」と呼びます。これに対して Dolby Atmos などの新しいオーディオ技術では、オブジェクトベースオーディオと呼ばれる新しい技術を採用しています。これは、音源の中の一つ一つの音（例えば、1台の車の音、俳優一人ひとりの声など）を「オブジェクト」として捉え、音の変化と音場空間内での位置の変化をオブジェクト毎に記録し、再生時にコントロールする技術です。家庭用のサラウンドシステムにオブジェクトベースオーディオを使う最大のメリットは、使用する機器の機能やスピーカーの数に合わせて柔軟に音声の出力方法をコントロールできることにあります。本機の場合、設置する部屋に応じてビーム出力を調整しますが、それぞれの再生環境に応じてオブジェクトの動きを演算し、サウンドディレクターの意図に忠実な音場空間を再現します。また、高さ方向の音声出力にも対応しているため、音源内一つ一つの音（オブジェクト）は音場空間内を自由に動き回ることができます。

ヤマハの音声技術

本機には他にもヤマハの優れた音声技術を活かした機能を多数搭載しています。

ミュージックエンハンサー

携帯音楽プレーヤーやパソコンなどで使用される圧縮オーディオフォーマット（MP3、AACなど）で不足しがちな高音域と低音域を拡張・強調する技術です。これにより圧縮音声をより音楽的にダイナミックにお楽しみいただけます。

シネマ DSP/シネマ DSP 3D

ヤマハが所有する豊富な音場の実測データに基づく音場技術を応用し、音のスケールや奥行き、音量感を補正することで、ご家庭で映画館のような臨場感あふれる視聴体験を実現する技術です。シネマ DSP 3D は高さ方向も含めた3次元の音場データを使用して通常のシネマ DSP をさらに拡張し、よりリアルな立体感を持つ音場効果を実現します。

音声 / 映像に関する用語

サンプリング周波数と量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際の情報量を表す数値です。たとえば、48kHz / 24bit などのように表現されます。

・サンプリング周波数

1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数を示します。この数値が大きいほど再生可能な音域が広がります。

・量子化ビット数

音の大きさを数値化するときのきめ細かさを示します。この数値が大きいほど音の強弱変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2オーディオ規格の一つで、モノラル音声から5.1チャンネル音声までを効率良く圧縮できる音声フォーマットです。BS / 地上波デジタル放送で採用されています。

Deep Color

HDMIがサポートしている映像技術です。RGBまたはYCbCr信号の処理を、従来の8ビットに対して10/12/16ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上します。

Dolby Atmos

Dolby Atmosはドルビーラボラトリーズにより開発されたオブジェクトベースのサラウンド技術です。これまでのサラウンド技術ではチャンネルごとに音声を収録してコントロールしていますが、Dolby Atmosはコンテンツの音声を多数のオブジェクト（音声の情報と音の位置の動きに関する情報の組み合わせ）の集まりとして収録し、さまざまなホームシアター環境に合わせて精密にコントロールすることにより、これまでにないリアリティを持つ3次元的な音響空間をつくり出すことができます。また、上方から聞こえる音を収録しているのも大きな特長です。元々は映画館のために開発された技術ですが、家庭用の機器でも楽しめるように設計されています。

Dolby Atmosコンテンツは、Dolby Atmosストリームを含むDolby True HD、またはDolby Digital Plusフォーマットにより供給されます。

Dolby Digital（ドルビーデジタル）

ドルビーラボラトリーズにより開発された、5.1チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くのDVDディスクなどで採用されています。

Dolby Digital EX（ドルビーデジタルEX）

Dolby Digital Surround EX方式で収録された6.1チャンネル音声の再生方式です。5.1ch信号に追加して、サラウンドバックチャンネルの音声も出力されます。

Dolby Digital Plus（ドルビーデジタルプラス）

ドルビーラボラトリーズにより開発された、7.1チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。従来のDolby Digitalと互換性があるため、Dolby Digital対応の機器でも再生できます。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

Dolby Surround

ドルビーラボラトリーズにより開発された、2～7.1チャンネルのコンテンツを、使用されるオーディオシステムに合わせて拡張するサラウンド技術です。Dolby Atmosコンテンツだけでなく、従来のオーディオコンテンツでもハイトチャンネルを含むサラウンドに拡張し、3Dサラウンドで再生できます。

Dolby TrueHD（ドルビーTrueHD）

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz / 24bit時で最大8チャンネル（192kHz / 24bit時は最大6チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS デジタルサラウンド

DTS社により開発された、5.1チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くのDVDディスクなどで採用されています。

DTS Express

DTS Digital Surroundフォーマットよりも、さらに高圧縮に対応した5.1チャンネル対応の音声フォーマットです。ネットワークストリーミングやBD（ブルーレイディスク）のセカンダリーオーディオなどを目的として開発されています。

DTS-HD High Resolution Audio（DTS-HDハイレゾリューションオーディオ）

DTS社により開発された高品質96kHz / 24bit7.1チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来のDTSデジタルサラウンドと互換性があります。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

DTS-HD Master Audio（DTS-HDマスターオーディオ）

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、DTS社により開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz / 24bit時で最大8チャンネル（192kHz / 24bit時は最大6チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS Neo:6

2チャンネルで記録された信号の音源を、6チャンネル音声に変換する技術です。映画用のCinemaモード、音楽用のMusicモードが用意されています。ディスクリート方式で記録された音声のようなチャンネル分離感を実現します。

DTS:X

DTS:X は、DTS 社により開発された次世代オブジェクトベースのサラウンド技術です。チャンネルの枠を越えて音のオブジェクトが視聴者を包み込む音場空間内を自由に動き、より正確な音場表現を実現します。この音場表現が、これまでにない音の豊かさやリアリティ、没入感を生み出します。テレビ内蔵のスピーカー、ホームシアターのスピーカー、さらには映画館に設置された多数のスピーカーに至るまで、多様なスピーカーの配置と視聴スペースに合わせて音声を自動調整し、最高の音響空間をつくり出すことができます。

さらに詳しい情報については、<http://www.dts.com/dtsx> をご覧ください。

HDMI

世界業界標準規格である HDMI (High-Definition Multimedia Interface Specification) 規格に準じた、デジタルインターフェースです。デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化されることなく、1本のケーブルで伝送できます。また、著作権保護技術（HDCP : High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しています。詳しい情報については、"http://www.hDMI.org" を参照してください。

Neural:X

Neural:X は、DTS 社による最新のダウンミックス / アップミックス技術であり、空間の再配置技術です。DTS:X に組み込まれており、Neural:X エンコードされた信号、通常の信号のどちらもアップミックスできます。DTS:X 対応した サウンドバーでは、Neural:X が最大で 11.x チャンネルの信号をつくり出します。

PCM (パルス・コード・モジュレーション)

アナログ音声信号をデジタル音声信号に記録・変換・伝送する方式で、すべてのデジタル音声信号方式の基礎となる技術です。また非圧縮音声フォーマットとして、CD をはじめとして BD (ブルーレイディスク) などさまざまなコンテンツで採用されており、リニア PCM とも呼ばれています。

x.v.Color

HDMI がサポートしている映像技術です。色空間規格の 1 つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。

ネットワークに関する用語

SSID (Service Set Identifier)

無線ネットワークのアクセスポイントを特定するための名前です。

Wi-Fi

無線電波による電子機器間でのデータ通信やインターネット接続を可能にする技術です。ケーブル接続の煩雑さがないのが利点です。Wi-Fi Alliance の互換性テストをクリアした製品のみに「Wi-Fi Certified」ロゴが付与されます。

WPS (Wi-Fi Protected Setup)

無線ネットワークを簡単に設定するための、Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。

主な仕様

YSP-5600

アンプ部

- 定格出力
アレイスピーカー (1kHz, 1% THD, 4Ω) 74.8W
ウーファー (100 Hz, 1% THD 4Ω) 17 W + 17 W
- 実用最大出力
アレイスピーカー (1kHz, 10% THD, 4Ω) 88W
ウーファー (100 Hz, 10% THD 4Ω) 20 W + 20 W

スピーカー部

- 垂直アレイスピーカー
スピーカー形式 密閉型 / 防磁型
ユニット 2.8cm コーン型 6×2 (L/R)
インピーダンス 4Ω
- 水平アレイスピーカー
スピーカー形式 密閉型 / 防磁型
ユニット 4.0cm コーン型 ×32
インピーダンス 4Ω
- ウーファー
スピーカー形式 密閉型 / 非防磁型
ユニット 11cm コーン型 ×2
インピーダンス 4Ω

入力端子

- オーディオ入力
光デジタル 2 (TV、光デジタル)
同軸デジタル 1 (AUX2)
アナログ 1組 (AUX1)
- HDMI 入力 4 (HDMI 入力 1~4)

出力端子

- HDMI 出力 (ARC) 1
- サブウーファー出力 1

その他の端子

- インテリビームマイク 1
- システム接続 1
- ネットワーク端子 1
- アップデート専用端子 1
- IR IN 端子 1
- IR OUT 端子 1
- RS-232C 端子 1

ネットワーク

- Ethernet 規格 : 100BASE-T/10BASE-T
- DLNA ver1.5 対応
- 対応コーデック
WAV (PCM フォーマットのみ) /AIFF/FLAC : 192 kHz まで
ALAC : 96 kHz まで
MP3/WMA/MPEG-4 AAC : 48 kHz まで
- AirPlay 対応
- インターネットラジオ
- radiko.jp

無線 LAN (Wi-Fi)

- 無線 LAN 規格 IEEE802.11b/g/n
- 使用周波数帯域 2.4GHz
- WPS (Wi-Fi Protected Setup) プッシュボタン式
PIN コード式
- 対応セキュリティ WEP
WPA2-PSK (AES)
Mixed Mode

無線 LAN (ワイヤレスダイレクト)

- モバイル機器の直接接続対応

Bluetooth

- Bluetooth バージョン Ver.2.1+EDR
- 対応プロファイル
受信 A2DP、AVRCP
送信 A2DP
- 対応コーデック
受信 SBC、MPEG-4 AAC
送信 SBC
- 無線出力 Bluetooth Class2
- 最大通信距離 10m (妨害のないとき)
- 対応コンテンツ保護 SCMS-T 方式 (受信時)

総合

- 電源電圧 AC100V、50 / 60Hz
- 消費電力 45W
- 待機消費電力
HDMI コントロール オフ、
ネットワークスタンバイ オフ時 0.3W
HDMI コントロール オン、
ネットワークスタンバイ オフ時 1.6W
HDMI コントロール オフ、
ネットワークスタンバイ オン時
(有線ネットワーク / 無線ネットワーク /
ワイヤレスダイレクト / Bluetooth) 1.5/1.6/1.7/1.6 W
HDMI コントロール オン、
ネットワークスタンバイ オン時 3.1W
- 寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)
転倒防止スタンドを含まない 1100×212×93mm
転倒防止スタンドを含む 1100×216×122 mm
- 質量 11.7 kg

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

HDMI 信号

・音声信号

音声フォーマット	詳細	主なメディア
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32 ~ 192kHz、 16 / 20 / 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32 ~ 192kHz、 16 / 20 / 24bit	DVD-Audio、 BD (ブルーレイディスク)、 HD DVD
ビットストリーム (SD オーディオ)	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video、デジタルテレビ放送
ビットストリーム (HD オーディオ)	Dolby Atmos、Dolby TrueHD、 Dolby Digital Plus、DTS:X*、 DTS-HD Master Audio、DTS- HD High Resolution Audio、 DTS Express	BD (ブルーレイディスク)、 HD DVD

* ファームウェア更新後に、DTS:X に対応可能となる場合があります。



- ・本機へ接続する方法については、再生機器の取扱説明書もご覧ください。
- ・お使いの DVD プレーヤーによっては、コピープロテクトがかかる DVD オーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- ・本機は HDCP 非対応の、HDMI や DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器や DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

・映像信号

以下の映像信号に対応しています。

- ・Deep Color
- ・x.v.Color
- ・3D 映像信号

以下の解像度に対応しています。

- ・VGA • 720p / 60Hz、50Hz
- ・480i / 60Hz • 1080i / 60Hz、50Hz
- ・480p / 60Hz • 1080p / 60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- ・576i / 50Hz • 4K / 60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- ・576p / 50Hz



- ・接続したテレビの性能により、伝送する映像信号の解像度などが変わります。

デジタル音声

・光・同軸

音声フォーマット	詳細	主なメディア
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32 ~ 96kHz、 16 / 20 / 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
ビットストリーム	Dolby Digital、Dolby Digital Surround EX、DTS、DTS-ES、 AAC	DVD-Video

・HDMI (ARC)

音声フォーマット	詳細	主なメディア
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32 ~ 192kHz、 16 / 20 / 24bit	TV
ビットストリーム	Dolby Digital Plus、 Dolby Digital、DTS	TV

本機の無線方式について

無線ネットワーク
(Wi-Fi)
「2.4」
「DS/OF」
「4」
■ ■ ■

2.4 DS/OF 4

「2.4」 2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「DS/OF」 變調方式は DS-SS および OFDM 方式
「4」 想定干渉距離が 40 m 以内
全帯域を回避可能

(Bluetooth)

2.4 FH 1

「2.4」 2.4 GHz 帯を使用する無線設備
「FH」 變調方式は周波数ホッピング (FH-SS) 方式
「1」 想定干渉距離が 10 m 以内
全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

ワイヤレスサブウーファーキットとの通信

「2.4」 2.4GHz 帯を使用する無線設備
「XX」 變調方式はその他の方式
「1」 想定干渉距離が 10m 以内
全帯域を回避可能

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。

2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

IntelliBeam

「インテリビーム」「IntelliBeam」は、ヤマハ株式会社の商標です。

CINEMA DSP 3D
DIGITAL

「シネマ DSP」「CINEMA DSP」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

DOLBY ATMOS[®]

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。 Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Surround、Surround EX およびダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

dts[®]

DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。本製品は DTS, Inc. のライセンスに基づき製造しています。 DTS、そのシンボルマーク、DTS とそのシンボルマークの組み合せ、DTS:X、DTS:X ロゴは米国及びその他の国々における DTS Inc. の登録商標又は商標です。

© DTS, Inc. All Rights Reserved.

HDMI

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」はソニー株式会社の商標です。

AAC

AAC ロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。

 Bluetooth[®]

Bluetooth[®] およびロゴは Bluetooth SIG の登録商標であり、ヤマハ株式会社はライセンスに基づき使用しています。他の商標および商号は、各所有権者の財産です。

Bluetoothについて

• Bluetooth とは、無許可で使用可能な 2.4 GHz 帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

Bluetooth 通信の取り扱いについて

• Bluetooth 対応機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が共存する周波数帯です。

Bluetooth 対応機器は同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。

• 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。

• 本書はすべての Bluetooth 機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

Apple

iTunes、Mac、AirPlay、iPad、iPhone、iPod、iPod touch は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

MusicCast

MusicCast はヤマハ株式会社の登録商標です。

 dlna
CERTIFIED[™]

DLNA[™] および DLNA CERTIFIED[™] はデジタルリビングネットワークアライアンスの登録商標です。無断使用は固く禁じられています。

Windows™

Windowsは米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Internet Explorer、Windows Media Audio、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

Android™

Android および Google Play は、Google Inc. の商標または登録商標です。



Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。

Wi-Fi Protected Setup のマークは Wi-Fi Alliance の認証マークです。
Wi-Fi、Wi-Fi Alliance、Wi-Fi CERTIFIED、Wi-Fi Protected Setup、
WPA、WPA2 は Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。

「ブルーレイ™」および「ブルーレイディスク™」はブルーレイ
ディスクアソシエーションの商標です。



「ラジコ」、「radiko」および radiko ロゴは株式会社 radiko の登録商
標です。

GPL/LGPL について

本製品は、GPL/LGPL ライセンスが適用されたオープンソースソフトウェアのコードを一部に使用しています。

お客様は GPL/LGPL ライセンスの条件に従い、これらのソフトウェアのソースコードを入手、改変、再配布する権利があります。

GPL/LGPL ライセンスの適用を受けるソフトウェアの概要、ソースコードの入手、GPL/LGPL ライセンスの内容につきましては、以下の弊社ウェブサイトをご覧ください。

<http://download.yamaha.com/sourcecodes/musiccast/>

Bluetooth プロトコルスタック (Blue SDK)

© 1999-2014 OpenSynergy GmbH

All rights reserved. All unpublished rights reserved.

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。



「～しないでください」という「禁止」を示します。



「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

！警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常においや音がする
- 異常に高温になる。
- 内部に水や異物が混入した。
- 煙が出る。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
 - ステーブルで止めない。 ●加工をしない。
 - 熱器具には近づけない。 ●無理な力を加えない。
- 芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ず AC100V (50 / 60Hz) の電源電圧で使用する。それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

他の機器の電源コードは使用しない。火災や故障の原因になります。



禁止

付属の電源コードを他の電気製品に使用しない。火災や、電気製品の故障の原因になります。

電源 / 電源コード



必ず実行

電源コードのアース線は、電源プラグをコンセントに接続する前にコンセントのアース端子に接続する。アース接続を外す場合は、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行う。

火災や感電の原因になります。

電池



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止



禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 本機をおおむけや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
(本機の周囲に左右 5cm、上 5cm、背面 5cm 以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



禁止

医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しない。

電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。



必ず実行

心臓ペースメーカーや除細動器などの装着部分から 22 cm 以上離して使用する。

ペースメーカーや除細動器に影響を与え重大事故につながる場合があります。



必ず実行

十分な耐荷重強度のある、水平で安定した場所に設置する。

傾斜面や、水平でないところ、カーペット、畳などの安定しない面や変形する面などに設置しないでください。

使用上の注意



禁止

放熱用の通風孔から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。



必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。

お手入れ



必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。ほこりがたまつたまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。

プラグを抜く



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

ぬれ手禁止



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

禁止



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不十分なまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。



本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。
本体上面などの ⌂ キーで電源をオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。



必ず実行

電池



電池は極性表示（プラス+とマイナス-）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池は幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。

必ず実行



指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。



リモコンの操作範囲がせまくなったときは、すべての乾電池を新しいものに交換する。
古い乾電池を使用していると、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例、または取り決めに従って廃棄する。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



新しい乾電池を入れる前に、電池ケース内をきれいにふく。
異物が入ると、火災や故障の原因になります。

必ず実行

設置



必ず2人以上で梱包を開き、持ち運びをする。
重いのけがの原因になります。

必ず実行



不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



本機をあおむけや横倒しには設置しない。
故障やけがの原因となることがあります。



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。
突然大きな音が出たり、感電したりすることがあります。



他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害を与えるおそれがあります。また、本機は非防磁のスピーカーを使用しています。他の機器や磁気記憶装置に障害を与えるおそれがあります。



機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。
突然大きな音が出たり、感電することがあります。

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意



再生を始める前には、本機の音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

必ず実行



音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

注意

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。

説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因になります。

必ず実行



業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。



小さな部品は幼児の手の届かないところに保管する。

飲み込んだりすると危険です。

必ず実行

リモコン



水やお茶などの液体をこぼさない。
電池がショートし、破裂や液漏れにより、火災やけがの原因になります。

禁止



落としたり、強い衝撃を与えたまらない。
故障の原因になります。

禁止



下記のような場所に置かない。
● 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
● 暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ
● 極端に寒いところ
● ほこりの多いところ
火災や故障の原因になります。

禁止

お手入れ



お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

必ず実行



薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

禁止

機器を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届く状態でご使用ください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わずとろに迷惑をかけてしまします。適当な音量を心がけ、窓を閉めるなどして使用しましょう。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

本製品は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。

索引

数字

2 チャンネル 39
3D 映像 21
3D サラウンド 5
3D サラウンド再生 36
4K 映像 21

A

AAC 103
ADVANCED 85
AirPlay 63
ARC 21
AUDIO ASSIGN 84
AUDIO DELAY 84
AUTO POWER STANDBY 86

B

BASS 84
Bluetooth 44
Bluetooth (受信) 45
Bluetooth (送信) 47
Bluetooth 機能の設定 82

D

Deep Color 103
DHCP サーバー 49, 80
DLNA サーバー 59
DNS サーバー (P) 79, 80
DNS サーバー (S) 79, 80
Dolby Atmos 103
Dolby Digital 103
Dolby Digital EX 103
Dolby Digital Plus 103
Dolby Surround 103
Dolby TrueHD 103
DTS 75

DTS:X 104

DTS Express 103
DTS Neo:6 103
DTS-HD High Resolution Audio 103
DTS-HD Master Audio 103
DTS デジタルサラウンド 103
D 音声多重キー 42

E

ESS-ID ステルス機能 52

H

HDCP2.2 21
HDMI 104
HDMI 音声出力 76
HDMI ケーブル 21, 22
HDMI コントロール 33, 76

I

iPod 再生 (AirPlay) 63
IP アドレス 79, 80
iTunes 再生 (AirPlay) 63

L

Lch / Rch 位置調整 71

M

MAC アドレス 79
MAC アドレスフィルター 49, 80
MP3 40

N

Neural:X 104

P

PCM 104

PIN コード方式 56

R

radiko.jp 62

S

SSID 79, 104

T

TREBLE 84
TV インプット 76

V

VOLUME TRIM 84
vTuner 61
vTuner ID 79

W

Wi-Fi 104
Wi-Fi 設定を共有 (iOS デバイス) 27, 51
WPS 104
WPS ボタン方式 52

X

x.v.Color 104

あ

明るさの調節 (前面ディスプレイ / インジケーター) 77
アクセスポイント検索 52
アダプティブ DRC 74
アプリ HOME THEATER CONTROLLER (WLAN) 5
アプリ MusicCast CONTROLLER 5
暗号化方式 52, 54, 56, 57

い

インジケーター 7

インターネットラジオ放送 60
インテリビーム 28
インテリビームマイク 28
インテリビームマイク端子 7

え

映画 (シネマ DSP) 38
映像信号情報 78
エコ機能 42
エラー音 30
エラーメッセージ 32
エンタテイメント (シネマ DSP) 38

お

オーディオディレイ 84
オーディオリターンチャンネル 21
オプションメニュー 83
おまかせサラウンド機能 33
音楽 (シネマ DSP) 38
音質調整 31
音声切り替え 42
音声信号情報 78
音量 35
音量バランス 41、74

か

拡張メニュー 85
壁掛け 16
簡易マイクスタンド 28

き

距離単位 77

く

クリアボイス 40

こ

高音 84

さ

サブウーファーの音量 35、41
サブウーファーの接続 24
サブウーファーの設定 73
サブネット 49
サブネットマスク 79、80
サラウンド音声 37
サラウンド再生 37
サンプリング周波数 78、103
サンプリングレート 40

し

システムメモリー 43
自動スタンバイ機能 (AUTO POWER STANDBY) 86
自動設定 (インテリビーム) 28、31
焦点距離 70
情報表示 78
上面 7

す

スイートスポット 70
垂直角度 69
水平角度 69
ステレオ再生 39

せ

セキュリティー 79
セキュリティーキー 55、57
セキュリティソフト 49
設定メニュー 66
前面 7
前面ディスプレイ 7、42

た

ターゲット再生 39
ダイアログリフト 40
ダイナミックレンジ 75
タイミング調整 (映像と音声) 84

ち

チャンネル出力 72
チャンネルレベル 74

て

低音 84
ディマー 77
テスト音 74
デフォルトゲートウェイ 79、80
テレビ 26、33
テレビ音声の入力端子割り当て 76
電源コード 25
転倒防止スタンド 15

と

トーンコントロール 84

に

二カ国語放送 42
入力端子の割り当て (HDMI の音声) 84

ね

ネットワーク機能 48
ネットワーク情報 79
ネットワークスタンバイ 81
ネットワーク名 81

は

背面 8

ひ

ビーム経路長 70
ビーム調整 31
ビーム調整+音質調整 31
光ファイバーケーブル 21、22

ふ

ファームウェアの更新 81、87

ファームウェアのバージョン 78
ファイルフォーマット (パソコン/サーバー) 59
副音声 42

へ

ペアリング 73

ま

マイサラウンド 73
マニュアル設定 54

み

ミュージックエンハンサー 40

む

無線ネットワーク 50
無線 (モバイル端末を直接接続) 57

め

メディア共有設定 59
メニュー画面 26
メニュー言語 77

も

モバイル端末の曲 65

ね

有線ネットワーク 24, 50

り

リフレクションボード 99
リモコン 6, 9
リモコン受光部 7
量子化ビット数 103

わ

ワイヤレスサブウーファーキット 24
ワイヤレスダイレクト 57

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル **0570-011-808**

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル **0570-012-808**

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)
*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

*品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示しております。

●スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

●摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コケくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触るとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

Manual Development Group
© 2015 Yamaha Corporation

2019年1月改訂 KS-B0
Printed in Indonesia

ZS45970